



名城大学要覧

Guide to
Meijo University

2023

立学の精神

穩健中正で実行力に富み、 国家、社会の信頼に値する人材を育成する



平和であたたかく、
穩やかであること。



秩序と調和と
確実さをもって、
支障なく、
力強く前進すること。



謙虚にものごとの
核心をつかみ、
包容力ある
立場にあること。



ものごとに、折り目、
けじめをつけ、
順逆をわきまえて
筋を通すこと。

■ 大学名の由来

戦後の教育改革で昭和22年に学制が改正され、本学園は名古屋専門学校から新制大学へ移行することとなり、大学名を名城大学と決定しました。その経緯は、世間で「尾張名古屋は城でもつ」といわれるように、名古屋城こと名城は名古屋のシンボルであり、光り輝く金のシャチをいただくお城のようにいつまでも輝く大学でありたいとの願いから創立者の田中壽一氏を中心に合議のうえ、名城大学と命名されたと言われています。
(名城大学75年史から抜粋)

■ 名城大学学歌

河合 逸治 作詞 | 信時 潔 作曲

1 番

朝日に匂う鈴鹿嶺
希望に燃ゆる若人が
学理の泉汲むところ
次代を築く榮えになう
名城・名城自由の学府
おゝ名城

2 番

力と技を競いつつ
正しき理想花と咲く
その意気天を衝くところ
獅子の王座は我にあり
名城・名城自由の学府
おゝ名城

3 番

歴史に尚き名城の
文化の精華享け継ぎて
真理の道を践むところ
健児の行手光あり
名城・名城自由の学府
おゝ名城

■ 名城大学ロゴマーク

本学では、入学式・卒業式を始めとする各式典や、大学全体行事、クラブ活動における大会の応援等において、主に次のロゴマークを使用しています。

名城大学



▶ 名城大学(指定文字)

「大学の顔として品格と特徴のある文字をシンボルに」と、1962年に大学協議会で制定。

▶ 校章

新制大学発足時(1949年)から校旗等に採用され、卒業式、入学式等の公式行事に使用。



▶ 鯨のエンブレム

「金の鯨鯨のようにいつまでも光り輝く大学でありたい」と、名城大学の象徴として創設以来使われてきた鯨の図柄を、1993年に意匠化し大学協議会で制定。

▶ マスコット(ライオン)

名城大学学歌2番の「獅子の王座は我にあり」から引用し、名城大学体育会等の学生団体がシンボルとして使用していた図柄を、1993年に統一デザインとして大学協議会で制定。

▶ マスコット(鯨)

文化・学術系課外活動団体のマスコットとして本を持つ鯨をデザインし、1993年に大学協議会で制定。

Contents

立学の精神	1
開学100周年事業	3
開学100周年記念募金	4
アントレプレナーシップ教育	5
データサイエンス教育	6
本学のビジョン	7
大学のあゆみ	9
組織機構図	10
教職員数	12
学生数	13

教育方針	15
学部紹介	17
大学院紹介	19
教職課程・学芸員課程	21
進路・就職支援体制	22
就職実績	25
国際交流	27
産官学連携	29
学術研究	31
教育活動	39

学費・奨学金	45
クラブ活動	48
キャンパスと設備	49
附属図書館	54
愛知県立愛知総合工科高等学校 専攻科	55
附属高等学校	56
校友会	57
交通案内	58

開学100周年事業

REALIZE
実現する、次の100年へ。

世界はいつも、答えを求めている。
社会を発展させるアイデアを。社会課題の解決策を。
手を挙げよう。学んだ先に、いつか必ず。

2026年、名城大学は、開学100年を迎えます。

MEIJOth
MEIJO UNIVERSITY 1926 - 2026

中部から世界へ 創造型実学の **名城大学**



■ 開学100周年事業の意義

100年に及ぶ歴史を礎に、新たな100年の指針を描く、未来志向の100周年事業

本学は、1926年に名古屋高等理工科講習所として開設し、1949年に名城大学として開学しています。1967年、「立学の精神」として本学設置の意義と目的を明確にし、「穏健中正で実行力に富み、国家、社会の信頼に値する人材」を育成するべく、教育、研究、社会貢献に邁進してまいりました。

そして2026年、開学100周年。時代は、大きな変化の渦中にあります。様々な課題が、今後も社会に現れることでしょう。今こそ、積み重ねた歴史を振り返り、原点を見つめ、新たなステージへの一步を。主体的に学び、多様性を知り、専門を深く極め、まだ見ぬ解決策にたどりつく。創造型実学という将来ビジョンを掲げ、先の読めない時代に毅然と顔を上げて、未踏の地を切り拓く人物を育成する、新たな100年へ。

100周年を、学内の意思と行動を束ね、内外に名城大学の存在を示す大きな機会とします。

■ 開学100周年事業の目的

- 1 名城の原点を見つめ直し、100年の歴史の中で積み重ねられた事実を再発見・再整理する機会とする。
- 2 名城大学と附属高等学校とを支えてきた関係者(教育者、卒業生、職員、地域・団体・企業などの支援者)への感謝を伝える機会とする。
- 3 次の100年のスタートとし、学内の施設や教育環境を整え、新しい教育・研究活動を創出する機会とする。
- 4 将来ビジョンのもと、名城大学の新しいブランドを構築する機会とする。
- 5 上記を整理し、発信することで、学内の意思と行動の統一、学外へは名城大学と附属高等学校を改めてPRする機会とする。

■ <次の100年のために>将来ビジョン

中部から世界へ創造型実学の名城大学

世界を変える人は「引力」を持っている。

様々な課題に直面したとき、物事の中心に立ち、解決するための知識、技術、アイデアを集め、具体化する力。それを身につける学びが、名城大学が掲げる「創造型実学」。



開学100周年記念募金



■ 開学100周年記念募金

時代を担う人材の育成。教育・研究を通じた社会への成果還元。それらの実現のため、さまざまな記念事業を推進してまいります。



■ テーマ

施設・連携活動を通じて
社会に開かれた学び舎へ

創造型実学を身に着ける
教育環境の実現

社会課題に立ち向かう プロジェクトの推進

■ 2023年4月スタート!返礼品付寄付サイト「名城ギフト」

名城大学開学100周年記念募金へのご寄付は、開学100周年記念事業のために活用させていただきます。
「名城ギフト」からご寄付いただくと、バリエーションに富んだ返礼品からお好きな品をお選びいただけます。

■ 寄付金の使途

- (仮称)名城大学天白キャンパス全学共用棟新築
- 開学100周年記念施設新設
- 「中部から世界へ」国際化推進
- 「創造型実学」奨学金
- 社会連携活動、研究推進など



アントレプレナーシップ教育



■ 社会の課題に立ち向かい、新たな価値を創り出すアントレプレナーシップ教育

地球規模で起こるエネルギー・資源・食料などの制約や環境問題、国内の少子高齢化や人口減少など、これまでの枠組みや従来の延長では対応できない課題が顕在化しています。アントレプレナーシップとは、自ら課題を発見し、周囲のリソースや環境の制限を越えて行動を起こし、新たな価値を生み出していく精神。本学は、この新たな価値創造の担い手としてアントレプレナーシップを備えた人材育成を推進します。



■ アントレプレナーシップ正課授業・正課外プログラム

正課授業	情報工学部 1年次 「創造的思考法」 イノベーションを創出するプロセスの理解と体験	農学部 2年次 「農学特別講義2」 「食」をテーマとした製品・サービス開発論: デザイン思考、マーケティング、事業創造のノウハウを学ぶ	都市情報学部 3年次 「都市の再生」 まちづくりの実践から学ぶ
	経営・経済学部2年次 「起業講座」 経営者から実践的な組織運営の理念や方法を学ぶ		
正課外プログラム	 動機形成 意識醸成	 アイデア検証	 共創・実践
	AI・IoT人材育成 (入門編) ものづくりセミナー 起業家育成プログラムEXPLORER (BASIC) 起業家等トークイベント 動機形成セミナー	起業家育成プログラム EXPLORER (ADVANCED) 事業づくり仮説検証プログラム DONUTS ～社会課題に挑む学生起業家向けプログラム AI・IoT人材育成 (実践編)	HackU名城大学 リーダーシップ開発プログラム iMPACT プロスポーツビジネス研究会 産学連携プログラム

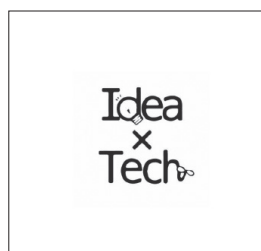
■ コミュニティづくり



起業家精神を育むコミュニティ

MEIJO STARTUP CLUB

名城大学内で起業を知るきっかけとなるイベントを開催し、「Tongali アイデアピッチコンテスト」への参加や参加者への支援を行っています。自分のアイデアを形にして、改善し続けるコミュニティです。



アイデアと技術力を繋げる

Idea×Tech

アイデアを持つ学生と技術力を上げたい学生を繋げ、コミュニティで作成したアイデアをアイデアソン・ビジネスコンテストに出し入賞を目指します。Web開発・AI開発・ゲーム開発を通じ、開発の楽しさを共有するコミュニティです。

データサイエンス教育



見つける。
ひもとく。
世界を変える。



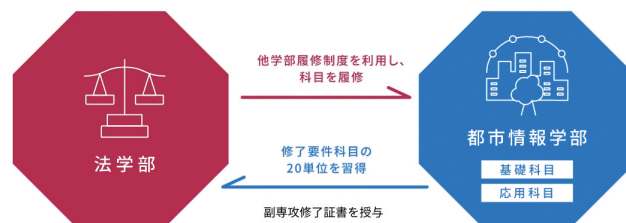
本学は2022年4月に多種多様な分野で活躍する、次世代の情報エンジニアを育成する「情報工学部」を開設。さらに、文理を問わず全学生が受講でき、データサイエンス・AIの知識理解を深め、これらを活用する基礎能力を身につけられる「データサイエンス・AI入門」をスタートさせました。

■ 2023年4月データサイエンス教育のさらなる充実へ 「データサイエンス・AI 副専攻」開始

この副専攻は、多くの産業分野で重要な役割を果たしているデータサイエンスの知識が学べるようにデザインされたプログラムで、全学部が履修できます。所属する主専攻で学んだ専門知識とAI活用能力を使って、変化し続ける社会の中で、さまざまな困難な課題を解決し、より良い未来を作り出すことのできる人材の育成を目指します。

副専攻プログラム名称	提供学部	対象となる学生
データサイエンス・AI (A)	都市情報学部	法学部生、経営学部生、経済学部生、人間学部生、外国語学部生
データサイエンス・AI (B)	情報工学部	理工学部生、農学部生、薬学部生

【例】法学部に所属し、「データサイエンス・AI (A)」の副専攻プログラムを履修する場合



■ 都市情報学部と情報工学部対象 「数理・データサイエンス・AI」の応用基礎レベルプログラム

専門分野で活用できる応用基礎力を修得する目的で、都市情報学部と情報工学部で「数理・データサイエンス・AI」応用基礎レベルのプログラムをスタートします。このプログラムは、数理・データサイエンス・AIを活用して課題を解決するための実践的な能力を身に着けるために必要な知識や技術を体系的に学びます。

* 2023年度末に文部科学省による「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（応用基礎レベル）」に申請予定。認定後は、就職活動にも活用できる修了証を発行予定。

本学のビジョン

本法人は、1926年開設の名古屋高等理工科講習所を源流とし、歴史と伝統に輝く中部地区屈指の教育機関として、これまでに20万人を超える卒業生を輩出してまいりました。

また本法人の立学の精神である「穏健中正で実行力に富み、国家、社会の信頼に値する人材を育成する」のもと、「実学」を重視した教育・研究を展開しています。その結果、本学の卒業生について産業界の皆様から、「実務処理能力に秀れており、困難に直面しても屈しない」と高い評価をいただいております。

今日の社会は、グローバル化、少子高齢化、ロボットやAI（人工知能）の台頭、産業・就業構造の変容、更には新型コロナウイルス感染症の世界的流行により、人々の暮らしや働き

方に大きな変化が生じ、これまでの常識が通用しない、将来予測が困難な時代を迎えています。このような時代には、どのような困難に直面してもくじけず、「先見性、多様性、専門性を身に着けた実行力・実現力」のある人材が必要不可欠であります。

名城大学および名城大学附属高等学校は、社会からの期待に応え、新たな時代を担う人材を育成するために、創設以来の歴史と伝統を受け継ぎ、さらなる成長を目指してまいります。今後とも皆さまのご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



学校法人名城大学 理事長 立花 貞司

大阪府出身。京都大学法学部卒業。トヨタ自動車工業株式会社（現 トヨタ自動車株式会社）入社、取締役などを歴任後、トヨタホーム株式会社取締役社長に就任（兼任）。その後、トヨタ自動車株式会社専務取締役、トヨタホーム株式会社取締役会長、ミサワホーム株式会社取締役会長、名古屋商工会議所副会頭、愛知県公安委員会委員などを歴任。2017年7月から本学理事を務め、18年7月に理事長就任。13年国土交通大臣表彰、15年藍綬褒章。愛知県私立大学協会会長、名古屋市経営アドバイザーを現任。

■ 学校法人名城大学の基本戦略

MS-26

本学では、2015年度から、開学100周年にあたる2026年を目標年とする新たな戦略プラン「Meijo Strategy-2026」【通称：MS-26】を推進しています。

2026年は、本法人の礎となる「名古屋高等理工科講習所」の開設から100年という節目の年になります。

MS-26に掲げるビジョンは、本学の志であり、学生・生徒が卒業・修了後に本学を卒業・修了して良かったと思える大学・高等学校づくりをめざします。

■ 共有する価値観（VALUE）

生涯学びを楽しむ Enjoy Learning for Life

「生涯学びを楽しむ」という言葉は、すべての学生・生徒が本学の教育によって「学が楽しさ」に気づき、卒業・修了後も、それぞれの多彩なコミュニティの中で、さまざまな人や文化と出会い、人生を楽しみながら生涯学び続けてほしいという願いを込めました。また、教職員に対しても、「学が楽しさ」「教える楽しさ」「仕事の楽しさ」を実感し、有意義な日々を送ってほしいというメッセージが込められています。

昨今、大学を取り巻く環境は、情報通信をはじめとした先端技術の高度化、グローバル化や国際関係の変容、少子高齢化など、様々な要因が複雑に絡み合い、これまで経験したことがないほど不透明さを増しています。加えて2020年から世界中で猛威を振るった新型コロナウイルス感染症拡大を契機に、教育の在り方に関する社会的関心は一層高まり、教育機関には、学生・生徒・社会に対してより魅力ある教育研究機会を提供することが求められています。

こうした状況下において本学では、開学100周年にあたる2026年を目標年とする戦略プランであるMS-26 (Meijo Strategy-2026)を2015年度から推進しています。このプランでは、本学に関わる全ての人達と「生涯学びを楽しむ」という価値観を共有するものとなっており、学生が在学中に「学び」を通じて満足感を体感できる多種多様な

機会を創出し、学生の「学び」に対する主体性を引き出す取り組みを推進しています。

私は、名城大学を、名実ともに中部地区で最も活力ある大学にすることを目指しています。具体的には、学生諸君が卒業後に幅広い分野で中心的な役割を担う人材として活躍し、社会から高い評価を受け充実した人生を送ることができるよう、専門知識や教養、国際性を身につける学び、友人との出会いの機会に溢れた大学に進化させることを考えています。そのために、教職員の力を結集し、名城大学をワンランク上の大学に押し上げるべく邁進してまいります。

皆様におかれましては、本学の教育・研究活動にご理解とご協力賜りますよう、よろしくお願いいたします。



名城大学 学長 小原 章裕

名城大学農学部農芸化学科卒業後、神戸大学大学院に進学。農学研究科農芸化学専攻修士課程、自然科学研究科資源生物科学専攻博士課程を修了し、学術博士の学位を取得。日本栄養・食糧学会中部支部などの国民栄養の向上をめざす学会にも幅広く参与。1998年から本学農学部で教鞭をとり、2019年に学長就任。

OUR VISION (2026年までに達成したいあるべき姿)

名城大学

多様な経験を通して、学生が大きく羽ばたく「学びのコミュニティ」を創り広げる

名城大学附属高等学校

「多様な経験」を創り出す「挑戦する学校」

OUR MISSION (私たちが果たすべき使命)

名城大学

教育ミッション：主体的に学び続ける「実力ある教養人」を育てる
研究ミッション：「学問の探究と理論の応用」を通して、成果を教育と社会に還元する
社会貢献ミッション：社会との「人的交流」を通して、地域の活性化に貢献する

名城大学附属高等学校

教育ミッション：「主体的に学ぶ力」と「突破力」を備えた生徒を育成する
社会貢献ミッション：「人的交流」や「学習活動」を通して、社会的責任を果たす

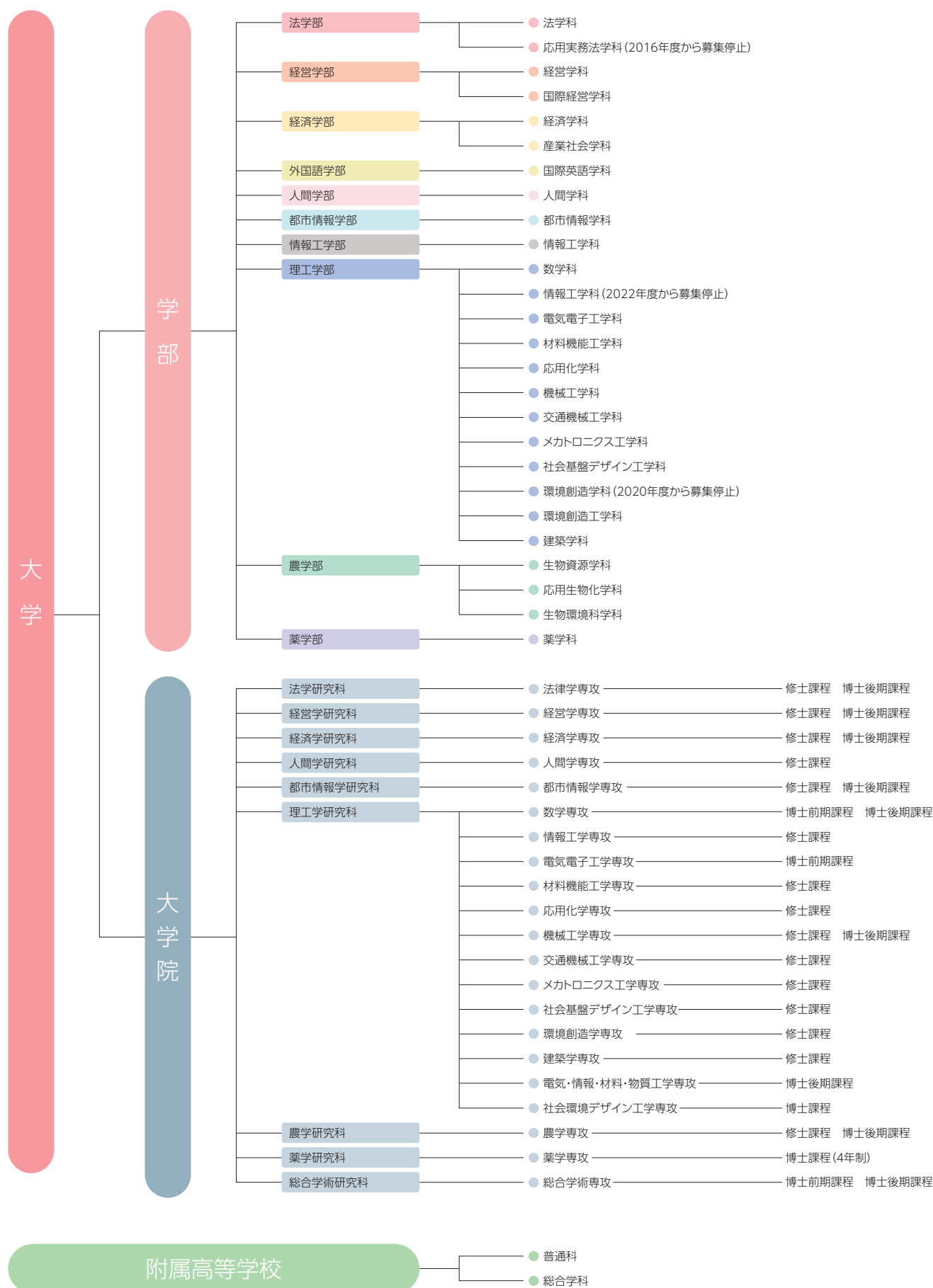
大学のあゆみ

沿革

1926	大正 15年 5月	田中壽一氏により名古屋高等理工科講習所開設	2002	14年 4月	大学院経済学研究科経済学専攻博士後期課程設置 大学院理工学研究科数学専攻博士前期課程・情報科学専攻修士課程・電気電子工学専攻博士前期課程・材料機能工学専攻修士課程・機械システム工学専攻修士課程・交通科学専攻修士課程・建設システム工学専攻修士課程・環境創造学専攻修士課程・建築学専攻修士課程設置 大学院総合学術研究科総合学術専攻博士前期課程・博士後期課程設置
1928	昭和 3年 4月	名古屋高等理工科学校開校	2003	15年 4月	人間学部人間学科設置 大学院経営学研究科経営学専攻博士後期課程設置 大学院薬学研究科臨床薬学専攻修士課程・生命薬学専攻修士課程設置
1946	21年 10月	財団法人名古屋高等理工科学園設立		5月	薬学部薬学科・製薬学科廃止
1947	22年 9月	名古屋専門学校設置	2004	16年 4月	理工学部情報工学科設置 大学院法務研究科法務専攻専門職学位課程設置 大学院理工学研究科電気電子工学専攻博士後期課程を電気電子・情報・材料工学専攻博士後期課程に、同建設工学専攻博士課程を社会環境デザイン工学専攻博士課程に名称変更
1949	24年 4月	名城大学開学 商学部第一部・第二部設置		7月	大学院薬学研究科修士課程医療薬学専攻・博士前期課程薬学専攻廃止
1950	25年 4月	法学部第一部法学科・商学科、同第二部法学科・商学科増設 理工学部第一部数学科・電気工学科・機械工学科・建設工学科、同第二部数学科・電気工学科・機械工学科・建設工学科増設 農学部農学科増設 商学部、商学部二部廃止 短期大学部併設、商経科第一部・第二部設置	2005	17年 4月	農学部生物環境科学科設置 5月 大学院理工学研究科修士課程数学専攻・電気電子工学専攻・機械工学専攻・土木工学専攻・建築学専攻を廃止 7月 短期大学部廃止
1951	26年 3月	組織変更により学校法人名城大学設立	2006	18年 4月	薬学部薬学科(6年制)設置 大学院大学・学校づくり研究科大学・学校づくり専攻修士課程設置
1954	29年 4月	組織変更により学校法人名城大学設立 4月 教職課程部設置		5月	商学部二部商学科廃止 理工学部一部数学科・電気電子工学科・機械工学科・交通機械学科・土木工学科・建築学科廃止 農学部農学科・農芸化学科廃止
1954	29年 4月	薬学部薬学科増設 短期大学部電気科第一部・機械科第一部増設 大学院商学研究科商学専攻修士課程設置		11月	商学部商学科・経済学科廃止
1965	40年 4月	理工学部第一部交通機械学科増設 薬学部製薬学科増設 12月 本部および法学部第一部、大学院商学研究科、短期大学部商経科第一部が駒方校地から天白校地に移転	2007	19年 5月	法学部二部法学科廃止 理工学部二部数学科・電気電子工学科・機械工学科・交通機械学科・土木工学科・建築学科廃止
1966	41年 4月	大学院薬学研究科薬学専攻修士課程増設		12月	理工学部数学科・電気電子工学科・機械工学科・交通機械学科・土木工学科・建築学科廃止 大学院商学研究科商学専攻修士課程・博士後期課程廃止
1967	42年 4月	法学部一部法学科、同二部法学科設置 商学部一部商学科、同二部商学科設置 大学院法学研究科法学専攻修士課程増設 理工学部一部電気工学科・機械工学科・交通機械学科が中村校地から天白校地に移転	2008	20年 4月	大学院理工学研究科情報科学専攻修士課程を情報工学専攻修士課程に名称変更 商学部一部商学科・経済学科廃止
1968	43年 4月	理工学部一部数学科・建設工学科が中村校地から天白校地に移転 12月 農学部が鷹来校地から天白校地に移転		6月	法学部一部法学科廃止
1969	44年 3月	短期大学部電気科第一部・機械科第一部廃止 4月 大学院法学研究科法学専攻博士後期課程増設	2011	23年 4月	大学院人間学研究科人間学専攻修士課程設置 理工学部交通科学科を交通機械工学科に名称変更 LED共同研究センター開設
1971	46年 4月	大学院薬学研究科薬学専攻博士後期課程増設		5月	理工学部情報科学科廃止 大学院薬学研究科臨床薬学専攻修士課程・生命薬学専攻修士課程廃止
1972	47年 4月	農学部農芸化学科増設	2012	24年 4月	大学院薬学研究科薬学専攻博士課程(4年制)設置 薬学部医療薬学科・薬学科(4年制)廃止
1973	48年 4月	理工学部一部土木工学科・建築学科、同二部交通機械学科・土木工学科・建築学科増設 理工学部一部建設工学科、同第二部建設工学科廃止 大学院農学研究科農学専攻修士課程増設	2013	25年 4月	理工学部応用化学科・メカトロニクス工学科設置 理工学部機械システム工学科を機械工学科に、同建設システム工学科を社会基盤デザイン工学科に名称変更
1975	50年 4月	薬学専攻科薬学専攻設置	2015	27年 1月	大学院薬学研究科薬学専攻博士後期課程廃止
1976	51年 4月	商学部一部経済学科増設 大学院農学研究科農学専攻博士後期課程増設		4月	大学院理工学研究科交通科学専攻修士課程を交通機械工学専攻修士課程に名称変更
1977	52年 3月	短期大学部商経科第二部廃止 4月 大学院工学研究科電気工学専攻・土木工学専攻・建築学専攻修士課程増設	2016	28年 4月	外国語学部国際英語学科設置
1986	61年 4月	理工学部一部・二部電気工学科を電気電子工学科に名称変更 大学院工学研究科電気工学専攻を電気電子工学専攻に名称変更	2017	29年 4月	大学院理工学研究科応用化学専攻修士課程・メカトロニクス工学専攻修士課程設置 大学院理工学研究科機械システム工学専攻修士課程を機械工学専攻修士課程に、同建設システム工学専攻修士課程を社会基盤デザイン工学専攻修士課程に名称変更
1990	平成 2年 4月	大学院工学研究科機械工学専攻修士課程増設		7月	大学院大学・学校づくり研究科廃止
1992	4年 4月	大学院工学研究科機械工学専攻博士後期課程・建設工学専攻博士課程増設	2019	31年 4月	大学院理工学研究科電気電子・情報・材料工学専攻博士後期課程を電気・情報・材料・物質工学専攻博士後期課程に名称変更
1993	5年 4月	大学院工学研究科電気電子工学専攻博士後期課程・数学専攻修士課程設置 大学院工学研究科を理工学研究科に名称変更	2020	令和 2年 4月	理工学部環境創造工学科設置
1995	7年 4月	都市情報学部都市情報学科設置 大学院商学研究科商学専攻博士後期課程設置 大学院理工学研究科数学専攻博士後期課程設置		7月	大学院法務研究科廃止
1996	8年 4月	薬学部医療薬学科・薬学科設置 大学院薬学研究科医療薬学専攻修士課程・薬学専攻博士前期課程設置	2022	令和 4年 4月	情報工学部情報工学科設置
1999	11年 4月	法学部法学科・応用実務法学科設置 農学部生物資源学科・応用生物化学科設置 大学院都市情報学研究科都市情報学専攻修士課程設置 商学部一部を商学部へ名称変更 理工学部一部を理工学部へ名称変更			
2000	12年 4月	経営学部経営学科・国際経営学科設置 経済学部経済学科・産業社会学科設置 理工学部数学科・情報科学科・電気電子工学科・材料機能工学科・機械システム工学科・交通科学科・建設システム工学科・環境創造学科・建築学科設置 短期大学部情報国際科設置 大学院経済学研究科経済学専攻修士課程設置			
2001	13年 4月	大学院経営学研究科経営学専攻修士課程設置 大学院都市情報学研究科都市情報学専攻博士後期課程設置			

組織機構図

■ 教育組織図 (2023年4月1日現在)



教職員数

■ 教職員数 (2023年6月1日現在)

教育職員497人 事務職員等283人 附属高等学校103人 合計883人

■ 教育職員

※()内は外国人数の内数 (人)

	教授		准教授		助教		講師(特任講師含む)		助手(特任助手含む)		教務技師		計
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
学長	1												1
法学部	23	3	12	5(1)		1			1				45(1)
経営学部	18	2	6	2	1(1)								29(1)
経済学部	14(1)	4	5	4	1				1				29(1)
外国語学部	9(3)	1	5(2)	3	1		5(5)	2					26(10)
人間学部	10	5	3(1)	2	1(1)	1							22(2)
都市情報学部	22(1)	2		1	1	2			1				29(1)
情報工学部	11	1	6		3				1				22
理工学部	87(2)	5	46	5	10	2	4		1				160(2)
農学部	20(1)		18		5	2			5				50(1)
薬学部	26	2	21(1)	4	8	3			3	3		1	71(1)
理工学研究科	4												4
教職センター	6		1	1									8
国際化推進センター													0
名城大学	1												1
合計	252	25	123	27	31	11	9	2	13	3	0	1	497(20)

■ 事務職員等

(人)

	男	女	計
監査室	2	0	2
法人及び大学	3	0	3
総合企画部	8	4	12
総務部	18	8	26
渉外部	7	4	11
財務部	5	7	12
施設部	9	3	12
東京オフィス	1	0	1
開学100周年事業室	1	1	2
社会連携センター	2	2	4
入学センター	10	7	17
学務センター	15	21	36
障がい学生支援センター	1	1	2
教職センター	2	2	4
大学教育開発センター	2	2	4
学術研究支援センター	8	9	17
キャリアセンター	10	7	17
国際化推進センター	5	5	10
情報センター	5	0	5
附属図書館	5	4	9
学部事務室等	40	34	74
ドーム前キャンパス事務室	3	0	3
合計	162	121	283

■ 附属高等学校

(人)

	男	女	計
教諭等	70	26	96
事務職員	2	5	7
合計	72	31	103

学生数

■ 在籍者数一覧(2023年5月1日現在)

学部

(人)

学部	学科	1年次			2年次			3年次			4年次			5年次			6年次			合計		
		男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
法学部	法学科	294	137	431	316	135	451	267	129	396	305	151	456							1,182	552	1,734
	応用実務法学科																					
	法学部 計	294	137	431	316	135	451	267	129	396	305	151	456							1,182	552	1,734
経営学部	経営学科	124	90	214	145	119	264	136	90	226	139	90	229							544	389	933
	国際経営学科	43	57	100	39	51	90	50	55	105	51	42	93							183	205	388
	経営学部 計	167	147	314	184	170	354	186	145	331	190	132	322							727	594	1,321
経済学部	経済学科	178	50	228	167	61	228	172	47	219	179	32	211							696	190	886
	産業社会学科	70	42	112	62	40	102	73	36	109	87	29	116							292	147	439
	経済学部 計	248	92	340	229	101	330	245	83	328	266	61	327							988	337	1,325
理工学部	数学科	82	18	100	66	16	82	73	15	88	70	14	84							291	63	354
	情報工学科				5		5	145	21	166	143	11	154							293	32	325
	電気電子工学科	162	10	172	150	7	157	149	5	154	153	7	160							614	29	643
	材料機能工学科	69	12	81	79	13	92	61	12	73	76	8	84							285	45	330
	応用化学科	44	17	61	52	36	88	45	19	64	38	27	65							179	99	278
	機械工学科	143	13	156	152	13	165	114	4	118	118	6	124							527	36	563
	交通機械工学科	116	11	127	165	4	169	113	9	122	115	7	122							509	31	540
	メカトロニクス工学科	84	9	93	82	7	89	75	7	82	78	13	91							319	36	355
	社会基盤デザイン工学科	69	21	90	92	11	103	69	17	86	67	15	82							297	64	361
	環境創造工学科	68	15	83	56	16	72	62	15	77	52	18	70							238	64	302
	環境創造学科										5	1	6							5	1	6
	建築学科	114	43	157	110	46	156	101	53	154	104	49	153							429	191	620
	理工学部 計	951	169	1,120	1,009	169	1,178	1,007	177	1,184	1,019	176	1,195							3,986	691	4,677
農学部	生物資源学科	49	43	92	72	69	141	60	53	113	61	49	110							242	214	456
	応用生物化学科	23	73	96	39	78	117	37	71	108	39	72	111							138	294	432
	生物環境科学科	77	58	135	78	68	146	71	47	118	54	44	98							280	217	497
	農学部 計	149	174	323	189	215	404	168	171	339	154	165	319							660	725	1,385
薬学部(6年)	薬学科	98	222	320	114	209	323	95	184	279	83	175	258	78	155	233	86	171	257	554	1,116	1,670
	薬学部(6年) 計	98	222	320	114	209	323	95	184	279	83	175	258	78	155	233	86	171	257	554	1,116	1,670
都市情報学部	都市情報学科	196	58	254	191	69	260	159	61	220	180	52	232							726	240	966
	都市情報学部 計	196	58	254	191	69	260	159	61	220	180	52	232							726	240	966
人間学部	人間学科	73	189	262	60	175	235	59	181	240	75	159	234							267	704	971
	人間学部 計	73	189	262	60	175	235	59	181	240	75	159	234							267	704	971
外国語学部	国際英語学科	45	96	141	45	93	138	32	104	136	37	105	142							159	398	557
	外国語学部 計	45	96	141	45	93	138	32	104	136	37	105	142							159	398	557
情報工学部	情報工学科	168	22	190	160	23	183													328	45	373
	情報工学部 計	168	22	190	160	23	183													328	45	373
学部 合計		2,389	1,306	3,695	2,497	1,359	3,856	2,218	1,235	3,453	2,309	1,176	3,485	78	155	233	86	171	257	9,577	5,402	14,979

■ 研究生

(人)

区分	学部・研究科	男	女	計
学部	法学部			
	経営学部	1		1
	経済学部			
	理工学部		1	1
	農学部	1		1
	薬学部			
	都市情報学部			
	人間学部			
	外国語学部			
	情報工学部			
	小計	2	1	3
大学院	法学研究科			
	経営学研究科			
	経済学研究科			
	理工学研究科			
	農学研究科	1		1
	薬学研究科		1	1
	都市情報学研究科			
	人間学研究科			
	総合学術研究科			
	小計	1	1	2
合計		3	2	5

■ 科目等履修生

(人)

区分	学部・研究科	通常の科目等履修生			交換留学生			科目等履修生合計		
		男	女	計	男	女	計	男	女	計
学部	法学部	1		1		4	4	1	4	5
	経営学部				1	5	6	1	5	6
	経済学部	1		1				1		1
	理工学部	2		2				2		2
	農学部		2	2					2	2
	薬学部									
	都市情報学部									
	人間学部				1	2	3	1	2	3
	外国語学部				4	4	8	4	4	8
	情報工学部									
	教職課程									
	学芸員課程									
	小計	4	2	6	6	15	21	10	17	27
大学院	法学研究科	4	4	8				4	4	8
	経営学研究科									
	経済学研究科									
	理工学研究科									
	農学研究科									
	薬学研究科									
	都市情報学研究科									
	人間学研究科									
	総合学術研究科									
	小計	4	4	8	0	0	0	4	4	8
合計		8	6	14	6	15	21	14	21	35

研究科

(人)

研究科	専攻・課程		1年次			2年次			3年次			4年次			合計		
			男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
法学研究科	法律学専攻	修士課程	2	5	7	2		2							4	5	9
経営学研究科	経営学専攻	修士課程	2	3	5	2	1	3							4	4	8
経済学研究科	経済学専攻	修士課程				3		3							3		3
理工学研究科	数学専攻	博士前期課程	4		4	6		6							10		10
	情報工学専攻	修士課程	15	4	19	27	1	28							42	5	47
	電気電子工学専攻	博士前期課程	39	2	41	37	4	41							76	6	82
	材料機能工学専攻	修士課程	25	2	27	21	10	31							46	12	58
	応用化学専攻	修士課程	11	4	15	17	3	20							28	7	35
	機械工学専攻	修士課程	22	2	24	38	2	40							60	4	64
	交通機械工学専攻	修士課程	21	2	23	16	2	18							37	4	41
	メカトロニクス工学専攻	修士課程	33	2	35	29	6	35							62	8	70
	社会基盤デザイン工学専攻	修士課程	9		9	7	1	8							16	1	17
	環境創造学専攻	修士課程	3	1	4	3		3							6	1	7
	建築学専攻	修士課程	10	2	12	8	1	9							18	3	21
	理工学研究科 計		192	21	213	209	30	239							401	51	452
農学研究科	農学専攻	修士課程	36	13	49	17	23	40							53	36	89
都市情報学研究科	都市情報学専攻	修士課程	2		2	2		2							4		4
総合学術研究科	総合学術専攻	博士前期課程		1	1											1	1
人間学研究科	人間学専攻	修士課程	1		1		1	1							1	1	2
修士課程・博士前期課程 合計			235	43	278	235	55	290							470	98	568
法学研究科	法律学専攻	博士後期課程	1		1		1	1	1	2	3				2	3	5
経営学研究科	経営学専攻	博士後期課程															
経済学研究科	経済学専攻	博士後期課程							2		2				2		2
理工学研究科	電気・情報・材料・物質工学専攻	博士後期課程				1		1	2		2				3		3
	電気電子・情報・材料工学専攻	博士後期課程															
	社会環境デザイン工学専攻	博士課程				3		3	4	1	5				7	1	8
	数学専攻-	博士後期課程	1		1										1		1
	機械工学専攻-	博士後期課程	3		3	3		3	3		3				9		9
理工学研究科 計			4		4	7		7	9	1	10				20	1	21
農学研究科	農学専攻	博士後期課程	4		4	3		3	1		1				8		8
都市情報学研究科	都市情報学専攻	博士後期課程	1		1	1		1	1		1				3		3
総合学術研究科	総合学術専攻	博士後期課程	1		1										1		1
薬学研究科 (4年)	薬学専攻	博士課程	3	1	4	4		4	1		1	2	2	4	10	3	13
博士課程・博士後期課程 合計			14	1	15	15	1	16	15	3	18	2	2	4	46	7	53
大学院 合計			249	44	293	250	56	306	15	3	18	2	2	4	516	105	621

学生数

大学院研修生

(人)

区分	研究科	男	女	計
大学院	法務研究科	3	4	7
合計		3	4	7

特別聴講生

(人)

区分	研究科	男	女	計
大学院	法学研究科		1	1
	経営学研究科			
	薬学研究科			
合計		0	1	1

在籍者数集計

(人)

区分	男	女	計
学部	9,577	5,402	14,979
研究科	516	105	621
合計	10,093	5,507	15,600

社会人特別履修生

(人)

区分	研究科	男	女	計
大学院	薬学研究科			
合計		0	0	0

特別研究生

(人)

区分	研究科	男	女	計
大学院	薬学研究科			
合計		0	0	0

単位互換履修生

(人)

区分	研究科	男	女	計
学部	法学部			
	経営学部			
	経済学部			
	理工学部			
	農学部			
	薬学部			
	都市情報学部			
	人間学部			
	外国語学部		1	1
	情報工学部			
合計		0	1	1

非正規生

(人)

区分	男	女	計
研究生	3	2	5
科目等履修生	14	21	35
特別聴講生		1	1
単位互換履修生		1	1
大学院研修生	3	4	7
社会人特別履修生			
特別研究生			
合計	20	29	49

教育方針

■ 名城大学の3つのポリシー、アセスメント・ポリシー

卒業の認定に関する方針(学位授与方針) [ディプロマ・ポリシー]

名城大学は、「穏健中正で実行力に富み、国家、社会の信頼に値する人材を育成する」という立学の精神に基づき、次の資質・能力を身につけた学生に学位を授与します。

- 1 幅広い教養を身につけ、広い視野に立って物事の公正な判断をすることができる。
- 2 専門分野に熟達し、社会における諸問題の解決のためにその知識・能力を活用できる。
- 3 主体的に学び続け、学んだことを分かち合い、共に成長することができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針[カリキュラム・ポリシー]

名城大学は、各学科の教育目標を達成し、学位授与方針に示す資質・能力を身につけさせるため、次のような教育課程を編成し、実施します。

- 1 人文・社会・自然科学、語学、情報技術、体育等からなる教養教育課程を体系的に編成し、様々な価値観に触れ、物事を正しく理解し表現できるようにする。
- 2 専門教育課程を体系的に編成し、講義・演習・実験・実習等を適切に組み合わせた授業を実施することにより、専門分野の知識・能力を確実に修得し、問題解決のために活かすことができるようにする。
- 3 初年次教育や演習・実験・実習科目を中心に能動的学修の要素を取り入れることにより、生涯にわたって主体的に学び、他者との相互理解や意見交換ができるようにする。
- 4 学修成果に対する厳格な成績評価と単位認定を行うとともに、学修行動調査やGPA、修得単位数に基づく個別指導を行うことにより、個々の達成度と将来計画に応じた学修を進めることができるようにする。

入学者の受入れに関する方針[アドミッション・ポリシー]

名城大学は、高等学校等における学習を通して、次のような資質・能力を身につけている人を受入れます。

- 1 大学での学修の基礎となる高等学校における各教科の基本事項を修得している。
- 2 入学を希望する学科での学修成果を社会で活かすという目的意識がある。
- 3 大学在学中だけでなく、卒業後も学び続ける意欲がある。

アセスメント・ポリシー

名城大学では、ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)に掲げる能力・資質等について、以下の評価方法によって学修到達目標の達成状況を確認し、教育の改善を図ります。

大学及び学科レベルでは、ディプロマ・ポリシーの科目群ごとのGPAの数値に加えて、単位取得状況、学修行動調査、卒業時調査及び学生アンケートにより評価する。

科目レベルでは、シラバスに記載してある方法で成績評価を行う。

評価は、テストやレポートなど科目の内容に合わせた方法で実施する。

卒業研究については、各学部が定める評価基準に基づいて卒業論文等の成果を評価し、大学及び学科レベルでは、その集計値で評価する。

学部紹介

より幸福な社会をつくるために
リーガルマインドを持つ人材を育成。

法学部

Faculty of Law

- 法学科

キャンパス／天白キャンパス 学部開設／1967年(昭和42年)
[1950年(昭和25年)法商学部として誕生、1967年(昭和42年)改組]

私たちは、さまざまな場面で常に判断を求められていますが、独りよがりには陥らないためには、正確で広範な知識が必要です。さらに、人と議論し価値観を共有していくスキルや、社会の変化を敏感にとらえる感性も欠かせません。法学部ではこれらを総合したリーガルマインドを身につけ、現代社会の複雑な課題を解決できる人材を育成します。公務員をめざす「行政専門コース」、法の専門職をめざす「法専門コース」、幅広い法分野の基礎を確実に修得する「法総合コース」の3コースを設置しています。さらに、法的素養に加えて語学力の向上をめざす「国際法文化プログラム(英語)」と「アジア法政プログラム(中国語)」を設置しています。

身近な生活と国際社会の接点で変動する、
さまざまな組織と人の未来を考える。

経営学部

Faculty of Business Management

- 経営学科 ● 国際経営学科

キャンパス／天白キャンパス 学部開設／2000年(平成12年)
[1949年(昭和24年)商学部として誕生、2000年(平成12年)改組]

経営学では、企業だけではなく自治体や学校、NPOなどさまざまな組織体が学びの対象となります。また、消費者や生活者である人間の心理や行動なども対象になります。同時に、ヨーロッパの財政危機やアジア諸国の急成長は、私たちが日頃接している地元の企業や商店などにどのような影響をおよぼしているかなど、新聞やテレビなどで話題になった身近な問題も取り上げます。このような学びを通じて、広汎な教養と実践的能力、さらに開拓者精神にあふれる創造的な知性と、豊かな人間性を備えた、これからの社会で活躍できる人材を養成します。

世界、日本、地域社会、そして自分…
経済を知ること、あらゆる未来が見えてくる。

経済学部

Faculty of Economics

- 経済学科 ● 産業社会学科

キャンパス／天白キャンパス 学部開設／2000年(平成12年)
[1949年(昭和24年)商学部として誕生、2000年(平成12年)改組]

「経済」は常に時代とともにあり、社会の動きすべてにかかわっています。いわば「経済」は社会の基盤ともいえます。国内外の経済が大きな転換期を迎えている今、経済学はさまざまな問題を解決していく使命を担っています。経済学部では、自ら体験し、実感し、考える豊富な機会を通じて、教科書の中の理論に留まることなく、世界、日本、地域社会の動きを読み解いていきます。経済という一つの窓を通じて社会を見つめ、多様化・複雑化する社会に柔軟に対応できる人材の育成をめざしています。

国境、分野を越[超]えた
共修と協働を実現する世界人材に。

外国語学部

Faculty of Foreign Studies

- 国際英語学科

キャンパス／ナゴヤドーム前キャンパス
学部開設／2016年(平成28年)

グローバル化が進展する社会では、ツールとしての語学力だけでなく、社会を構成する多様な価値観を理解し、国や分野の異なる人々と共に学びながら新たな関係を構築する力が求められます。本学科では、実践型英語カリキュラムと豊富な留学・国際研修、企業や海外大学とのコラボ授業、副専攻制度などを通じて、実践的な「英語力」、世界の人々と共に学び、多様な価値観を知る「国際理解」、実社会で専門の異なる人々とチームで活躍するための「協働力」などを養成。国境も分野も越[超]えて共修・協働し、新たな価値を創りだすGlobal Communicator【世界人材】を育成します。

国際社会で広く活躍できる
人間性豊かな実践的教養人を育成。

人間学部

Faculty of Human Studies

- 人間学科

キャンパス／ナゴヤドーム前キャンパス
学部開設／2003年(平成15年)

現代社会で求められるのは、豊かな人間性に裏打ちされた広い視野と深い教養を持ち、時代の変化や国際化にも自在に対応できる、行動力とコミュニケーション能力を備えた人材です。人間学部では「幅広い教養の修得」「人間性の追究」「グローバル・マインドの養成」を教育理念に、「心理系」「社会・教育系」「国際・コミュニケーション系」の3領域で専門教育分野を構成。また、海外研修などの体験科目やゼミナールを充実することで、どのような場面でも活躍できる人材の育成をめざします。

エネルギー、環境、交通、防災など…

あらゆる都市問題を解決するサービスサイエンスを学ぶ。

都市情報学部

Faculty of Urban Science

● 都市情報学科

キャンパス／ナゴヤドーム前キャンパス

学部開設／1995年(平成7年)

「都市」と「情報」をテーマとした、文理融合の幅広い学びを展開。今、世界中の「都市」を動かしているのは、行政や企業などが提供する「サービス」であるといっても過言ではありません。この「サービス」に対して、最先端の情報技術や社会科学の知見を駆使して科学的に追究し、現代の都市が抱えるさまざまな問題を解決していきます。

情報の収集、整理・分析などの能力修得を目的とする「アナリストコース(理系志向)」、計画の立案・設計などの能力修得を目的とする「プランナーコース(文系志向)」の2つのコースで、文・理どちらの志向にも柔軟に対応しています。

実践力×連携力を身につけた

次世代の情報エンジニアを育成する。

情報工学部

Faculty of Information Engineering

● 情報工学科

キャンパス／天白キャンパス

学部開設／2022年(令和4年)

社会のあらゆる分野でAI(人工知能)、ビッグデータ、IoT(Internet of Things)、サイバーセキュリティなどの情報通信技術が必要とされています。情報工学部では情報工学の考え方や技術を深く体系的に学ぶ「総合コース」と、実社会で利用されている技術を実践的・体験的に学ぶ「先進プロジェクトコース」を配置。さらに情報工学の広い領域にまたがる4つのプログラムを組み合わせた多彩な学びを、興味や適性に応じて自ら組み立てることができます。時代のニーズに応える先進的な学びにより、多種多様な分野で活躍できる次世代の情報エンジニアを育成します。

伝統と革新が融合する独自の教育研究により

世界で活躍できる科学技術者を育てる。

理工学部

Faculty of Science and Technology

● 数学科 ● 電気電子工学科 ● 材料機能工学科
● 応用化学科 ● 機械工学科 ● 交通機械工学科 ● メカトロニクス工学科
● 社会基盤デザイン工学科 ● 環境創造学工学科 ● 建築学科

キャンパス／天白キャンパス

学部開設／1950年(昭和25年)

理工学部では、90年以上の長い歴史の中で培った充実した教育体制を基盤に、これからの時代を見据えた教育プログラムを推進することで、幅広い素養を備え、社会に通用する専門知識とその応用力を養います。また、実験や調査など数多くの実習や、実際の「ものづくり」の現場を肌で体感するプログラムなどを積極的に取り入れた実感教育も実施しています。これらにより、将来、科学技術者として自らの手で新しい分野を創造的に切り開いていく人材を育成していきます。

「生命・食料・環境・自然」に関する

専門的学識と洞察力を備えた人材を育成。

農学部

Faculty of Agriculture

● 生物資源学科 ● 応用生物化学科 ● 生物環境科学科

キャンパス／天白キャンパス

学部開設／1950年(昭和25年)

食料不足、エネルギー危機、環境汚染など、地球の未来を左右するさまざまな問題が深刻化するなか、農学の果たすべき役割は大きく広がり、また高度化しています。こうした時代の変化に対応するため、農学部では生物資源学科、応用生物化学科、生物環境科学科の3学科を配置。独自の教育と研究を通じて、生命・食料・環境・自然に関する専門的学識と洞察力を養い、現代社会が直面する諸問題の解決に向けて積極的に取り組むことができる人材の育成をめざしています。

人々の健康と福祉の向上に

広く貢献できる薬剤師・薬学研究者の養成をめざす。

薬学部

Faculty of Pharmacy

● 薬学科

キャンパス／八事キャンパス

学部開設／1954年(昭和29年)

第108回
薬剤師国家試験合格率
93.84%

全国No.1

※全国平均69.00%(厚生労働省)

薬剤師の職能は、ますます広がり続けています。近年、薬剤師は病院などの臨床現場で医師、看護師などとチーム医療を推進する一員としてその存在感が高まり、さらに超高齢社会の中で、予防医学や地域医療、在宅医療の担い手としての期待も大きく高まっています。2014年に創立60周年を迎えた薬学部では、薬剤師が医療に携わる重要性に早くから着目し、日本における臨床薬学教育をリードし続けてきました。一方で、バイオテクノロジーなど先端の研究活動も積極的に推進。高度な教育と研究を両輪として、将来にわたり人々の健康と福祉の向上に貢献できる薬剤師・医療人、薬学研究者の養成をめざしています。

大学院紹介

海外との知的交流のもとに、高度な専門知識を修得

法学研究科

- 修士課程／法学専攻
- 博士後期課程／法律学専攻

本研究科では、大学院生の多様な研究目的に対応できる、幅広く高度な専門知識を修得可能な授業科目を配置しています。また、修士課程1年次から指導教員を決定し、研究上のきめ細かい指導が行えるような体制を整えています。さらにハワイ大学ロースクールや中国の清華大学、韓国の高麗大学校等との間に学術交流協定を締結し、定期的に研究者を招聘しています。また、税理士志望者や実務界からのニーズに対応するために、2020年度から「租税法」を専修分野として新設するとともに科目の充実を図りました。なお、この地区の愛知学院大学・中京大学・名古屋経済大学・南山大学の各大学院法学研究科とは単位互換協定を締結しています。また、言葉のハンディを克服して博士後期課程をめざす外国人留学生も多く、日本人学生に大きな刺激を与えています。

経営のグローバル化に対応する2つのコースを設置

経営学研究科

- 修士課程／経営学専攻
- 博士後期課程／経営学専攻

本研究科では、「経営学・ものづくりシステムコース」、「会計学・ファイナンスコース」の2コース制を導入。経済、経営のグローバル化に対応する高度専門職業人の養成をめざしています。「ものづくり」関連科目においては、わが国製造業の第一線企業の実務家等を講師に招き、産学協同、文理融合型の特色ある実践的教育・研究を進めています。企業から派遣されている社会人学生は、職場に根ざした問題の解決策をまとめ、高い評価を得ています。また、学部卒業生や外国人留学生のみならず、社会人にも広く門戸を開放し、関連資格の取得をめざす者への支援も行っています。

経済理論と現実社会との接点を考察

経済学研究科

- 修士課程／経済学専攻
- 博士後期課程／経済学専攻

経済社会の発展に寄与できる高度職業人の育成を目的とし、経済理論、財政政策、金融政策、国際経済、アジア経済、環境経済、現代企業、地域産業政策などに関する科目を多彩に開講しています。大学院生は、「理論経済・経済史分野」「経済政策分野」「現代産業構造分野」の三つの専修分野の中から一つの専修分野を定め、指導教員のもとで研究論文の作成をめざします。また、学部卒業生や外国人留学生のみならず、社会人にも広く門戸を開放し、関連資格の取得をめざす方への支援も行っています。

高次の実践力と創造的な知見を備えた人材を養成

人間学研究科

- 修士課程／人間学専攻

本研究科は、人間に関するテーマを探究・展開できる研究能力とともに、総合的で柔軟な判断力、多面的・複雑化した社会で求められるコミュニケーション能力、高い公共性と倫理性を備えた人材を養成することを目的として開設されました。1990年代以降、急速に進んだグローバル化の中で、さまざまなカタチで顕在化してきた課題に対して、「現実を踏まえ粘り強く交渉する能力」「意見の対立を調停する能力」「新しく、独創性のある発想を伴った創造力」を持つ人材を育て、経済格差のひろがり、民族間・宗教間対立の深刻化、止まらない環境破壊など、人間の抱える課題の解決をめざします。

サービスサイエンスを志向する都市科学研究

都市情報学研究科

- 修士課程／都市情報学専攻
- 博士後期課程／都市情報学専攻

都市情報学研究科は、「社会システム学」「都市創造学」の2つの専修分野から構成され、サービスサイエンスの観点を取り入れた、新しい時代の理想的な都市社会を創造するエキスパートの養成を目的としています。都市情報学研究科での新たな学びを通して、既存の方法では解決しない問題を、AIを含む革新的な技術及びデータサイエンス手法等で解決する能力や、異分野で開発された解決策を創造的にアレンジし適用する能力を培い、大学院修了後の社会実践力を養成してまいります。

多彩な分野で最先端の研究を展開

理工学研究科

- 修士・博士前期課程／数学専攻※1、情報工学専攻、電気電子工学専攻※1、材料機能工学専攻、応用化学専攻、機械工学専攻、交通機械工学専攻、メカトロニクス工学専攻、社会基盤デザイン工学専攻、環境創造学専攻、建築学専攻
- 博士・博士後期課程／数学専攻※2、電気・情報・材料・物質工学専攻、機械工学専攻※2、社会環境デザイン工学専攻

※1 博士前期課程 ※2 博士後期課程

学部各学科の専門基礎教育を基盤とする修士課程、さらに修士課程の各専攻を基礎とする博士後期課程を設けています。各専攻では、学生と教員が一体となって最先端分野の研究テーマに取り組み、その研究成果を国内外の学会に発表しています。こうした教育研究活動の実績とポテンシャルの高さは広く認められており、文部科学省によるさまざまな学術研究高度化推進事業の拠点として選定されています。また、近年企業からの求人も大学院修了者を重視する傾向があり、高度な教育研究活動を通じて自己の付加価値を一層高めることをめざして、進学希望者も年々増加しています。

農学へのニーズの広がりに高い水準で対応

農学研究科

- 修士課程／農学専攻
- 博士後期課程／農学専攻

中部圏私大で唯一の大学院農学研究科であり、修士課程と博士後期課程を設置しています。栽培植物生産学、遺伝学、生物保護学、生物資源経済学、生命科学、食品科学、分子化学、生物制御科学、環境生物学、物質動態学、環境修復・応答学、ランドスケープ・デザイン学の12専修分野からなり、修士課程ではさらにフィールド生産科学専修分野が加わります。修士課程の各専修分野では、2～4科目の特論が開講されています。生命科学、食料・健康科学、環境科学における高度な専門知識と洞察力を有し、専門領域や関連学術領域における総合的な応用力、創造力及び実践力を備えた専門技術者及び研究者の養成を目的としています。

薬学のスペシャリストを養成

薬学研究科

- 博士課程（4年制）／薬学専攻

薬学研究科薬学専攻博士課程（4年制課程）は、薬学領域における学術高度化に貢献でき、国民の健康維持・増進と医療の発展をより一層推進できる独創的で創造的な高い研究力、新しい職能を開拓できる高度な専門性と技術・指導力を兼ね備えた“薬学のスペシャリストの養成”を目的として研究に取り組んでいます。4年間の教育課程を通して、最新の医療・生命科学にかかわる情報を理解・修得できる能力、薬剤師の職能の現状にとらわれず柔軟な発想と時代の先を見渡す洞察力や、自らが時代を切り拓くことができる行動力を身につけた医療人の養成をめざした教育を行っています。

「自然と人間の共生」をテーマに学際的研究を推進

総合学術研究科

- 博士前期課程／総合学術専攻
- 博士後期課程／総合学術専攻

学部を基礎としない独立研究科として2002年度（平成14年度）に設置。総合大学ならではの理系・文系からなる学際的な研究科です。研究者および高度専門職業人養成を目的として、「自然・環境科学」と「人間科学」の2つの専修分野をもとに、博士前期課程では「物質・環境科学」「生物・環境科学」「心理学」「生命科学」の各分野の特論を学びながら、専攻した科目の研究を行い、学際的なものの見方を養成します。博士後期課程では「物質・環境科学」「生物・環境科学」「心理学」「生命科学」の4つの分野で学位取得に向けた研究を進展させます。独立研究科として、春季・秋季入学の実施、社会人に対応した開講時間の設定など、学部からの進学者とともに社会人も積極的に受け入れる体制を整え、社会に開かれた研究科づくりを進めています。

教職課程・学芸員課程

名城大学では、薬学部を除くすべての学部で教職課程および学芸員課程を開設し、教職センターが中心となって運営しています。
教職課程では、教育職員免許状取得に必要な教育課程を提供するとともに、教員養成を目的とした質の高い教育、教職をめざす学生に対する責任ある教育の実現と、組織的な取り組みを含めた教職指導体制の充実をめざしています。
学芸員課程では、博物館等で資料収集、調査研究、展示、情報提供等において専門的な仕事を担当する専門職である「学芸員」の資格取得希望学生に対して、所属する学部の専門分野を生かして博物館活動を担える、実践力のある学芸員養成を目的とした教育を行っています。

名城大学で取得可能な免許状(2023年度入学生)

学部・学科	校種と免許教科	
	中学校教諭一種免許状	高等学校教諭一種免許状
法学部	社会	地理歴史、公民
経営学部	—	商業
経済学部	社会	地理歴史、公民、商業
外国語学部	英語	英語
人間学部	社会、英語	地理歴史、公民、英語
都市情報学部	—	公民、情報
情報工学部	—	情報、工業
理工学部 数学科	数学	数学、情報
理工学部 メカトロニクス工学科	—	工業
理工学部 環境創造工学科	—	工業
理工学部(上記以外の学科)	理科	理科、工業
農学部	理科	理科、農業

研究科・専攻	校種と免許教科	
	中学校教諭専修免許状	高等学校教諭専修免許状
法学研究科	社会	公民
経営学研究科	—	商業
経済学研究科	社会	公民
理工学研究科 応用化学専攻	理科	理科
理工学研究科 数学専攻	数学	数学
理工学研究科(数学専攻・応用化学専攻以外)	—	工業
農学研究科	理科	理科、農業

令和4年度 教員免許状授与結果一覧表

学部/研究科	学科/専攻	授与人数 実数	中学校教諭一種					高等学校教諭一種							中学校教諭専修					高等学校教諭専修					授与部 合計
			社会	数学	理科	英語	地理歴史	公民	数学	理科	情報	英語	商業	工業	農業	社会	数学	理科	公民	数学	理科	商業	工業	農業	
法学部	法学学科	16	16				13	15																	44
	小計	16	16	0	0	0	13	15	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	44
	経営学科	6											6												6
経営学部	国際経営学科	0																							0
	小計	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6
	経済学科	5	2				2	2					5												11
経済学部	産業社会学科	3	2				3	2					1												8
	小計	8	4	0	0	0	5	4	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	19
	国際英語学科	5				4						5													9
外国語学部	小計	5	0	0	0	4	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9
	人間学科	12	8			1	8	7				4													28
	小計	12	8	0	0	1	8	7	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	28
都市情報学部	都市情報学科	3					1				3														4
	小計	3	0	0	0	0	1	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
	数学科	50		45					50		16														111
理工学部	情報工学科	4								4				1											5
	電気電子工学科	5			2					3				4											9
	材料機能工学科	5			4					4				3											11
	応用化学科	5			5					5				1											11
	機械工学科	0																							0
	交通機械工学科	4			2					3				3											8
	メカトロニクス工学科	1												1											1
	社会基盤デザイン工学科	3			2					2				3											7
	環境創造学科	4			4					4															8
	建築学科	4			2					2				3											7
	小計	85	0	45	21	0	0	0	50	23	20	0	0	19	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	178
農学部	生物資源学科	7			5					7					2										14
	応用生物化学科	5			3					5					1										9
	生物環境科学科	13			7					11					3										21
理工学研究科	小計	25	0	0	15	0	0	0	0	23	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	44
	数学専攻	2														2			2						4
	電気電子工学専攻	1																					1		1
農学研究科	応用化学専攻	1																			1				2
	小計	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0	2	1	0	1	0	1	7
	農学専攻	2																			2				4
農学研究科	小計	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	4
	小計	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	4
	総合計	166	28	45	36	5	26	27	50	46	23	9	12	19	6	0	2	3	0	2	3	0	1	0	343

公立学校教員採用選考試験校種別合格者数一覧 ※既卒者は教育委員会への調査結果による (人)

年度(採用年度)	現役・既卒の別	小学校	中学校(中・高)	高等学校	特別支援	計
令和5年度 (2023年度)	現役	0	22	17	0	39
	既卒	5	10	8	2	25
	合計	5	32	25	2	64
備考	【現役合格者(39人)内訳】					
	・愛知県(18人)…中学校(数学)2人、中学校(理科)5人、中学校(社会)3人、 中学校(英語)1人、高等学校(数学)1人、高等学校(工業)2人、 高等学校(商業)4人					
	・名古屋市(7人)…中学校(数学)2人、中学校(中・高含む)(理科)3人、 中学校(社会)1人、高等学校(工業)1人					
	・岐阜県(4人)…中学校(理科)1人、高等学校(工業)2人、 高等学校(英語)1人					
	・三重県(1人)…高等学校(工業)1人					
	・東京都(1人)…中・高(理科)1人					
	・神奈川県(1人)…高等学校(数学)1人					
	・横浜市(1人)…高等学校(商業)1人					
	・千葉県・千葉市(1人)…中・高(理科)1人					
	・石川県(1人)…中・高(数学)1人					
	・福井県(3人)…中・高(理科)1人、 高等学校(工業)2人					
	・神戸市(1人)…高等学校(商業)1人					

学芸員資格を取得できる学部・学科(2023年度入学生)

学部	学科
法学部	法学学科
経営学部	経営学科、国際経営学科
経済学部	経済学科、産業社会学科
外国語学部	国際英語学科
人間学部	人間学科
都市情報学部	都市情報学科
情報工学部	情報工学科
理工学部	数学科、電気電子工学科、材料機能工学科、 応用化学科、機械工学科、交通機械工学科、メカトロニクス工学科、 社会基盤デザイン工学科、環境創造工学科、建築学科
農学部	生物資源学科、応用生物化学科、生物環境科学科

学芸員資格取得者数の推移

年度	学部	法	経営	経済	外国語	人間	都市情報	理工	農	合計
平成25年度(2013年度)			1	1		6	2	3	9	22
平成26年度(2014年度)				2			1	3	22	28
平成27年度(2015年度)			1	1		5		1	11	19
平成28年度(2016年度)		2	2			6	2	6	31	49
平成29年度(2017年度)		2	3			4		8	17	34
平成30年度(2018年度)		3	1				3	3	29	39
令和元年度(2019年度)		1	1			3	6	2	32	45
令和2年度(2020年度)		1		2	2	4	4	3	33	49
令和3年度(2021年度)				1		2	2	4	26	35
令和4年度(2022年度)						2		4	16	22

進路・就職支援体制

■ 2023年(2022年度)学部卒業生就職・求人状況(2023年5月1日現在)

全国私大トップクラスの実績

就職率
99.4%

(全国平均 97.3%)

※① 就職率…就職希望者に対する就職者の割合
② 全国平均…文部科学省・厚生労働省調査5月26日発表

実就職率
95.8%

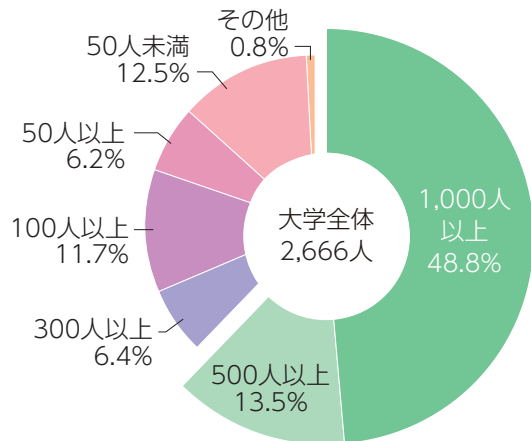
〈2022年〉95.5% 全国私大No.1
〈2021年〉94.2% 全国私大No.1

※①実就職率…卒業生から大学院進学者を除いた者に対する就職者の割合
②2021、2022年の順位は、「サンデー毎日」学部卒業生2000名以上の大学から抽出

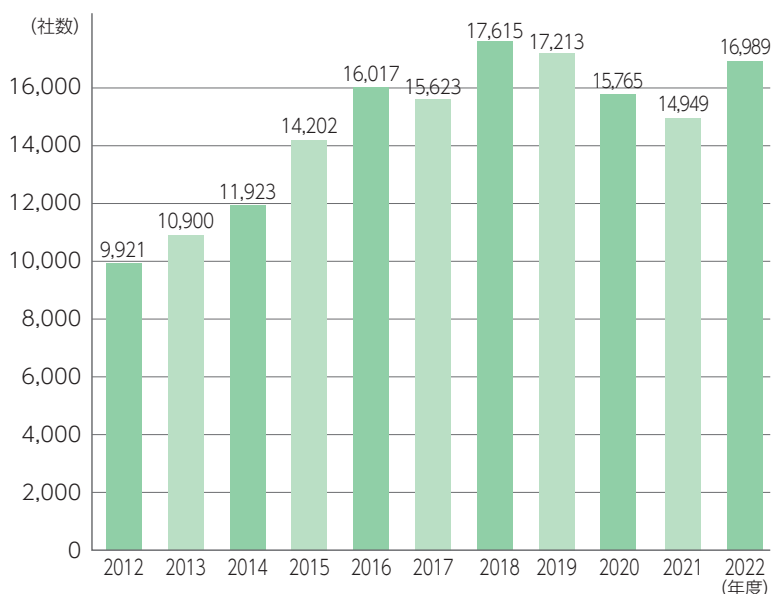
■ 従業員数別就職状況

62.3%の学生が大企業へ就職!

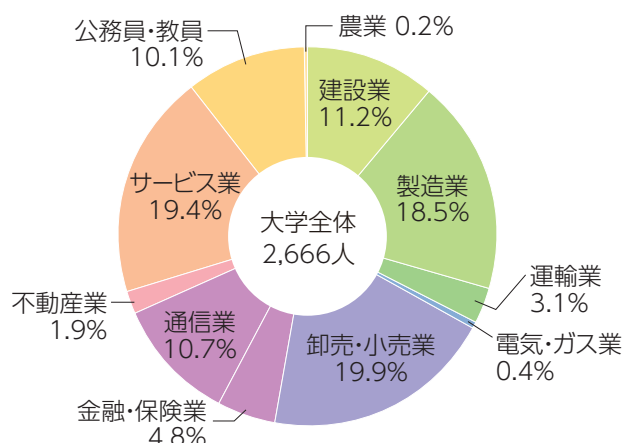
就活生の半数以上が従業員数500人以上の大企業に就職。
その中で1,000人以上の巨大企業への就職者数は48.8%です。



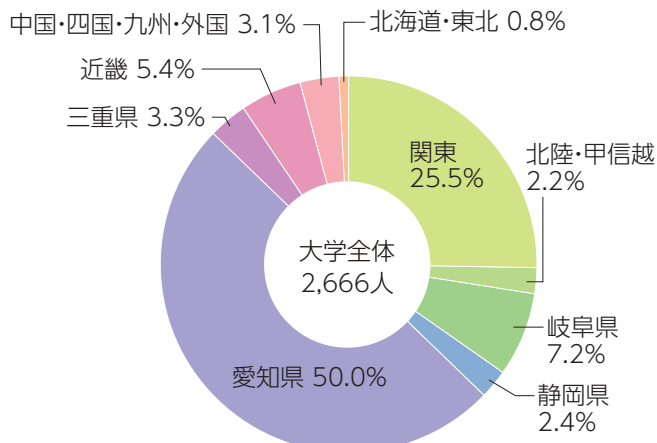
■ 求人社数の推移



■ 業種別就職状況



■ 地区別就職状況(本社所在地)



進路・就職支援体制

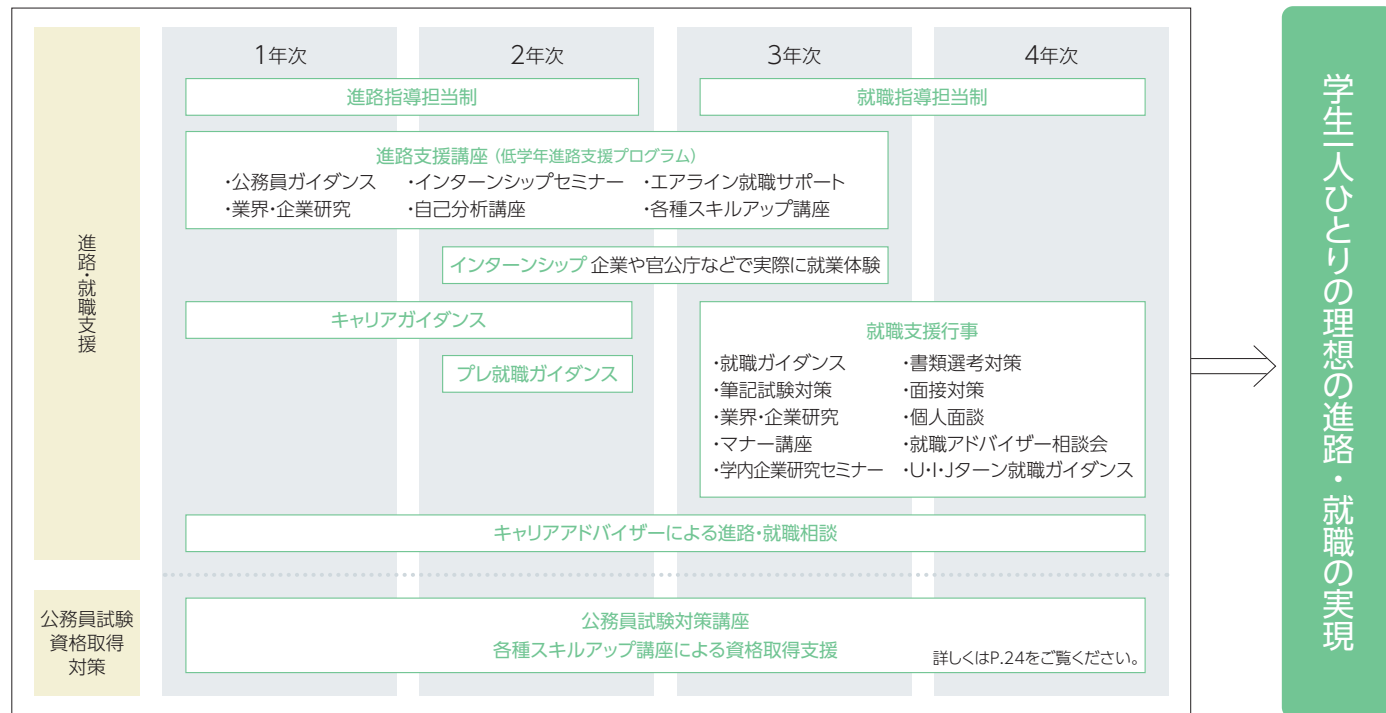
学生生活を「就職」「資格」の両面からトータルサポート。

大学は将来の進路を決める大切な時期。だからこそ自分の将来像を早めに明確にし、その実現に向けたテーマを持って、4年間を送ることができるかがキーポイント。

キャリアセンターは、進路決定・就職活動の支援や公務員試験対策・各種資格取得の支援を実施しており、低学年から学生の希望進路の決定と実現をトータルにサポートします。



学生の未来づくりをトータルに支援するキャリアセンター



※プログラムの内容は変更することがあります。

入学から卒業までを見通した系統的な支援講座を開設して学生をサポート

1・2年次

自己理解を深め、社会全体を広い視野で立体的に捉えることが就職活動には必要です。キャリアセンターでは1・2年次から「キャリアガイダンス」を中心に自身のキャリアを考える機会、キャリアを切り拓く汎用的スキル向上の機会などを多数提供しています。また、早期化する就職活動に備え、2年次には、「プレ就職ガイダンス」を実施し、最新の就職環境や選考トレンドなどを知ることを通じて、自立的なキャリア選択をサポートしています。

3・4年次

3年次からはさらに実践的な就職支援が始まります。「就職ガイダンス」からスタートし、「個人面談」による指導、「筆記試験対策講座」「履歴書・エントリーシートの書き方講座」「学内企業研究セミナー」など、多彩な行事が開催されます。特に、「インターンシップセミナー」「学内企業研究セミナー」では年間を通じて700社以上が参加し、就職支援の大きな柱になっています。またキャリアセンターに常駐するキャリアアドバイザーは、模擬面接や履歴書添削等の相談を常時受け付けており、就職活動中の学生や就職活動をこれから始めようとする学生の強い味方になっています。

就職アドバイザー制度

卒業生や就職が内定した4年次で構成される「就職アドバイザー」が、就職活動中の学生をサポートしています。企業で実際に働いている先輩や、最近まで就職活動をしていた先輩学生から、進路先の選び方や就職活動の効果的な進め方、ウェブや情報誌からは得られない職場環境の情報など、体験を通じたアドバイスを受けることができます。



エアライン就職サポート【M-CAP】CA/GS/パイロット/整備士/総合職

全学部・全学年対象です。【M-CAP】は、エアライン業界（CA、グラウンドスタッフ、パイロットなど）にチャレンジしたい人のための就職サポート。航空会社・エアラインスクール協力の下、低年次から就職活動年次まで徹底的にサポートします。エアライン業界を目指す人はもちろん、「人と接することが好き」「ホスピタリティに興味がある」学生にも最適な「JALホスピタリティ講座」も開講。各学年に合わせた多彩なプログラムを展開しています。

▶過去内定実績

全日本空輸（ANA）、日本航空（JAL）、フジドリームエアラインズ（FDA）、カタール航空、スターフライヤー、ANA中部空港、ドリームスカイ名古屋、ANAエアポートサービス、ANA成田エアポートサービス、ANA関西空港、JALスカイ、Kスカイ、中日本航空、航空大学校 ほか



M-CAPプログラム紹介のほか、夢を叶えた先輩たちからのメッセージも掲載しています。

<https://www.meijo-u.ac.jp/mcap/>

インターンシップ

名城大学では、インターンシップを学生が自身の就職・進路について考える機会として位置付け、主に年2回の長期休暇（夏季と春季）を利用して、1年生から全ての学生に積極的な参加を推奨しています。

また、インターンシップを成長機会として活用できるよう、学生には学内事前研修を通じて、参加目的の設定や事前準備、実習中の取り組み方、就活マナーへの理解を深めさせたいと、実習に臨ませています。

学内研修スケジュール ガイダンス → 事前研修会 → 実習 → 事後研修会

公務員試験・資格取得対策講座

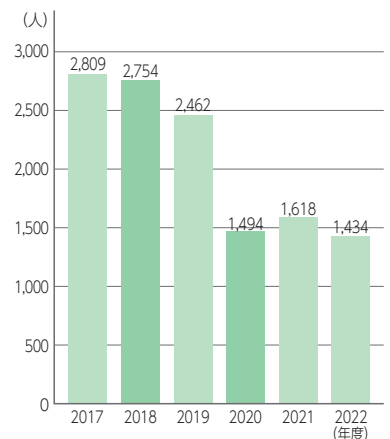
キャリアセンターでは、公務員試験・資格取得対策講座として、有名専門学校との提携講座を『名城大学キャンパス内（インスクール）』において廉価で実施しています。受講生にとって『通学時間・費用』が節約できます。高難易度の国家資格からパソコン・英語関連資格、公務員試験対策など多種多様な講座を開講し、受講生のニーズに応えています。また、合格奨励制度などの支援も充実しており、毎年多数の学生が受講しています。

2023年度 開講講座一覧

公務員	THE公務員 地方上級・国家一般（行政職）完全マスター（3年生対象） THE公務員 理系（技術職・工学の基礎）完全マスター（3年生対象） THE公務員 理系（技術職・農学の基礎）完全マスター（3年生対象） THE公務員 市町村・警察・消防 完全マスター（3年生対象） *2年生から* クイックスタート公務員基礎（2年生対象） *1年生から* ロケットスタート公務員入門（1年生対象） 公務員 模擬試験（国家一般、国税、地方上級等）※教養・専門試験 公務員 模擬試験（警察・消防、地方上級、市役所等）※教養試験のみ 公務員 模擬試験（技術職対応）	情報・語学	基本情報技術者 IT/パスポート ビジネス統計スペシャリスト（基礎レベル） MOS365&2019（Word）夏期集中コース MOS365&2019（Excel）夏期集中コース MOS365&2019（Word）春期集中コース MOS365&2019（Excel）春期集中コース TOEIC®L&R 試験対策講座（前期月曜） TOEIC®L&R 試験対策講座（後期火曜） TOEIC®L&R 試験対策講座（夏期集中） TOEIC®L&R 試験対策講座（春期集中） キャンパス留学（毎日話す英会話）
	行政書士 宅地建物取引士（A） 宅地建物取引士（B） 宅地建物取引士（C） 宅地建物取引士（A）（再受講者） 宅地建物取引士（B）（再受講者） 宅地建物取引士（C）（再受講者） 司法書士 入門① 司法書士 入門② 司法書士 入門③（再受講者） 司法書士 入門④（再受講者） 司法書士（書式基礎）		インテリアコーディネーター（1次試験対策） 食品表示検定中級 2級ビオトープ管理士 危険物取扱者（乙種第4類） 建築士1級試験対策講座（中級）※4年生対象 建築士1級試験対策講座（中級）※再受講 建築士1級試験対策講座（中級）後期web配信のみ ※4年生対象
経営・会計	簿記3級（2023年6月受験コース） 簿記3級（2023年11月受験コース） 簿記2級（2023年11月受験コース） 簿記2級（2024年6月受験コース） 2級ファイナンシャル・プランニング技能士	就職対策	SPI試験対策講座 就活早期準備・インターンシップ突破講座 1DAY!就活直前救済講座

ドーム前キャンパス	THE公務員 市町村・警察・消防 完全マスター（3年生対象）【ドーム前】 *2年生から*クイックスタート公務員基礎 通年（2年生対象）【ドーム前】 *2年生から*クイックスタート公務員基礎 前期（2年生対象）【ドーム前】 *2年生から*クイックスタート公務員基礎 後期（2年生対象）【ドーム前】 *1年生から*ロケットスタート公務員入門（1年生対象）【ドーム前】 簿記3級（11月受験コース）【ドーム前】 MOS365&2019（Word）【ドーム前】 MOS365&2019（Excel）【ドーム前】 TOEIC®L&R 試験対策講座（前期）【ドーム前】 TOEIC®L&R 試験対策講座（後期）【ドーム前】 TOEIC®L&R スコアアップコース（春期集中）【ドーム前】 旅行業務取扱管理者【ドーム前】 旅行業務取扱管理者（再受講者）【ドーム前】 秘書検定2級・準1級【ドーム前】 マナー・プロトコール検定3級【ドーム前】 SPI試験対策講座【ドーム前】 就活早期準備・インターンシップ突破講座【ドーム前】
-----------	---

受講者数の推移

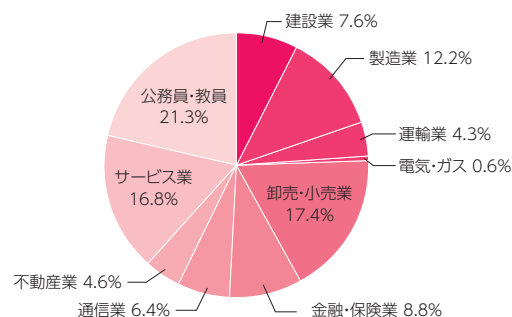


その他 公務員講座（除く1年生対象講座）受講生対象の※「OHASHI QUEST」（無料）あり
※「OHASHI QUEST」（全15回 予定）
公務員試験の徹底的な対策（苦手分野の克服・小論文・面接 等）のほか公務員OB・OGから実体験を聞く・相談するなど幅広い視野で学習しながら理解を深めるプログラム
※開講講座は毎年見直し、充実を図っていますので、年度により異なる場合があります。
※最少開講人数に達しない場合、その他諸事情により開講できない場合があります。

法学部

▶主な就職先

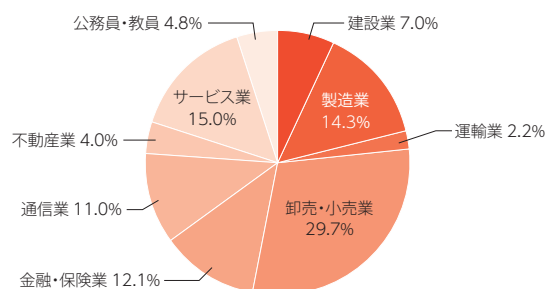
伊勢湾海運／一条工務店／遠州鉄道／岡崎信用金庫／CKD／ジェイアール東海高島屋／十六銀行／スズキ／積水化学工業／大和ハウス工業／豊田合成／名古屋銀行／名古屋高速道路公社／日本郵政／パイロットインキ／日立システムズ／フジパングループ本社／読売新聞東京本社／公安調査庁 中部公安調査局／厚生労働省 愛知労働局／財務省 名古屋税関／総務省 東海総合通信局／名古屋国税局(国税専門官)／名古屋地方検察庁／名古屋地方裁判所(裁判所事務官)／愛知県庁／名古屋市役所／愛知県警察本部(警察職員／警察官)／警視庁／愛知県教育委員会



経営学部

▶主な就職先

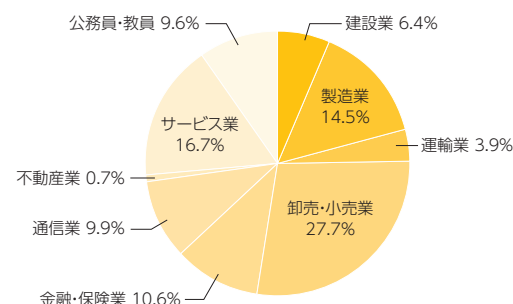
アイリスオーヤマ／アマダ／アルフレッサ／イオンリテール／一条工務店／井村屋グループ／大垣共立銀行／大塚商会／河村電器産業／クリナップ／クロスプラス／システムリサーチ／住友不動産販売／東京海上日動火災保険／トヨタモビリティパーツ／トランコム／日本自動車連盟(JAF)／日本生命保険／百五銀行／村田機械／名港海運／メニコン／ユアサ商事／雪印メグミルク／リコージャパン／休暇村協会／名古屋国税局(国税専門官)／名古屋市役所／愛知県警察本部／愛知県教育委員会



経済学部

▶主な就職先

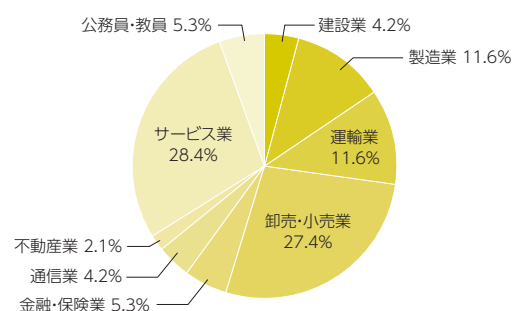
アイリスオーヤマ／イオン銀行／一条工務店／伊藤園／NTTデータ東海／NTT東日本／オーエスジー／大垣共立銀行／大阪シーリング印刷／オカムラ／キーコーヒー／三協立山／ジェイテクト／システナ／Sky／損害保険ジャパン／東海東京フィナンシャルHD／豊田合成／日本郵便／フジパングループ本社／マキタ／三菱UFJ銀行／リゾートトラスト／ローソン／厚生労働省 愛知労働局／名古屋国税局(国税専門官)／名古屋市役所／愛知県警察本部／名古屋市消防局／愛知県教育委員会



外国語学部

▶主な就職先

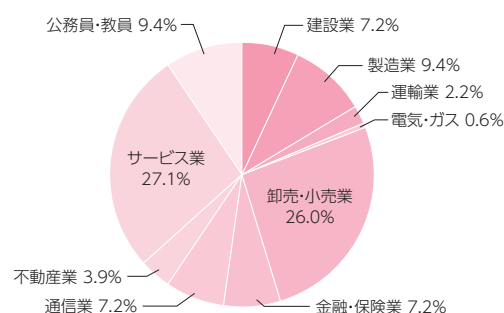
アイ・ケイ・ケイ／アダストリア／アルペン／イオンリテール／伊藤忠食品／イビデン／ANAエアポートサービス／ANA中部空港／ANA成田エアポートサービス／カインズ／クロスプラス／興和／JR東海／ジャスコ／JAL(日本航空)／JALスカイ／住友理工／東急ホテルズ／TOKYO BASE／トヨタエンタプライズ／トヨタ自動車／名古屋銀行／日本工営都市空間／三井住友海上火災保険／明治安田生命保険／RYODEN／財務省名古屋税関／出入国在留管理庁 名古屋出入国在留管理局／愛知県教育委員会／岐阜県教育委員会



人間学部

▶主な就職先

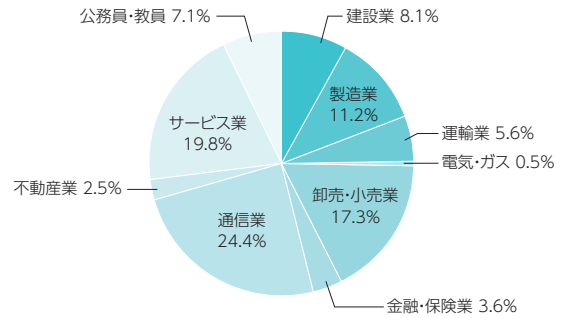
イオンリテール／かんぽ生命保険／ジェイアール東海高島屋／JAあいち経済連／システムリサーチ／JALスカイ／十六銀行／スズキ／住友林業／積水化学工業／積水ハウス／第一生命保険／瀧定名古屋／ニトリ／日本ガイシ／三井不動産リアルティ／名鉄協商／メイトー／メニコン／矢作建設工業／ルイ・ヴィトンジャパン／ルートインジャパン／名古屋市役所／岡崎市役所／豊橋市役所／名古屋市立大学／愛知県警察本部／警視庁／愛知県教育委員会／名古屋市教育局



都市情報学部

▶主な就職先

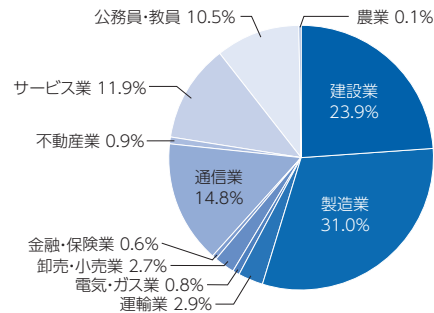
アダストリア／伊藤園／大垣共立銀行／クリナップ／サンゲツ／JR東海／JR西日本／静岡銀行／システナ／Sky／タカスタンダード／東邦ガス／トーエネック／トヨタシステムズ／名古屋鉄道／日本年金機構／日立システムズ／富士ソフト／マキタ／Mizkan／三菱電機ソフトウェア／メイテック／矢崎総業／山崎製パン／ヤマザキマザック／リコージャパン／名古屋国税局（国税専門官）／名古屋市役所／伊勢市役所／岐阜県警察本部



理工学部

▶主な就職先

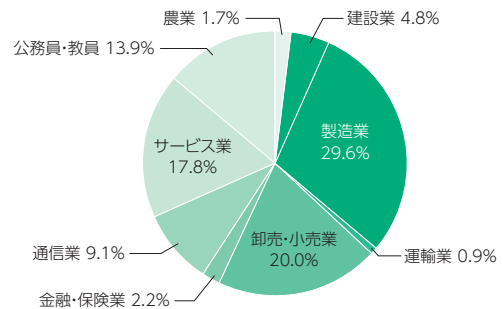
アイシン／旭化成ホームズ／アドヴィックス／一条工務店／イビデン／SMC／SCSK／NTT西日本／NEC／NTTDocomo／大林組／関西電力／キオクシア／京セラ／小糸製作所／興和／CKD／JR西日本／ジェイテクト／清水建設／SUBARU／住友電装／住友理工／住友林業／セイコーエプソン／積水ハウス／ソニーグローバルマニュファクチャリング&オペレーションズ／ダイフク／大和ハウス工業／竹中工務店／中部電力／デンソー／東海理化電機製作所／JR東海／東邦ガス／豊田合成／トヨタシステムズ／トヨタ車体／トヨタ紡織／NIPPO／日本車輛製造／ニデック／日本工営都市空間／ノリタケカンパニーリミテド／パナソニック／パナソニックホームズ／日立システムズ／富士通／富士通ゼネラル／フジパルグループ本社／ブラザー工業／ホーユー／マキタ／Mizkan J plus Holdings／三菱自動車工業／未来工業／村田製作所／メニコン／ヤマザキマザック／国土交通省中部地方整備局



農学部

▶主な就職先

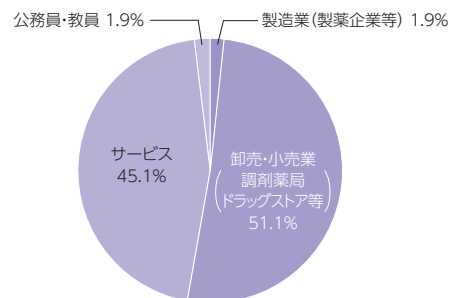
アイシン／アビ／天野エンザイム／アルフレッサ／イオンリテール／井村屋グループ／片倉コープアグリ／佐藤食品工業／JR東海／JA全農みえ／システムリサーチ／スズケン／豊田合成／日本コーンスターチ／日本食品分析センター／日本食研ホールディングス／日本生命保険／マルサンアイ／メニコン／山崎製パン／名古屋国税局（国税専門官）／農林水産省 名古屋植物防疫所／愛知県庁（農学）／岐阜県庁（農学）／三重県庁（農学）／名古屋市役所／一宮市役所／春日井市役所／愛知県警察本部／愛知県教育委員会



薬学部

▶主な就職先

愛知医科大学病院／アイングループ／飯田市立病院／ウエルシア薬局／岐阜大学医学部附属病院／杏林堂薬局／協和ケミカル（キョーワ薬局）／国立がん研究センター東病院／JA愛知厚生連 安城更生病院／JA愛知厚生連 海南病院／JA静岡厚生連／市立四日市病院／スギ薬局／スギヤマ薬品／聖隷福祉事業団／総合メディカル／大同病院／大雄会／中外製薬／中部国際医療センター／中部薬品／名古屋大学医学部附属病院／東和薬品／トーカイ薬局／トヨタ記念病院／半田市立半田病院／藤田医科大学病院／松阪総合病院／労働者健康安全機構／愛知県庁（薬剤師）



国際交流

■ 海外協定締結先一覧(2023年5月1日現在)



▶ 交換留学

本学と協定を締結している海外の大学と相互に学生を派遣する留学制度で、本学へ授業料を納入することで交換留学先の授業料が免除されます。留学期間は半年または最長1年間で、現地での学修成果は、学部ごとの審査に基づき、本学の単位として認定されます。(ただし、単位認定を保証するものではありません。)参加学生を経済的に支援するため奨学金制度(給付型)も充実させています。

■ 交換留学協定先の一例

協定先大学
キーンズランド工科大学(オーストラリア)
北京第二外国語大学(中国)
真理大学(台湾)
東亜大学校(韓国)
アウクスブルク大学(ドイツ)
オスロ大学(ノルウェー)
ニューヨーク市立大学ハンター校(アメリカ)

■ 奨学金制度 (いずれも返金不要)

派遣交換留学奨学生	受入れ交換留学奨学生(寮費相当額)
渡航地域により 月額4万円～6万	月額2.5万円

▶ 海外英語研修

長期休暇期間を利用した2週間～5週間の語学研修です。英語力の向上はもとより、異文化理解も深めることにより、グローバル社会を生き抜く力を身につけます。プログラムと奨学金制度の拡充を行い、より参加しやすい研修となりました。

■ 2022年度 参加人数

夏期カナダ英語研修	春期カナダ・オーストラリア英語研修
43名	67名

■ 奨学金制度 (返金不要)

	海外英語研修派遣支援 A奨学生
給付金額	最高20万円
給付人数	年間180名

▶ LIVE留学

長期休暇期間を利用したフィリピン人講師によるマンツーマン英会話指導を主体としたオンライン英語留学プログラムです。担任制のため圧倒的な会話量だけでなくモチベーションを維持してくれます。レビュー&コミュニケーションでは日本人スタッフとの授業の振り返りやフィリピン人講師によるアクティビティをグループレッスンとして実施します。また、海外社会学習では、フィリピンが抱える社会問題について、その施設担当者から英語で説明を受け、質疑応答を交えながらその状況や背景を理解します。

■ 2022年度 参加人数

夏期	春期
36名	16名

▶ 国際専門研修

専門領域に根差した国際交流経験と英語の実践的な運用を行う機会を設けることを目的として、各学部・研究科の教員が企画・運営を行う本学ならではのプログラムです。渡航費用や実施費用の一部が大学が支援することで、学生の費用負担を抑えながらも質の高いプログラムを展開しています。

外国人留学生国籍別在籍者数推移 (各年度5月1日現在)

外国人留学生(人)

年度	合計	中国	台湾	韓国	ベトナム	ミャンマー	ネパール	モンゴル	タイ	フィリピン	マレーシア	フランス	モロッコ	インドネシア	パキスタン	ウズベキスタン	バングラデシュ	アメリカ	スリランカ	エジプト	ノルウェー	オーストラリア	ポーランド	ドイツ
2014	291	252	13	4	7	4	7	1						2	1									
2015	258	221	12	2	7	4	6					1	1	2	1	1								
2016	223	184	12	4	5	5	4				1	1	1	5	1									
2017	184	139	14	2	13	5	1		1		1			5	1		2							
2018	164	125	13	4	8	5	1				1			4	1		2							
2019	142	103	12	2	8	3	1	1	2		1			4	1		2	2						
2020	100	74	6	1	8	1	1	1	1		1			3			2		1					
2021	104	57	9	2	12	4		1	3		1			3		1	1		1	1	8			
2022	76	45	6	2	13	3			2					2		1	1		1					
2023	76	37	8	4	13	1								2		1	1	4	1		1	1	1	1

※2021年度:入国予定者および入国せずオンライン等で授業を受けている学生含む

外国人留学生在籍者数 (2023年5月1日現在)

※()内は女子内数 (人)

区分	学部・学科		年次				計	中国	台湾	ベトナム	インドネシア	ミャンマー	バングラデシュ	韓国	スリランカ	ウズベキスタン	アメリカ	オーストラリア	ドイツ	ノルウェー	ポーランド
			1	2	3	4															
学部	法学部	法学科	1	4(3)	3(1)	1	9(4)	5(3)		2(1)				1		1					
	経営学部	経営学科	1(1)	1	2	2(1)	6(2)	4(1)		2(1)											
		国際経営学科	1	1(1)	3(2)	3	8(3)	1	1	6(3)											
	経済学部	経済学科		2(1)	1	2(1)	5(2)	2(1)			1(1)			1	1						
		産業社会学科			1(1)		1(1)			1(1)											
	理工学部	数学科																			
		情報工学科																			
		電気電子工学科																			
		材料機能工学科																			
		応用化学科																			
		機械工学科																			
		交通機械工学科																			
		メカトロニクス工学科																			
		社会基盤デザイン工学科																			
		環境創造学科																			
		建築学科																			
	情報工学部	情報工学科																			
	農学部	生物資源学科																			
		応用生物化学科																			
	薬学部	生物環境科学科																			
		薬学科																			
	都市情報学部	都市情報学科		2(1)			2(1)	1					1(1)								
	人間学部	人間学科				1	1	1													
	外国語学部	国際英語学科																			
	学部 合計		3(1)	10(6)	10(4)	9(2)	32(13)	14(5)	1	11(6)	1(1)		1(1)	2	1	1					

区分	課程・研究科		年次				合計	中国	台湾	ベトナム	インドネシア	ミャンマー	バングラデシュ	韓国	スリランカ	ウズベキスタン	アメリカ	オーストラリア	ドイツ	ノルウェー	ポーランド
			1	2	3	4															
大学院	博士課程	法学研究科																			
		経営学研究科																			
		経済学研究科																			
		理工学研究科			4		4	3		1											
		農学研究科			1		1	1													
		薬学研究科(4年制)																			
		都市情報学研究科																			
	修士課程	総合学術研究科																			
		法学研究科																			
		経営学研究科	5(3)	2(1)			7(4)	5(3)		1(1)				1							
		経済学研究科		1			1	1													
		理工学研究科	6(2)	5(2)			11(4)	10(3)				1(1)									
		農学研究科	1				1	1													
		都市情報学研究科																			
		人間学研究科																			
		総合学術研究科																			
	大学院 合計		12(5)	8(3)	5		25(8)	21(6)		2(1)		1(1)		1							

区分	学部・研究科		計	中国	台湾	ベトナム	インドネシア	ミャンマー	バングラデシュ	韓国	スリランカ	ウズベキスタン	アメリカ	オーストラリア	ドイツ	ノルウェー	ポーランド
研究生	大学院	薬学研究科	1(1)				1(1)										
	学部	経営学部	1							1							
	研究生 合計		2(1)				1(1)			1							
科目等履修生	学部	経営学部	6(5)	2(2)	4(3)												
		人間学部	3(2)		3(2)												
		外国語学部	8(4)										4(1)	1(1)	1	1(1)	1(1)
	科目等履修生 合計		17(11)	2(2)	7(5)								4(1)	1(1)	1	1(1)	1(1)

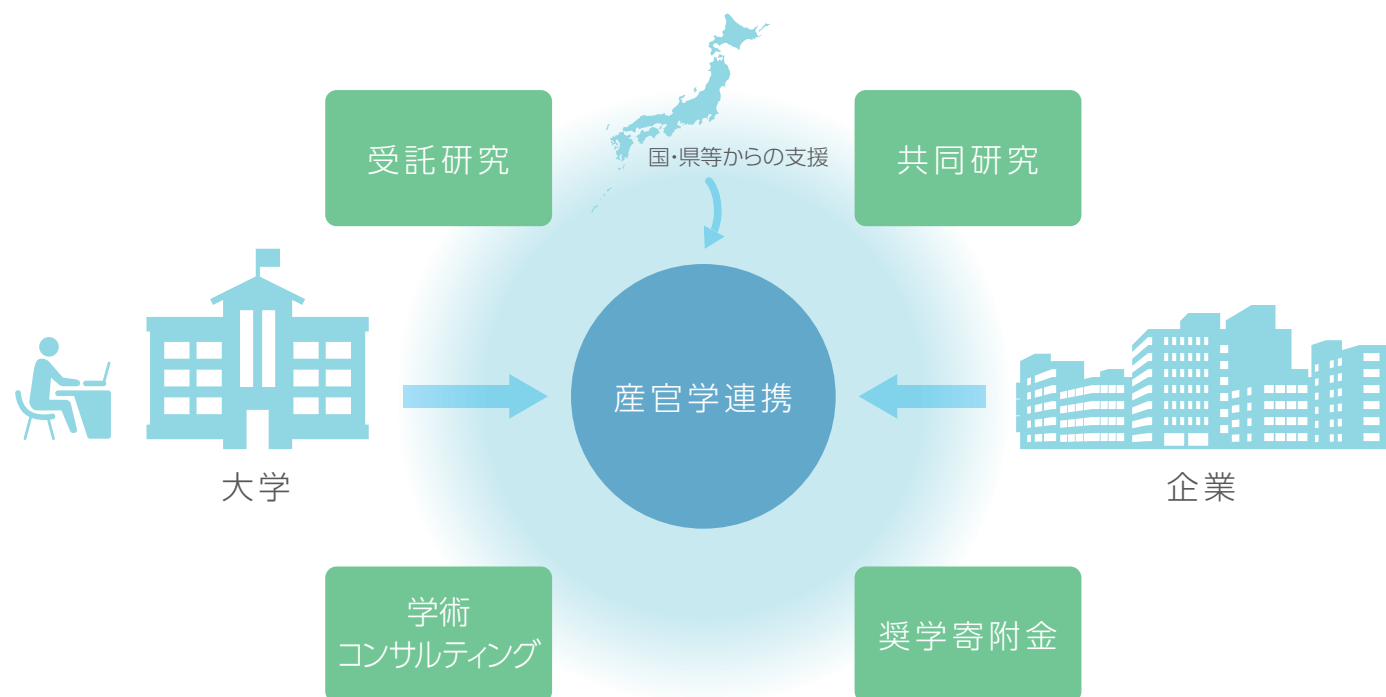
※入国予定者および入国せずオンライン等で授業を受けている学生含む

産官学連携

■ 名城大学における産官学連携

名城大学は、社会貢献を教育と研究に並ぶ大学の使命の一つとして位置づけ、産官学連携による社会貢献に積極的に取り組んでいます。名城大学の教育・研究で得られた知の成果を広く社会に還元し、我が国の産業の持続的発展及び文化の発展に寄与します。本学は、10学部9研究科を擁する文理融合型総合大学であり、幅広い研究領域と研究シーズを備えています。

大学研究室が産業界の力になります。



受託研究

民間企業等から委託を受けて研究を実施し、成果を委託者に報告します。

共同研究

民間企業等の研究者と共通の研究課題について、分担して研究を実施します。

学術コンサルティング

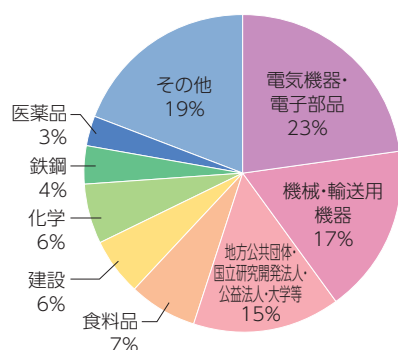
民間企業等から委託を受けて、教育・研究及び専門知識に基づいた指導や助言を行います。

奨学寄附金

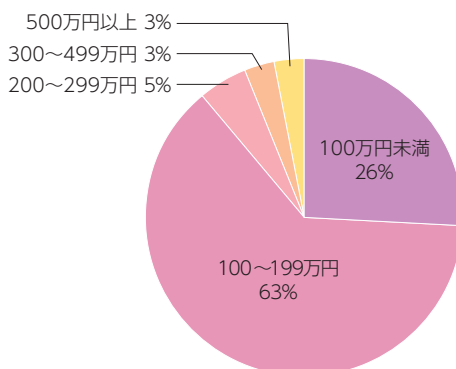
民間企業等から教育・研究を奨励する目的とする経費に充てるべきものとして受け入れ、指定の対象や目的に沿って使用します。

■ 2022年度 産官学連携データ (2023年3月31日現在)

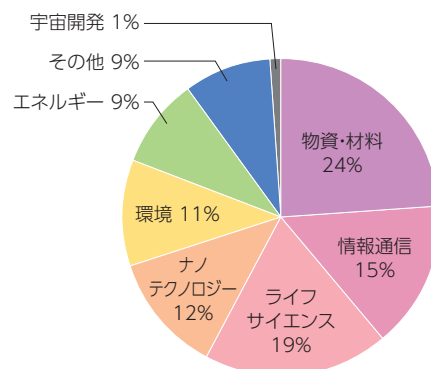
業種



年間開発予算



研究分野



■ LED共同研究センター

名城大学は青色発光ダイオード(青色LED)を発明し、2014年にノーベル物理学賞を受賞した故赤崎勇終身教授・特別栄誉教授をはじめ、LEDに関する研究者により、数多くの研究成果を創出しています。

2011年4月、これまで蓄積した研究成果を広く社会に還元するため、「LED共同研究センター」を設立しました。

同センターでは、最先端の施設設備を用いて、新たな事業の開拓を狙う企業との共同研究や、LED関連技術の知見・ノウハウを習得することを目的とした企業への技術指導など、社会のニーズに対応する革新的な技術開発を行い、産官学連携による産業活性化の一翼を担う研究開発拠点として研究活動を推進しています。



■ 特許保有件数

名城大学パテントポリシーを定め、研究成果の特許化を推進しています。本学では、特許をはじめとする知的財産権を、研究活動から創出された大学の重要な資産と位置づけています。これにより、研究者の創造的研究を促進するとともに、企業等へのライセンス活動を通じて、社会への技術移転を推進しています。また、特許化のサポートのため、URA(リサーチ・アドミニストレーター)を配置しています。

特許保有件数(2023年3月31日現在)

	件数
国内	210
海外	77
合計	287

2022年度に権利化された特許権一覧

代表発明者所属	発明の名称	出願国	代表発明者所属	発明の名称	出願国
理工学部	積層基板用フォスフェイト磁器組成物、フォスフェイト磁器組成物の積層基板、積層基板用フォスフェイト磁器組成物の製造方法、及び積層基板用フォスフェイト磁器組成物の積層基板の製造方法	日本	理工学部	垂直共振器型発光素子	日本
	半導体受光素子	日本		半導体レーザー素子とその製造方法	日本
	皮膚の血管網を可視化する装置、方法およびプログラム	日本		皿族窒化物半導体発光素子とその製造方法	日本
	垂直共振器型発光素子及び垂直共振器型発光素子の製造方法	日本		半導体発光素子および半導体発光素子の製造方法	日本
	窒化物半導体多層膜反射鏡	日本		半導体発光素子およびその製造方法	米国
	吸着パッド	日本		医療用処置具	EPC
	酸素ラジカル活性化水溶液とその製造方法および農作物の生産方法	日本		皮膚診断装置、皮膚状態出力方法、プログラムおよび記録媒体	台湾
	窒化物半導体発光素子	日本	農学部	微生物識別装置および微生物識別方法	日本
	アクティブV2Gアクティブ	日本	薬学部	吸入粉末剤、その評価方法及びその用途	日本
	半導体発光素子およびその製造方法	日本		核酸導入用組成物及びその利用	日本
	半導体発光素子	日本		抗プロパノイル化アミロイドβタンパク質抗体	日本
	組織の粘弾性を断層可視化する装置および方法	日本		ハロゲン化エストロゲンを用いたエストロゲン補充療法のためのエストロゲン製剤	日本
	レーザー素子及びレーザーダイオード	日本		エステル化剤及びその利用	日本
	窒化物半導体レーザー素子	日本		アミロイドβタンパク質におけるプロパノイル化修飾部位特異的測定方法	日本

■ 学外研究資金データ

2022年度の名城大学における外部資金導入総額(国および民間企業等)は約8億2千2百万円です。
この中には各省庁実施事業の競争的研究資金制度等で採択された資金が含まれています。

用語説明

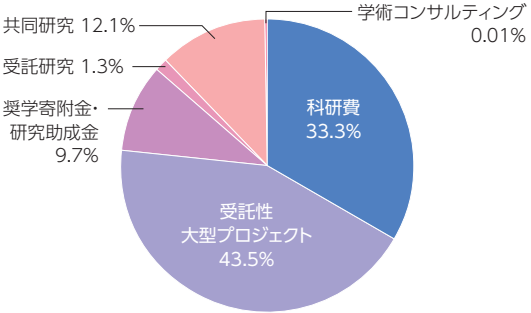
科研費……………文部科学省および日本学術振興会が管理する学術研究を推進するための研究資金
受託性大型プロジェクト……………各省庁等からの競争的研究資金制度および委託による研究
奨学寄附金・研究助成金……………使用用途が、主として研究活動に指定された寄附金・研究内容の向上、達成を目的として支給される助成金
受託研究……………民間企業等から受託して行う研究
共同研究……………民間企業等から研究者および研究経費等を受け入れて、本学の教員が該当企業等の研究者と共通の課題について共同して行う研究
学術コンサルティング……………民間企業等から委託を受けて、教育・研究および専門知識に基づいた指導や助言を行う

2022年度 研究資金データ

(千円)

研究資金種類	件数	金額
科研費(※1、4)	164	274,560
受託性大型プロジェクト(※1)	36	358,077
奨学寄附金・研究助成金	91	79,661
受託研究(※1、2、3)	17	11,089
共同研究(※1、3)	101	99,783
学術コンサルティング(※1)	1	110
合計	410	823,280

※1 間接経費、一般管理費を含む。 ※2 受託事業を含む。 ※3 LED共同研究センター利用を含む。
※4 件数は繰越、延長を含む。金額は交付内定時のものとし、繰越延長は含まない。



2022年度 受託性大型プロジェクト一覧

実施機関	管理法人(再委託元)	プロジェクト名	研究課題	学部・研究科	研究代表者名	選定年度
内閣府	国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)	戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)第2期/自動運転(システムとサービスの拡張)	自動運転技術(レベル3、4)に必要な認識技術等に関する研究	理工学部	目黒 淳一	2018年度選定
文部科学省	国立大学法人東海国立大学機構(名古屋大学)	革新的パワーエレクトロニクス創出基盤技術研究開発事業(パワーデバイス領域)	課題a~cを活用したデバイス作製技術、回路システム領域との連携	理工学部	竹内 哲也	2021年度選定
文化庁	————	令和4年度文化庁と大学・研究機関等との共同研究事業	「文化統計の体系化に関する調査・研究」に関する業務	経済学部	勝浦 正樹	2022年度選定
厚生労働省	————	食品に残留する農薬等の成分である物質(トリフルミゾール)の試験法検証事業	————	薬学部	神野 透人	2022年度選定
	————	食品に残留する農薬等の成分である物質(プロパクロール)の試験法検証事業	————	薬学部	神野 透人	2022年度選定
	————	食品に残留する農薬等の成分である物質の試験法の開発・検証に関する試験GC/MS及びLC/MSによる農薬等の系統試験法(畜水産物)改良法【GC-MS/MS法(通知試験法案別表1の化合物)】妥当性評価試験	————	薬学部	岡本 崇士典	2022年度選定
農林水産省 水産庁	国立研究開発法人水産研究・教育機構	水産資源調査・評価推進事業/国際水産資源動態等調査解析事業	かつお・まぐろユニット/混獲サブユニット	農学部	新妻 靖章	2011年度選定
経済産業省	公益財団法人名古屋産業研究所	成長型中小企業等研究開発支援事業	自動運転領域における低コストな3次元地図/3Dモデルデータ構築技術の研究開発	理工学部	田崎 豪	2022年度選定
	公益財団法人名古屋産業研究所	成長型中小企業等研究開発支援事業	省エネ・創エネ型高濃度窒素含有廃水浄化技術の開発と事業化	理工学部	竹内 哲也	2022年度選定
環境省	————	革新的な省CO2感感染症対策技術等の実用化加速のための実証事業	高効率・長寿命深紫外LEDの技術開発と細菌・ウイルス不活化および脱炭素効果の実証	理工学部	竹内 哲也	2021年度選定
	日本エヌ・ユー・エス株式会社	ジフェニルアルコール等の健康影響に関する調査研究委託業務	ジフェニルアルコールによる神経症状発症メカニズムの解明に関する研究	薬学部	根岸 隆之	2015年度選定
国立研究開発法人 科学技術振興機構(JST)	————	戦略的創造研究推進事業(CREST)/新たな光機能や光物性の発現・利活用を基軸とする次世代フォトニクス基盤技術	深紫外領域半導体レーザーの実現と超高濃度不純物・分極半導体の研究/紫外レーザーの作製および評価	理工学部	岩谷 素顕	2016年度選定
	————	研究成果展開事業/研究成果最適展開支援プログラム(A-STEP)産学共同(本格的型)	高臨場感VR/ARディスプレイのための高輝度フルカラーモノリシックLEDの開発	理工学部	岩谷 素顕	2020年度選定
	————	研究成果展開事業/研究成果最適展開支援プログラム(A-STEP)産学共同(育成型)	シス型カロテンノイドの製剤化と価値創造	理工学部	本田 真己	2020年度選定
	————	研究成果展開事業/大学発新産業創出プログラム 大学エコシステム推進型(START)スタートアップエコシステム形成支援	Tokai Network for Global Leading Innovation(Tongali)	—	平松 正行	2021年度選定
	————	研究成果展開事業/大学発新産業創出プログラム 大学・エコシステム推進型(START)スタートアップ・エコシステム形成支援/令和3年度補正予算による支援	Tokai Network for Global Leading Innovation(Tongali)	—	平松 正行	2022年度選定
	————	国際科学技術共同研究推進事業/地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム(SATREPS)/低炭素社会の実現に向けた高度エネルギーシステムに関する研究	Thailand4.0を実現するスマート交通戦略/研究題目2:公共交通の接続向上及びStreet for allを実現するスマート交通・街区デザイン	理工学部	中村 一樹	2018年度選定
	————	ムーンショット型研究開発事業 通常型/2050年までに、AIとロボットの共進化により、自ら学習・行動し人と共生するロボットを実現	一人に一台一人生き添うスマートロボット/スマートロボット用ミドルウェアの構築	理工学部	大原 賢一	2021年度選定

実施機関	管理法人(再委託元)	プロジェクト名	研究課題	学部・研究科	研究代表者名	選定年度
国立研究開発法人 新エネルギー・産業 技術総合開発機構 (NEDO)	————	燃料電池等利用の飛躍的拡大に向けた共通課題解決型産学官連携研究開発事業／水素利用等高度化先端技術開発	多機能OCTを用いた金属遺物非接触マイクロ断層検出システムの開発	理工学部	佐伯 壮一	2020年度選定
	————	NEDO先導研究プログラム／新産業創出 新技術先導研究プログラム	ワットクラス深紫外半導体レーザーの研究開発	理工学部	岩谷 素顕	2021年度選定
	————	NEDO先導研究プログラム／エネルギー・ 環境新技術先導研究プログラム	移動体への光無線給電システムの研究開発	理工学部	上山 智	2022年度選定
	————	官民による若手研究者発掘支援事業／マッ チングサポートフェーズ	IoTに向けたイベントドリブ/型ネットワークによる高速高精度分布センシング	理工学部	畑 良幸	2022年度選定
	自動車用内燃機関 技術研究組合	NEDO先導研究プログラム／エネルギー・ 環境新技術先導研究プログラム／ゼロエ ミッションに向けた内燃機関の革新的摩擦 損失低減技術	起動時から定常・過渡までの広範囲の運転領域で摩擦低減を実現する凸型表面改質手法の研究	理工学部	宇佐美 初彦	2021年度選定
国立研究開発法人 AMED	学校法人藤田学園 藤田医科大学	革新的技術による脳機能ネットワークの全 容解明プロジェクト	精神疾患のヒトゲノム変異を基盤とする神経回路・分子病態に関する研究／モデル動物の作製と神経科学的検討	薬学部	野田 幸裕	2019年度選定
	国立大学法人東海 国立大学機構 (名古屋大学)	難治性疾患実用化研究事業	microRNA病態に基づいたレット症候群の治療薬開発	薬学部	野田 幸裕	2021年度選定
	国立大学法人東海 国立大学機構 (岐阜大学)	新興・再興感染症に対する革新的医薬品等 開発推進研究事業	新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) に対する吸入薬型 核酸医薬の供給を支援する技術の開発／核酸医薬の吸入粉 未製剤化検討	薬学部	岡本 浩一	2022年度選定
国立研究開発法人 量子科学技術研究 開発機構	————	リチウムイオン電池電極材料のイオンマイ クロビームによるその場分析・評価技術の 開発	————	理工学部	土屋 文	2021年度選定
国立研究開発法人 宇宙航空研究開発 機構 (JAXA)	————	戦略的開発研究費 (工学)	光学観測高度化に向けた高精度構造・材料システム統合	理工学部	仙場 淳彦	2021年度選定
	————	戦略的開発研究費 (工学)	実宇宙機プロジェクトにおける高精度指向制御達成に向けた モーションコントロール技術の研究開発	理工学部	宮田 喜久子	2022年度選定
	————	第3回地球観測研究公募共同研究	長期衛星搭載降水レーダーデータによって精緻化する降水気候 値の時間変化と空間的な不確実性	理工学部	広瀬 正史	2022年度選定
独立行政法人日本 学術振興会 (JSPS)	————	二国間交流事業／インド (DST) との共同 研究	繊維工業排水の水質改善に向けた色素除去用の光触媒の開 発	理工学部	丸山 隆浩	2020年度選定
福井県	公益財団法人若狭 湾エネルギー研究 センター	新エネルギー技術調査研究事業	セラミックの水分解を利用した水素製造	理工学部	土屋 文	2020年度選定
大学共同利用機関 法人自然科学研究 機構 (NINS)	————	プラズマバイオコンソーシアムプロジェクト	酸素ラジカル活性化アミノ酸溶液による植物成長促進機序の 解明	理工学部	伊藤 昌文	2022年度選定
公益財団法人科学 技術交流財団	————	共同研究推進事業	繊維強化樹脂を用いた次世代医療機器の開発	理工学部	仙場 淳彦	2021年度選定
公益財団法人若狭 湾エネルギー研究 センター	————	公募型共同研究／基礎研究	飛行時間型反跳粒子検出法を用いた全固体リチウム電池内 の正極・負極／固体電解質界面におけるリチウムイオン移動 機構解析技術の確立	理工学部	土屋 文	2021年度選定

※2021年度に契約を締結したもの、または研究費の受け入れがあったものを掲載しています。

2022年度 科研費交付者一覧

所属部局	研究種目・方式	研究代表者名	研究題目
法学部	基盤研究 (C)	西村 貴裕	天然記念物保護から自然保護へ——日独における自然保護法発展過程の比較研究
		近藤 敦	国と自治体の多文化共生の比較研究—インターカルチャリズムとしての多文化共生法学—
		久米 祐介	英語tough構文とその関連構文の通時的・共時的研究
		北見 宏介	合衆国の政府弁護士とその行動に関する規範的研究：法曹倫理規範の法学的検討として
		佐藤 純恵	所得への下方ショックが教育投資を通じて世代の経済格差拡大へ与える影響に関する分析
		松本 俊太	アメリカ連邦議会内の政党組織の発達とその帰結：「疑似的な議院内閣制」への変化
経営学部	基盤研究 (C)	山岡 隆志	カスタマーアドボケートに関する消費者行動モデルの構築
		桑島 薫	保護施設の人文学・社会的保護から捉えるポスト家族の可能性
		五十畑 浩平	フランスの高等教育におけるデュアルシステム—その多様性の解明—
		東田 明	サステナビリティ経営のためのマネジメントコントロールシステムの究明
		橋場 俊展	従業員による発言を担保する先進的マネジメントの理論的・実証的研究
経済学部	基盤研究 (B)	田代 樹彦	日本特有の経営者業績予想開示システムの変容と意義
	基盤研究 (C)	李 秀ちよる	原子力リスク分析に基づいた東アジアの原発安全協働体制構築
		川森 智彦	外部機会付きコンテストの研究
		門 亜樹子	バルベラック道徳思想のスコットランド啓蒙における継承と展開の研究
理工学部	新学術領域研究 (研究領域提案型)	野口 光宣	ブロックチェーン合意形成プロトコルのゲーム理論的安定性について
	基盤研究 (A)	堀田 一弘	ディープラーニングによる植物画像認識の高精度化と時空間的要因解析
		金子 真	赤血球回復時定数100倍激変現象の解明
		竹内 哲也	大口径・高出力青緑色面発光レーザーの開発
		岩谷 素顕	遠紫外線C波AlGaN系電子線励起レーザー
	基盤研究 (B)	池本 有助	遠紫外線C波AlGaN系電子線励起レーザー
		宮嶋 孝夫	テンセグリティロボットを用いた生物の射出運動生成機構の理解
		丸山 隆浩	蛍光バイオイメージング用小型光源をめざした超短パルス半導体レーザーの要素技術開発
		小高 猛司	オペランドEXAFS測定によるカーボンナノチューブ生成メカニズムの解明
		松田 和浩	自然災害時に脆弱化する「粘土もどき細粒土」人工地盤の安定性評価法と対策法の確立
		内田 儀一郎	ロッキング機構と各種ダンパーの併用による損傷制御型木質高層建物の開発
		伊藤 昌文	低温プラズマ高速反応流れ場を用いたナノ複合材料膜の超精密構造制御
		西山 桂	安定同位体を用いたプラズマ支援バイオリファインリー科学的創成
	基盤研究 (C)	西山 桂	農作物の発光標識剤を目指した毒劇物フリーかつ発光波長可変な希土類ナノ粒子の開発
		柴田 将敬	毒劇物フリーな蓄光バイオマーカー (粒径20 nm) の開発と農作物罹病部の発光標識
		大原 賢一	変分的手法の発展と非線形偏微分方程式や凸幾何学への応用
		土屋 文	可変プロペラアームを有するマルチコプタに関する研究
		————	全固体リチウムイオン二次電池の充放電時におけるリチウムイオン移動機構の解明

所属部局	研究種目・方式	研究代表者名	研究題目
		土屋 文	反跳粒子検出法を用いたリチウムイオン二次電池内の過渡的リチウム蓄積量評価法の確立
		松田 淳	可視化ベース温度計測法導入による衝撃波誘起渦生成現象の解明
		武藤 昌也	工学的スケールでの粉塵爆発現象の数値シミュレーション
		武藤 昌也	個別の燃焼場特性に基づいたデータベース構築による高精度燃焼流動場予測
		松村 昌紀	動詞の多義構造と類義語の分布に関する入力情報の波及と第二言語知識の創発
		橋本 英哉	例外型単純Lie群G2の作用する空間の幾何構造
		齊藤 公明	超汎関数空間の構成に基づく無限次元確率解析の新展開及び量子情報論への応用
		長郷 文和	幽霊指標の解析によるノットコンタクトホモロジーのトポロジカルな性質の完全解明
		來海 博央	構造化照明と圧縮センシングを用いた超高解像度2次元ラマン分光高速イメージング
		西村 尚哉	自動車の衝突安全対策の向上に向けた衝突後の車両運動解析
		目黒 淳一	衛星測位のマルチパスに注目した都市環境の特徴抽出による測位の高精度化
		中西 淳	動的な未知環境下における枝渡りロボットの運動生成および制御
		益田 泰輔	将来の電力系統における新しい運用・制御を考慮した電源開発計画と電力市場制度設計
		石川 靖晃	DEFIによる化学膨張を受けたRC部材の構造性能評価
		新家 光雄	高酸素含有生体用β型チタン合金の力学的特異現象と構成元素との相互作用の解明
		片桐 誠之	汚泥を固形燃料化する高度圧搾脱水プロセスの開発
		宮田 喜久子	CubeSatの熱伝達の不確定性低減と温度制約を考慮した運用計画立案手法の提案
		竹田 圭吾	大気圧ラジカル支援ミストCVDによる酸化亜鉛薄膜の合成とラジカル反応機序の解明
		清水 憲一	高輝度放射光による短繊維GFRPのひずみ・結晶化度測定と疲労寿命評価手法の確立
		中條 涉	複数のLED光変調サブキャリアの空間コヒーレンス合成による高速可視光通信
		小林 健太郎	分散協調制御と無線分散ネットワークの技術融合に関する研究
		原田 守博	豪雨に対する都市強靱化のためのポーラスコンクリート舗装の雨水流出抑制機能の評価
		鈴木 温	世帯マイクロシミュレーションを用いた減災型集約都市構造への転換施策評価
		寺西 浩司	建設用3Dプリンターのためのセメント系材料の開発およびプリンティング方法の確立
		道正 泰弘	環境配慮型材料としてのフライアッシュのコンクリート材料への大量利用に関する研究
		堀田 一弘	情報リークを用いた深層学習の高度化
		増山 岳人	報酬関数の外挿による非同一な動作主体間での模倣学習
		田浦 大輔	外部刺激を駆動力として伸縮運動する二重らせん高分子の創製と応用
		岡本 隆明	RIM法による土石流内部の流木流下過程の解明と橋梁閉塞対策に関する特進研究
		太田 貴之	大電力パルスパッド法を用いたカーボンイオンの高効率生成メカニズムの探求
		菅野 望	ヒドラジン誘導体/四酸化二窒素推進剤の自己着火に及ぼすエアロゾル凝集過程の検討
		松本 幸正	GTFSを用いた階層型地域公共交通網の評価と地域への相応しさのAIによる判定
		米澤 貴紀	蓬左文庫蔵「伊藤満作家資料」の基礎的研究
		才田 隆広	単分子層モデル電極を用いた酸素還元反応に対する活性サイトおよび活性支配因子の特定
		今井 大地	次世代光源開発に資する窒化物系混晶半導体サブギャップ領域の光・熱物性制御指針解明
		山崎 彬人	パーソナルモビリティを対象とした搭乗者の視認対象物の可視化と周辺環境認知状態推定
	若手研究	森口 舞	カリブにおける左派政権の連合と戦略に関する研究
		伯田 恵輔	耐量子計算機暗号の多項式数理における安全性評価手法の確立
		大知 聖子	感情史的アプローチによる中国北朝墓誌の分析と文化的社会集団の復元
		村上 祐一	冷凍と電界を組み合わせた新規冷凍殺菌技術の開発
		田崎 豪	接地面判別による単純形状物体の姿勢推定
		横田 紘季	腱鞘炎発症メカニズム解明のための生体内力学シミュレータの開発
		本田 真己	カロテノイド異性化反応の能動的制御技術の開発と加工への応用
		佐藤 布武	三陸沿岸漁村における明治以降の複層津波復興景観
		遠藤 祐輝	ウェアラブルデバイスを用いた下肢血行動態センシングによる座位行動の減少方策の開発
		内田 儀一郎	プラズマ気液界面反応制御による新規プラズマ/溶液ハイブリッド接合プロセスの開発
農学部	基盤研究(A)	田村 廣人	バイオマーカーを可視化した質量分析による皮膚マイクロバイオーム株レベル識別法確立
	基盤研究(B)	藤原 和樹	植物病原細菌におけるアブシジン酸応答機構の解明
		太田垣 駿吾	高需要バラ切り花品種の分子育種に向けたトゲ形成遺伝子と花弁形状制御遺伝子の同定
		新妻 靖章	海鳥類を利用した日本周辺の水銀暴露ホットスポット海域の解明
		平野 達也	イネ子実の登熟に対するソース機能増強を目指した茎部蓄積デンプンの分解機構の解明
		大浦 健	ハロミックスPAHsの環境動態ならびに生体影響評価
	基盤研究(C)	太田垣 駿吾	四倍体バラ交雑集団を活用した有用形質判別DNAマーカー開発系の確立
		兒島 孝明	固相培養条件下の麹菌における遺伝子の動的発現制御機構の解明とその応用
		日野 輝明	ニホンジカの高密度から低密度への過程におけるレガシー効果をもたらす要因の解明
		細田 晃文	鉱物廃材の再資源化を指向した銅還元細菌の育種と銅還元機構の分子生物学的解明
		天野 健一	ライン光ピンセットによる粒子間相互作用と粒子表面構造の理解
		志水 元亨	糸状菌由来の新規多糖分解酵素の探索と機能・構造解析
		近澤 未歩	腸管IgA抗体の特異性制御を介した多糖の機能性解析と疾患予防効果の検証
		村野 宏達	弱酸基を持つ有機化合物の腐植物質への吸着に負電荷支援型水素結合が果たす役割の解明
		加藤 友子	絶滅危惧種アオウミガメの摂餌生態に関連した海洋ゴミ誤飲のリスク評価
		香村 恵介	運動発達の見える化を可能にする簡便な幼児の運動能力測定法の開発と効果検証
		加藤 雅士	糸状菌における鉄恒常性維持の主要転写因子HapXと相互作用する因子の機能解析
		松儀 真人	アンチエントロピー制御を基点とする特異有機合成反応群の開発
		長澤 麻央	意欲障害モデルを用いた脳機能障害の栄養学的予防法の確立
	挑戦的研究(開拓)	新妻 靖章	マイクロプラスチック汚染による海鳥類の健康被害リスクマップの構築
	若手研究	森 智基	ツキノワグマによる集落周辺の利用形態の解明および軋轢リスク減策への提案
		黒川 裕介	ガスフィルムとROLパリアの耐水性性質は同時に新たな育種目標となり得るのか？
	特別研究員奨励費	森 智基	個性に着目した森林性大型動物の市街地進出の要因解明と新たな個体群管理手法の開発
		木下 千尋	環境変動に対する動物のエネルギー消費速度の柔軟性：海鳥とウミガメに着目して
薬学部	基盤研究(C)	水野 初	1細胞オルガネラインジェクション誘導体化による高感度細胞内局在分子分析法の開発
		衣斐 大祐	ケタミンの抗うつ作用におけるセロトニン5-HT2A受容体の役割に関する研究
		衣斐 大祐	幻覚薬の抗うつ関連行動における神経・分子基盤の解明
		打矢 恵一	肺MAC症の増加要因と抗菌薬に対する治療抵抗性の解明
		森 裕二	赤潮生物由来巨大ポリ環状エーテル天然物ギムノシン-Bの全合成
		吉田 圭佑	新規疼痛抑制化合物探索を志向する光学活性プロアポルフィン類の網羅的全合成研究
		北垣 伸治	医薬品合成に資するシクロファン含有面不斉二重水素結合供与触媒の開発
		武永 尚子	環状歪みアルキンの発生を鍵としたヘテロ環の新規変換反応の開発
		平松 正行	グリシンペタインのGAT2を介する認知症予防効果の検証

所属部局	研究種目・方式	研究代表者名	研究題目
薬学部	基盤研究(C)	岡本 誉士典	脂質メディエーターを介した乳がんの新規形成メカニズムの解明
		奥田 知将	ウイルスベクターに適した粉末製剤設計による経肺・経鼻投与型遺伝子吸入粉末剤の開発
		山田 修平	ヘパラン硫酸生成酵素の変異による遺伝病の発症機構の解明
		柳澤 聖	悪性胸膜中皮腫を対象とする新たな分子標的治療法開発
		能勢 充彦	甘草配合漢方方剤の安全使用に向けた薬物動態データベースの構築
		野田 幸裕	脳発達過程における免疫活性化に伴う高次脳機能の病態解明
		西川 泰弘	無保護アミノ酸を利用する高効率ペプチド合成法の開発
		坂井 健男	環化-転位-環化カスケードを基盤とする縮環アルカロイドの合成研究
		原 脩	分子間Wacker型反応による位置選択的ヘテロ原子の導入法に関する研究
		丹羽 敏幸	小児・高齢患者を指向した嚥下補助・計数調節機能を有するキセロゲル小球製剤の開発
		今西 進	質量分析による環境中ラン藻類迅速同定・分類法の開発
		間宮 隆吉	独自PTSDモデル動物を基盤とした新規治療薬と発症予測バイオマーカーの開発
		吉見 陽	多階層（遺伝子-タンパク質-代謝物）の網羅的解析によるクロザピンの作用機序解明
	若手研究	根岸 隆之	有機ヒ素化合物の構造・細胞種・脳部位・毒性相関解析による脳神経系影響機序解明
		近藤 梨沙	リチウムの新規毒性を標的とした健康リスク評価
		都築 孝允	運動が有する肥満・糖尿病の改善効果を増強するフィトケミカルの探索
		稲垣 孝行	喀痰からクラリスロマイシン耐性非結核性抗酸菌を直接検出する等温増幅法の開発
		青木 明	褐色脂肪細胞とベージュ脂肪細胞のミトコンドリア機能を促進する新たな治療法の探索
都市情報学部	基盤研究(B)	大野 栄治 田口 純子	持続可能な地域づくりに関する再生可能エネルギー事業の総合評価手法の開発 オンラインゲームと社会を結びPBLを通じたメンタライジングの発見と支援
	基盤研究(C)	杉浦 真一郎	行財政システムの持続可能性を展望するための望ましい地域的枠組みに関する探究
		杉浦 真一郎 柄谷 友香	2025年問題を見据えた地域包括ケアをめぐる圏域再編のあり方に関する地理学的探究 被災者主導の住宅移転再建メカニズムの解明と復興市街地の空間的・社会的評価
	若手研究	大野 沙知子	自動運転の社会的形成に関する分析とまちづくり手法の提案
		森 龍太	旅行費用法に基づく仮想行動法による観光地全体のレクリエーション価値の計測の精緻化
人間学部	基盤研究(C)	伊藤 俊一	15～16世紀の水干害と再開発に関する研究
		伊藤 俊一	13～14世紀の気象災害と農業生産の変容—環境応答の歴史学の構築に向けて
		笠井 尚	学習の効果を高め学校生活を豊かにする新しい学校図書館をつくる実践的研究
		西村 善矢	交渉の産物としての文書：中世初期カンパニア地方の農地契約文書に関する比較研究
		畑中 美穂	新型コロナウイルス禍による救急活動のストレス：パンデミックに備えたストレス対策の提案
	若手研究	原田 知佳	自閉スペクトラム症グレーゾーン者のサポートに資する社会心理学的アプローチ
		西山 亮二	認知活動活性操作パラダイムによる意味短期記憶保持メカニズムの解明
外国語学部	基盤研究(B)	西尾 由里	小・中・高・大へ接続する包括的発音に関する到達目標及び評価のガイドライン構築
		津村 文彦	アジア・太平洋地域におけるイレズミ研究の再構築：感覚・情動・力から照射する身体
		呉 大煥	1960年代までの制度的韓国語教育の内容変遷とその影響要因に関する史的考察
	基盤研究(C)	二神 真美	持続可能な観光と国際認証の有効性に関する多面的分析
		岩井 眞貴	日本の伝統演劇における「夢」の表象の研究：比較演劇の観点から
		豊田 周子	東アジア女性による日本語詩歌創作とその主体性に関する研究——台湾と朝鮮を中心に
		Rogers James	On the Creation of Software to Improve Japanese Learners' Academic English
		池 沙弥	Multimodal Discourse Analysis of Linguistic Landscapes: Life 'with Corona'
	若手研究	川上 綾	On the Efficacy of Process Drama as a Method of Teaching Collocations to Japanese University Students
		柳沢 秀郎	キューバヘミングウェイ博物館写真系資料検索データベース構築プロジェクト
		宮下 大夢	アジア太平洋地域における虐殺予防ガバナンスの形成
		池 沙弥	Managing Interaction: Negotiation and Accommodation strategies in ELF
教職センター	挑戦的研究(萌芽)	西尾 由里	化石化した英語音声に対する超音波舌画像視覚データの効果
		平山 勉	教師視点を生かしたユビキタス映像記録視聴システムを活用した授業実践能力育成支援
	基盤研究(C)	木村 美奈子	幼児期における自己映像理解のゆらぎ—その遍在的理解から統合的理解への発達
		曾山 和彦	教師が日常的に活用できる高校生の「かわりの力」育成プログラム開発
	若手研究	嶋口 裕基	ブルーナーの教育論における客観的な知識の性質としての客観性の解明
情報工学部	基盤研究(B)	柳田 康幸	クラスター型デジタル空気砲による香り空間制御技術の研究
	基盤研究(C)	吉川 雅弥	Society5.0でのプライバシー指向セキュアインテリジェントエッジモジュール
		亀谷 由隆	人間本位の機械学習基盤としての識別パターン発見技術の開発
	若手研究	野崎 佑典	エッジデバイスを指向した耐タンパなAIの開発

文部科学省経常費補助金事業(2019年度～2023年度)

■私立大学研究ブランディング事業

プロジェクト名	選定期間
青色LEDを起点とした新規光デバイス開発による名城大ブランド構築プログラム	2016年度～2020年度
新規ナノ材料の開拓と創製による名城大ブランド構築プログラム	2017年度～2021年度

※文部科学省からの支援はいずれも2019年度末まで。

■私立大学戦略的研究基盤形成支援事業

プロジェクト名	研究科名・研究代表者名	選定期間
グリーンイノベーション研究拠点形成プロジェクト	理工学研究科 平松 美根男	2015年度～2019年度

■私立大学等研究設備整備費補助金 研究設備(私大研)

設備名	学部・研究科等名	申請年度
多重共鳴分子構造解析装置	薬学部	2019年度

学術研究

■ 総合研究所

産官学の共同による学際的な研究を推進。

総合研究所は学部学科や産官学の枠を超えて学際的な共同研究を推進するため、1994年に開設しました。研究所では研究テーマを「自然・環境部門」「人文・社会システム部門」「人間科学部門」「物質科学部門」の4領域とし、相互に連携しつつ、最高水準の研究成果をめざします。また、研究成果を広く社会へ還元するため、「総合研究所紀要」の発行や、セミナー・シンポジウムの主催などを通して、取り組みの内容を積極的に公開しています。また、学術研究奨励助成制度として、「プロジェクト部門」と「研究センター部門」、「大学領域指定研究支援部門」に分け、研究助成を行っています。

最新の情報は本学ウェブサイトをご覧ください。

2023年度 総合研究所 研究課題一覧(2023年5月1日現在)

所属部署	申請代表者名	研究課題	申請代表者名	研究課題
法学部	足立 和彦	ギ・ド・モーパッサンのレアリズム美学の生成と発展	長谷川 乃理	韓国における商法典の成立と改正
	伊川 正樹	譲渡所得課税に関する日米法比較	前田 智彦	法使用行動に対する評価の規定要因の実証的研究 ―サーベイ実験によるアプローチ―
	伊藤 亮吉	目的犯と処罰の前置化における理論的基盤の確立に関する研究	松田 恵美子	社会秩序維持方法追求のために制定法、道徳的規範、個人の自律力の相互関連を検討する
	仮屋 篤子	不正行為における被害法益と損害についての研究	柳澤 武	雇用社会における年齢規範の生成と変動 ―日米の比較研究―
	近藤 敦	移民統合法制の比較研究	米田 勝朗	本学女子駅伝部員における適切なトレーニング方法、コンディショニング（栄養摂取・休養の取り方）方法の考究、構築に関する研究
	二本柳 誠	未遂犯処罰について―早すぎた構成要件実現を中心に		
経営学部	桑島 薫	女性を対象とした社会福祉施設の「記録ファイル」の視点と意味に関する実践人類学かつ社会福祉学かつ社会学的視点による質的研究	鳥居 弘志	高付加価値商品・サービスのマーケティング
	高山 晃郎	発展途上国の金融市場の進展に関する研究	東田 明	パラドックスを考慮した環境経営の究明
	田中 武憲	次世代技術が愛知のモノづくりに与える影響と課題解決のための地域連携モデルの構築	横野 均	本学アメリカンフットボール部員における適切なトレーニング方法、コンディショニング（栄養摂取・休養の取り方）方法の考究、構築に関する研究
経済学部	伊藤 志のぶ	現代日本における地方活性化の諸問題と企業・行政システム	佐土井 有里	技術形成の国際比較（東南アジア・中国を中心に）
	李 秀澈	日中韓におけるカーボンニュートラルに向けた脱炭素政策の経済・産業への影響分析	杉本 大三	アジア諸国における農業・食料政策の変容と農業・農村
	太田 志乃	CASE変革期に問われる異分野技術・中小ベンチャー企業のあり方	谷村 光浩	「量子都市ガバナンス（Quantum Urban Governance）論」の構築
	勝浦 正樹	世帯属性による家計消費・生活行動の因果構造に関する実証的研究	名和 洋人	アメリカ経済政策史
	小泉 和也	本学ラグビー部員における適切なトレーニング方法、コンディショニング（栄養摂取・休養の取り方）方法の考究、構築に関する研究	山本 雄吾	公共交通における官・民パートナーシップのあり方
	斎藤 智美	ユーロの国際通貨としての発展		
人間学部	伊藤 康児	学校・家庭・地域社会における学習のシステムとプロセス	谷口 義則	日本列島における淡水魚類に対する温暖化の影響予測に関する研究
	加茂 省三	ヨーロッパ社会と国家によるグローバルな影響の史的展開	畑中 美穂	災害救援者の惨事ストレスに関する研究
	塩崎 万里	学校における心の健康教育プログラム開発のための戦略的研究	船田 秀佳	英語、中国語、日本語の認知言語学的及びコミュニケーション的研究
	志村 ゆず	高齢者の回想法に関する研究		
都市情報学部	稲葉 千晴	20世紀における世界各地の紛争と平和の再検討	鈴木 千文	歌声のビブラートに着目したデフォルメの工学的解明に関する研究
	大野 栄治	温暖化影響および温暖化対策の経済評価	張 昇平	A I による水環境と水環境対策の評価
	鎌田 繁則	公的介護保険の導入と介護サービス供給体制に関する理論的・実証的研究	福島 茂	グローバル経済化のもとでのアジア大都市圏の居住形態とその形成メカニズム
	柄谷 友香	「中核被災者」を主体とした被災限界からの自律再建メカニズムの解明	宮本 由紀	地方自治体の子育て支援政策に関する実証分析
	雑賀 憲彦	サービス業の生産性向上	森 龍太	環境変化に起因した行動変容の補足および評価のあり方に関する研究
	杉浦 伸	数理計画学、オペレーションズ・リサーチの都市情報学、サービスサイエンスへの適用	山谷 克	デジタル信号の幾何学的構造を利用した数理モデルに基づく信号伝送アルゴリズムの開発
	杉浦 真一郎	高齢者福祉・介護保険行政の地理学的研究	若林 拓	道路網の信頼性解析の効率化の研究
	鈴木 淳生	非完備市場モデルによる金融派生証券の評価		
理工学部	赤堀 俊和	固溶化処理した歯科用セミアメタル合金のミクロ組織と特異強化機構の関係	中條 渉	イメージセンサとLEDアレイによる双方向マルチアクセス可視光通信の高速化
	芦澤 怜史	屋外作業ロボットののためのロボットアーム動作計画および作業のためのエンドエフェクタによるハンドリングの研究	塚田 敦史	車いすユーザの力学的シーティングシミュレーション
	池邊 由美子	化学的溶液法を用いた超伝導フィラメントの作製と評価	土屋 文	水素同位体イオン照射下におけるシリコン炭化物の動的照射誘起効果
	石川 靖晃	コンクリート構造物の建設工程シミュレーターの開発	道正 泰弘	持続可能な建築資材および工業副産物のリサイクルシステムに関する研究
	伊藤 昌文	プラズマバイオの基礎と応用に関する研究	中島 公平	e-fuelを用いたニストロークD I エンジンの潤滑評価

所属部署	申請代表者名	研究課題	申請代表者名	研究課題
理工学部	岩下 健太郎	連続繊維複合材を用いた補修・補強材料の開発	永田 央	光合成を規範とした物質変換システムの構築
	宇佐美 初彦	樹脂/金属複合体の開発とその摩擦摩耗特性の評価 Development of polymer-metal composites and evaluation of the tribological properties	中村 一樹	カーボンニュートラルな交通を促進するウォークアブルシティの将来ビジョン評価
	内田 儀一郎	高容量 Li イオン電池実現のためのナノ構造負極材の開発研究	成塚 重弥	グラフェンの電気配線への応用に関する研究
	榎本 暁	日本人英語学習者による英語聴解における問題点とその訓練法に関する研究	西村 尚哉	構造運動体の衝突安全性評価に関する研究
	大蔵 信之	渦輪の変形崩壊過程における渦構造	橋本 英哉	例外的単純Lie群とSpinor群を用いた幾何学
	太田 貴之	プラズマを用いた高機能材料の合成プロセスに関する研究	原田 守博	流域における水循環の再生と水災軽減
	大塚 貴弘	銅構造部材の座屈挙動に関する研究	日比野 隆	バイオエネルギー生産に寄与する微生物群の探索とその機能解析
	大知 聖子	中国北朝期における出土資料を用いた社会集団の分析	平岩 陸	粘弾塑性サスペンション要素法によるコンクリートの破壊挙動および収縮挙動に関する研究
	大原 賢一	農業自動化のための自律移動システムの開発	平松 美根男	カーボンナノ構造体の形成メカニズムの解明と成長の制御に関する研究
	小澤 哲也	グラスマン多様体の位相	藤井 幸泰	画像計測を用いた地質および地盤情報の可視化と数値化に関する研究
	景山 伯春	微生物・植物の環境ストレス応答の分子基盤解析	古川 裕之	時間発展流れ場における超臨界分岐と攪乱発達過程の特定に関する研究
	片桐 誠之	水処理・水資源循環利用技術の開発	ベトロス・アブラハ	電子ビーム励起プラズマによる超硬質薄膜創製法の開発
	加藤 幸久	成人病の運動療法 ―ライフスタイル変容による行動療法―	堀田 一弘	ディープラーニングの異分野への応用
	上山 智	ワイドギャップ半導体によるトンネル接合を用いた新規短波長デバイスの開発	本田 真己	環境低負荷型有機触媒を用いた新規カロテノイド加工技術の開発
	菅野 望	化石代替燃料の着火特性解明に向けた反応素過程の検討	益田 泰輔	再生可能エネルギーが大量導入された将来の電力系統における計画・運用・制御
	来海 博央	ナノ・マイクロレベルでの材料特性評価技術の開発による高信頼性・高機能性材料の設計技術の確立	松田 和宏	低～高層木質建物の耐震技術開発
	葛 漢彬	土木鋼構造物の耐震設計法の開発に関する研究	丸山 隆浩	カーボンナノチューブの結晶成長に関する研究
	久保 貴	乱流中の多成分物質の拡散・混合に関する研究		カーボンナノチューブの生成効率の向上と応用
	熊谷 慎也	細胞への刺激付与による生体反応の制御に関する研究	三浦 彩子	東アジアの禅宗建築史及び庭園史に関する基礎的研究
	小高 猛司	各種ジオマテリアルの変形・強度特性の解明と地盤挙動解析への適用に関する研究	溝口 敦子	土砂動態を考慮した戦略的河川管理の提案
	才田 隆広	種々の酸化物を用いた燃料電池用電極触媒の開発と活性発現要因の解明	宮北 恵子	イギリス文化研究―イギリス・ヘリテッジ文化と旅
	齊藤 公明	確率過程の構成的研究と量子情報解析への応用	三宅 克英	草食性陸ガニの生態と生理活性についての解析
	齊藤 毅	東海層群の花粉群集と古環境	宮嶋 孝夫	窒化物半導体を用いた超短パルスレーザの研究開発
	佐伯 壮一	皮膚組織粘弾性と毛細血管における微小循環相互作用のマイクロ断層可視化解明	武藤 厚	空間構造の耐震性能評価と向上策に関する研究
	佐藤 布武	散居集落における伝統的デザイン手法、景観構成要素の地域差に着目して	村上 祐一	高電界を用いた食品殺菌技術に関する研究
	清水 憲一	優れた成型性および信頼性を有する純チタン箔材の開発		次世代電力用遮断機の最適設計および開発
	神藤 定生	分子配向型の酵素を導入したシアノバクテリアによる二酸化炭素からのエチレン生産	村田 英一	電子間相互作用を考慮に入れた熱電子銃の数値解析に関する研究
	竹内 哲也	窒化物半導体レーザーダイオードに関する研究	森口 舞	カリブ諸国におけるナショナリズムの研究
	竹田 圭吾	光・プラズマ技術を用いた微細加工・ナノ材料合成に関する研究	山崎 彬人	ドライバの視認対象物の可視化と周辺環境認知状態推定
	田崎 豪	カメラによるロボットの移動作業技術の開発	楊 剣鳴	バイオメタンガスエンジン発電機の安定化・効率化およびプロトタイプによる検証
	田中 義人	遺伝子組換え植物を用いた環境ストレス応答機構の解析	六田 英治	単原子電子源の超高輝度化とシームレス・ナノ電磁界シミュレーションによる単一生体分子顕微鏡の設計
	田中 正剛	基質の構造特異的にフル-ゲル転移する自己組織化ペプチドの開発	渡辺 孝一	鋼製橋梁の安全性と修復性の向上に関する研究
	谷田 真	人間と構築環境との相互関係性に関する研究		
情報工学部	川澄 未来子	画像の色彩情報における美的感性の特徴量の抽出	坂野 秀樹	柔軟な声質制御が可能な歌唱音声合成システムの構築
	鈴木 秀和	シームレスな通信接続性と移動透過性を実現する通信アーキテクチャに関する研究	柳田 康幸	五感インタラクションによる現実空間と情報空間の融合
	田中 敏光	スマートグラスに適した指先を見る必要がない片手親指による文字入力システム	山田 啓一	少数データからの画像認識モデルの学習
	中野 倫明	認知機能の測定・評価技術の開発と高齢者の健康寿命向上への応用		
農学部	天野 健一	ライン光ピンセットによる粒子間相互作用と粒子表面構造の理解	長澤 麻央	畜産物の摂取を介したストレス制御法の探索
	磯井 俊行	糸状菌の植物バイオマス分解酵素の探索	新妻 靖章	野生動物のエネルギー・ダイナミクスに関する研究
	上船 雅義	植物が創出する生物間相互作用ネットワーク	橋本 啓史	サンバを頂点とした里山生態系の保全に関する研究
	氏田 稔	糖鎖遺伝子と糖質関連タンパク質の構造と機能	濱本 博三	機能性物質の特性をいかしたバイオ触媒型反応法の開発と生物活性化化合物合成への応用
	大浦 健	未規制リスク因子の環境動態解析ならびに生体影響評価	林 利哉	食肉の機能改善に関する研究
	奥村 裕紀	脊椎動物受精の分子メカニズムの解明と人為的制御法の開発	林 義明	未利用資源を用いた家畜の生産性向上と家畜の新たな活用法に関する研究
	長田 典之	暖温帯林に共存する落葉広葉樹の展葉フェノロジーの温暖化応答予測	日野 輝明	土壌と地上の食物連鎖におけるボトムアップ効果とトップダウン効果の解明
	加藤 雅士	有用糸状菌の転写、翻訳、タンパク質の局在化調節機構の解明とその応用	平尻 慎太郎	農山村景観の保全・管理に向けた合意形成の経済評価

学術研究

所属部署	申請代表者名	研究課題	申請代表者名	研究課題
農学部	黒川 裕介	エチレンのイネ葉身/葉鞘長に及ぼす生理学的効果	平野 達也	イネの生育と炭素および窒素代謝制御に関する研究
	近藤 歩	乾燥適応型光合成CAMの多様性とその制御機構に関する研究	細田 晃文	微生物の酸化・還元能を利用した金属回収技術に関する研究
	志水 元亨	糸状菌の新規PARGの探索およびその生理学的役割の解明	前林 正弘	弾性表面波によるハイドロゲルの弾性特性に関する研究
	田村 廣人	人工化合物の環境動態および毒性発現機構に関する研究	松儀 真人	生物活性物質合成を指向した新反応開発
		リボソームプロファイリングと転写翻訳制御機構に関する研究	湊 健一郎	食品因子の生活習慣病予防効果における網羅的解析
	近澤 未歩	自然免疫系の制御を介した食による健康効果の解明	村野 宏達	汚染土壌中の疎水性有機化学物質の存在形態に土壤有機物が与える影響の解析
	塚越 啓央	植物の根圏形成を司る分子メカニズムの解明とその応用	森田 裕将	ツバキ属植物を中心とした園芸植物の分類学的研究
	津呂 正人	ラベンダーの形質変異と精油生成関連遺伝子の探索に関する研究	安原 和也	認知言語学の総合的研究、農学英語（科学英語）の教材開発に関する基礎研究
	藤 茂雄	植物ホルモン超感受性レセプターの開発	汪 光熙	東海丘陵要素植物の内生真菌の多様性及び生物活性に関する研究
	中尾 義則	果樹の環境適応能力とその獲得機構		
薬学部	飯田 耕太郎	医療人の養成を目指す6年制薬学教育における新しい教育技法の開発とその評価に関する研究	武永 尚子	高反応性炭素-ヨウ素結合を利用した新規変換反応の開発
	井藤 千裕	植物資源から新規抗がん作用物質の発見と応用研究	田辺 公一	終末期がん患者における在宅療養と病院療養の緩和ケアの質評価と費用対効果
	衣斐 大祐	抗精神病薬の慢性使用が認知機能に与える影響	築山 郁人	抗がん剤、分子標的薬の最適投与設計を可能とする分子診断法開発基礎研究
	今西 進	タンパク質翻訳後修飾の網羅的解析および新規分析手法の開発	都築 孝允	運動による肥満・糖尿病の改善効果におけるレドックス制御機構の役割
	植田 康次	生体関連元素・低分子の総体評価を基盤とした毒性・衛生化学	豊田 行康	生体内のグルコースセンシングメカニズムの解明
	打矢 恵一	サルモネラ菌の病原因子の機能解析と新規薬物療法への展開	西川 泰弘	カチオン性複素環を電子伝達に利用する新規合成手法の開発
		非結核性抗酸菌の増加要因の解明と予防および治療への応用	丹羽 敏幸	薬剤ナノ粒子設計のための製剤基盤技術の開発
	梅田 孝	名城大学体育会運動部員のスポーツ医科学手法を用いた強化、育成方法の考案と実践に関する検証	根岸 隆之	環境化学物質ばく露が脳の構造と機能に与える影響の包括的評価系の確立：遺伝子発現から高次脳機能まで
		本学運動部員における適切なトレーニング方法、コンディショニング（栄養摂取・休養の取り方）方法の考究、構築に関する研究	能勢 充彦	漢方方剤の科学的解析－薬効の有用性評価とその作用機序の解明
	大津 史子	患者の自覚症状（訴え）及び患者背景からの医薬品副作用の推測に関する研究	野田 幸裕	精神疾患における情動・認知障害と神経変性に関与する脆弱分子の探索・モデル動物と臨床からのアプローチ
	岡本 浩一	製剤の肺内分布を考慮した遺伝子微粒子吸入剤開発	橋本 和宜	糖尿病治療薬による副作用発現機構の解明
	奥田 知将	肺内ナノ粒子形成型吸引粉末剤の開発	長谷川 洋一	薬剤師需給及び薬剤師の専門性に関する研究
	小田 彰史	残基の変異タンパク質立体構造に与える影響についての分子シミュレーション	原 脩	低環境負荷型反応剤の開発と応用
	加藤 美紀	薬物動態関連因子を介した薬物相互作用ならびに毒性発現に関する研究	半谷 眞七子	患者満足度の向上を目指したコミュニケーションスキルトレーニングの構築
	金子 美由紀	本学バレーボール部員における適切なトレーニング方法、コンディショニング（栄養摂取・休養の取り方）方法の考究、構築に関する研究	日坂 真輔	脂質過酸化由来の修飾構造をバイオマーカーに用いた生薬及び漢方方剤の科学的解析
	亀井 浩行	精神疾患における認知機能評価法の構築	平松 正行	認知症モデル動物に発現する遺伝子の固定に関する研究
	北垣 伸治	効率的な分子変換及びそれを実現する触媒の開発研究	間宮 隆吉	脳機能障害改善物質の探索と食品および医薬品への応用
	栗本 英治	タンパク質の特性を応用したバイオ分子センサーの開発	水本 秀二	グリコサミノグリカン糖鎖の合成異常による遺伝病とがん・アルツハイマー病の解析
	小島 良二	腎臓疾患の発症・進展に関与する新規遺伝子の同定	水野 初	1細胞質量分析法によるオルガネラメタボロミクスの開発
	小森 由美子	蛇毒、および真菌由来酵素の生理作用に関する研究－細胞障害性を中心として－	村田 富保	多機能性タンパク質レギュラチンの病態生理的役割に関する研究
		ヒト常在菌によるバイオフィルム形成に関する研究	守屋 友加	遺伝子診断に基づく小児薬物療法の最適化に関する研究
	近藤 啓太	機械的乾式処理法による機能性微粒子製剤の粒子設計	柳澤 聖	クリニカルプロテオミクス解析による悪性腫瘍の新規分子診断・治療法の開発基盤構築
	酒井 隆全	医療ビッグデータを用いた妊婦の医薬品安全性に関する薬剤疫学研究	山田 修平	ヒアルロニダーゼの医療応用を指向した生化学的研究
	坂井 健男	電子求引的シクロペンタジエニド塩を用いた新規反応開発	湯川 和典	脳内ホメオスタシスにおけるミクログリア内セマフォリン信号伝達機構の役割解明
	神野 透人	ゲノム編集による実験動物モデルの精緻化に関する研究	吉田 圭佑	キラリナピリジンN-オキシド触媒の創製とエナンチオ選択的シリル化への展開
	高谷 芳明	食品中の機能性分子の探索研究	輪島 丈明	ヒト組織感染モデルを用いた治療効果を指標とする新たな治療薬評価系の開発
	田口 忠緒	学習意欲の高揚を目的とした効果的な薬学教育技法の開発に関する研究		
外国語学部	グレゴリー・マイネハン	英語教育教材づくりとプログラム開発	西尾 由里	言語能力及び異文化感受性における国際共修の研究
	鈴村 裕輔	戦後における石橋湛山の研究活動に関する総合的研究	柳沢 秀郎	アーネスト・ヘミングウェイの「書き込み」資料に基づいた研究
	富岡 徹	日本人の身体・運動特性を鑑みた運動指導について		
理工学研究科	飯島 澄男	ナノカーボン材料の生成と物性評価	金子 真	人工心臓と人工毛細血管を使った赤血球変形能評価
	金子 真	生体の高速周期運動の肉眼による可視化と定量的評価		赤血球変形能と脳活性度相関に関する基礎的研究
教職センター	片山 信吾	確かな実践力を育成する教員養成に関する総合的な研究	谷口 正明	アジア圏におけるSTEM教育に関する国際共同研究
	曾山 和彦	教職課程履修学生の自尊感情、ソーシャルスキルを高める体験型授業の検討		

2023年度 総合研究所研究センター

研究センター名	研究代表者名	選定年度〔継続年度〕	研究センター名	研究代表者名	選定年度〔継続年度〕
難治性疾患発症メカニズム研究センター	薬学部教授 山田 修平	2019年度～2023年度	疾患予防食科学研究センター	薬学部教授 村田 富保	2022年度～2024年度
次世代エネルギーマテリアルイノベーションセンター	理工学部教授 内田 儀一郎	2020年度～2022年度	光デバイス研究センター	理工学部教授 竹内 哲也	2022年度～2024年度 ※1
プラズマバイオ応用研究センター	理工学部教授 伊藤 昌文	2020年度～2022年度 (2023年度)	ナノマテリアル研究センター	理工学部教授 丸山 隆浩	2022年度～2024年度 ※1
ダイバーシティ・リサーチ・センター	法学部教授 近藤 敦	2021年度～2023年度	自然災害リスク軽減研究センター	理工学部教授 小高 猛司	2022年度～2024年度 ※1
クリニカルオミクスを基盤とするトランスレーショナルリサーチセンター	薬学部教授 柳澤 聖	2021年度～2023年度	次世代バッテリーマテリアル研究センター	理工学部教授 内田 儀一郎	2023年度～2025年度 ※1
自動車部品電動化戦略研究センター	経営学部教授 田中 武憲	2023年度～2025年度	健康・スポーツ医学科学研究センター	薬学部教授 梅田 孝	2023年度～2025年度 ※1
カーボンニュートラル物質改質技術研究センター	理工学部教授 竹田 圭吾	2023年度～2025年度	※1: 3年毎更新の継続事業		

2023年度 総合研究所 学術研究奨励助成制度課題

1.「研究基盤支援事業費」

学部	代表者名	研究課題	学部	代表者名	研究課題
経済学部	杉本 大三	インドにおける零細農家の在立基盤と生存戦略の研究	農学部	濱本 博三	藻類由来イオン性高分子質の活用を鍵とした酵素反応メディアの設計
理工学部	熊谷 慎也	生物個体に対する大気圧プラズマ照射効果の解析-大気圧プラズマ照射によるモデル生物C.Elegansの行動様式の制御に向けて-	薬学部	亀井 浩行	統合失調症患者の効率的な社会参加を促すための認知機能評価の開発
	成塚 重弥	逆臨界膜厚エピタキシーを用いたInGaN層中の転位の低減		加藤 美紀	チロシンキナーゼ阻害薬による新規抗腫瘍効果発現メカニズムの解明
	村上 祐一	シリコーンゲル絶縁材料の絶縁破壊修復過程に関する研究		水本 秀二	ヌクレオチド代謝酵素の変異による遺伝性骨疾患の発症機序の解明
農学部	志水 元亨	生きた麹菌の摂取が宿主の腸内環境に及ぼす影響の解明		輪島 丈明	小児呼吸器感染症起炎菌における同種、異種間薬剤耐性水平伝播機構の解析

2.「研究促進事業費」

学部	代表者名	研究課題	学部	代表者名	研究課題
理工学部	葛 漢彬	鋼構造物のき裂進展評価法の開発と精度検証	薬学部	小田 彰史	分子動力学シミュレーションを用いたドッキング結果評価のための相互作用解析
農学部	湊 健一郎	M2マクロファージ分化誘導能を介した抗炎症作用機作の解明	人間学部	谷口 義則	地球温暖化による冬季の水温上昇と融雪出水の増大が希少魚類に及ぼす影響予測
	塚越 啓央	植物発生プログラムによって書き換えられる概日時計因子の新機能	教職センター	谷口 正明	授業中の教師の一人称注視点の分析

3.「研究成果展開事業費」

学部	代表者名	研究課題	学部	代表者名	研究課題
理工学部	来海 博央	ワンショット型ラマン分光技術によるセルロースナノファイバーの分子配向とひずみの同時計測	薬学部	打矢 恵一	Mycobacterium avium の抗菌薬に対する抵抗性のメカニズムの解明
	堀田 一弘	面積が小さい物体のセグメンテーション精度向上に関する研究		丹羽 敏幸	多様なキセロゲル小球(OD錠型・キャンディ型)の開発と嚥下性能評価法の確立
	益田 泰輔	送電ネットワーク制約を考慮した電源開発計画と電力市場制度設計		衣斐 大祐	幻覚薬の難治性うつ病治療効果に関する分子・神経基盤の解明
	片桐 誠之	下水汚泥のバイオ燃料化を促進する高度脱水プロセスの開発		奥田 知将	新規添加剤から成る多機能性吸入用粉末微粒子の創製および有用性検証
	本田 真己	カロテノイド異性体による肌質改善作用の機序解明		武永 尚子	超原子価硫黄活性種を用いた不活性炭素-水素結合の官能基化法の開発
農学部	平野 達也	イネ茎部における出穂後のデンプン分解制御に関与する遺伝子の機能解析			

4.「出版・刊行助成事業費」

学部	代表者名	研究課題(書名)
	対象者なし	

5. スタートアップ研究支援事業費

学部	代表者名	研究課題(書名)
	対象者なし	

5. 領域指定研究基盤形成支援事業費

学部	代表者名	研究課題(書名)
理工学部	道正 泰弘	CO2排出削減・固定量を最大化できるコンクリート系材料に関する研究
理工学部	神藤 定生	高集積化酵素複合体を用いたCO2を資源とするエチレン生産
農学部	近藤 歩	廃棄資材を活用したサボテン栽培システム栽培システムの構築(サステナブルなバイオマス生産モデルの提示)

6. 領域指定研究支援事業費〔事業期間:2年間〕

学部	代表者名	研究課題	学部	代表者名	研究課題
理工学部	土屋 文	二酸化炭素吸収セラミックスを利用したメタネーション技術開発研究	農学部	松儀 真人	空気で駆動する環境保全型酸化触媒システムの開発
理工学部	景山 伯春	再生可能資源生産に応用可能なシアノバクテリア株の創製	薬学部	坂井 健男	多段階連続反応による天然物様縮環アミンライブラリの構築

教育活動

■ FD(Faculty Development)^(注) ～学生の主体的な学びを促す大学教育をめざして～

名城大学では、各学部等がそれぞれ展開するFD活動とともに、全学的なFD活動を推進しています。また、大学教育開発センターは、大学教育開発センター委員会と協働し、各学部等のFD活動を支援するとともに、このFD活動の中核を担い、教育内容および教育環境の改善、教育技法の改善・向上をめざし、学生による授業改善アンケート、FD・SDフォーラム、FD・SD学習会、新任教員FD・SD研修会、教育年報及びFD・SD活動報告書の発行、教育技法の改善等を目的としたセミナー等への派遣、教育功労賞表彰などを企画し、実施しています。

注:FD(ファカルティ・ディベロップメント)とは、中央教育審議会答申「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～」(2012年8月)によると、教員が授業内容・方法を改善し向上させるための組織的な取り組みの総称とされています。単に授業内容・方法の改善のための研修に限らず、広く教育の改善、更には研究活動、社会貢献、管理運営にかかわる教員団の職能開発の活動全般を指すものとしてFDの語を用いる場合もあります。

1 授業改善アンケート

2000年度から全学一斉に「授業改善アンケート」を実施しています。2003年度には東海三県の大学では初めて民間企業で顧客満足度を測るために用いる「CS分析」を本学教員が独自で開発した手法で授業評価に導入しました。2005年度には、学生がアンケートの項目の作成にかかわり、学生の視点から教育改善に必要な情報を得るための授業改善アンケートを実施しました。その後、2016年度からは、効率的な授業評価を行う手法の一策として、webを利用した授業改善アンケートを試行的に実施し、2017年度には本格的にwebアンケートの実施へと移行しました。

2 FD・SDフォーラム

学内外から講師を招き、基調講演やワークショップを行い、全学的な教育改善の動きを共有する場として位置づけています。

3 FD・SD学習会

今日、高等教育に係る教育改革については、中央教育審議会の答申をはじめとする多くの提言がなされています。本学では、このような情報を共有する場として、喫緊の課題をテーマに開催しています。また、新しい教育技法を体験的に学ぶ場とする企画も実施しています。

4 新任教員FD・SD研修会

主に新任の教員を対象として、FD・SD研修会を実施しています。大学における授業設計やシラバス作成方法など、新任教員に必要なテーマを企画し、教育の改善、向上に努めています。

5 教育年報及びFD・SD活動報告書の発行

教育年報では、本学における優れた教育実践やその成果を共有・蓄積し、広く教育の質の向上に資することを目的として、教育実践報告を掲載しています。また、FD・SD活動報告書により学内外に本学のFD活動及び教育に関わるSD活動について、情報発信に努めています。どちらも大学ウェブサイトを通じて広く公表をしています。

6 教育技法の改善等を目的としたセミナー等への派遣

全国の国公立大学において実施されたFDに関連した企画・研修会・講演会へ教職員・大学院生を派遣し、FDにかかわる取り組みに生かしています。



7 教育功労賞制度

教育功労賞制度は、教育改善に対する意識を高め、組織の活性化を図り、教育の質の向上に資することを目的として、教育活動および教育改善に貢献した教職員を学長が表彰する制度です。2022年度は、以下の取り組みを表彰しました。

区分	受賞者・グループ	所轄部署・所属学部	活動内容
特別教育功労賞	「データサイエンス・AI入門」 科目運営委員会 及び ワーキンググループ	大学教育開発センター 学務センター	「データサイエンス・AI入門」の構想および運営
教育功労賞	宮田 喜久子	理工学部	実践的教育機会の実現支援と高大連携教育による次世代の育成
教育功労賞	新学部検討ワーキンググループ (カリキュラム関係)	情報工学部	情報工学部設置に伴う「柔軟な学びのフレームワーク」の提案と実装

■ 入学前教育

学校推薦型選抜等、早期の合格決定者を対象に大学への導入教育の一環として、入学前オリエンテーション及び入学前学習プログラム(MECプログラム)を実施しています。これは、高校までの学習歴等による入学生の学力のばらつきの解消およびそれに伴う学習転換期における円滑な大学教育との接続を支援し、学生の大学における学習意欲の向上をめざすものです。MECプログラムは2001年度から実施し、現在は『通信教育』及び『自己学習テキスト』で構成されています。受講者は、「日本語表現」「英語」「数学」「理科(物理・化学・生物)」のうち、学部が指定した教科から2科目を選択できるようになっています。特に「日本語表現」は、実際にレポートを提出・添削することで大学での学習で必須とされる文章表現力を身につけることができ、注目を集めています。なお、MECプログラムとは、Meijo Encouraging Programの略称です。



■ 入学後学習支援

これまでも各センターにおいて、学生生活の支援・相談、進路選択・就職活動の支援・相談、課外活動に関する相談、健康支援・相談、留学および留学生の支援・相談等のさまざまな学生への支援活動を展開してきましたが、大学教育開発センターは、より豊かな学生生活の実現を目的として、2014年度から入学後学習支援として、「名城サプリメント教育」と「学習サポートルーム」を開設しました。

1 名城サプリメント教育

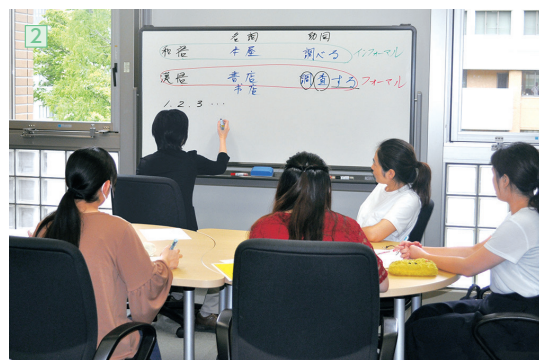
高等学校段階における未履修、もしくは学習が不十分な教科・科目のうち、入学後の専門教育を履修する上で特に重要な諸単位について補習を行うことによって、正課における学修の充実を図ることを目的に開設したもので、学生は、学部・学科を問わず、興味のある単位ごとに出席することが可能です。現在は、理科(物理・化学)、レポート書き方入門を対面で開講しています。また、スタディサプリを活用したオンデマンド開講も行っています。



2 学習サポートルーム

学習の意欲や方法に関して特に問題を抱え、積極的かつ効果的な形で正課の学習に参加できていない学生を対象に、直面する諸問題を一緒に考え、解決をアシストすることを通して、学生自身が自立した学習の意欲、方法を身につけ、充実した学生生活が送れるようサポートすることを目的としています。

また、学習サポートルーム内限定で、スタディサプリを活用した学習も可能です。



教育活動

■ 出前講義

本学では、知的財産の地域社会への還元および社会的貢献に寄与することを目的として、教職員が地域に出向いて授業を行う出前講義を実施しています。出前講義は全学部が対象であり、広範なテーマでの授業が可能です。

地域の方々には生涯学習の機会提供として、また、高校生には高校卒業後の進路をどのような分野で学んでいくかを考える機会として大学受験のモチベーションづくりに役立てられ、実施のご要望を毎年数多くいただいています。

最新情報、申込方法等については、本学ウェブサイトにてご案内しています。

■ 過去5年間の出前講義実施件数

年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
高校	69件	51件	55件	60件	58件
地域	25件	27件	9件	14件	20件

■ 2022年度 出前講義テーマ一覧(抜粋) (2023年3月末現在)

分野	学部等	講師	テーマ
政治	法学部	伊藤 亮吉	国民の司法参加と裁判員制度
経営	経営学部	田中 武憲	イノベーションと日本のものづくり
心理	人間学部	原田 知佳	怒りのコントロール～子育てに生かす心理学～
外国語	外国語学部	鈴木 裕輔	オリンピックとメディアの発達
		藤原 康弘	これからの英語教育の話をしよう
数学	理工学部	小澤 哲也	楕円
		村瀬 勇介	ゲームの必勝法を考えよう～「必勝」になるふしぎに触れる～
	教職センター	竹内 英人	親子さんすう・数学教室
電気・電子	理工学部	村田 英一	次世代薄型テレビ フィールド・エミッション・ディスプレイの最新動向
メカトロニクス		平松 美根男	役に立つプラズマ
建築		楊 剣鳴	メカトロニクスとは
環境	都市情報学部	武藤 厚	空間の構造デザイン～歴史的建築から現代のドームまで～
	人間学部	大野 栄治	住民参加型の再エネ事業とまちづくり
農学	農学部	谷口 義則	水辺の生態系を守るには？(英語による講義も可能)
		氏田 稔	血液型占いは当たるのか？
		津呂 正人	組織培養を用いた植物の大量増殖と遺伝子組換え
		林 利哉	ソーセージやチーズの科学
薬学	薬学部	松儀 真人	有機化学おもしろいよ！
		大津 史子	くすりとの正しいつきあい方
		小森 由美子	予防接種で感染予防
		高谷 芳明	身のまわりの天然資源に薬の素をさがそう
		田口 忠緒	放射線って何だろう？ 放射線は怖いのか？
		湯川 和典	ミクログリア細胞と脳の病気
		平松 正行	身近なくすりに興味を持とう ー薬の作用と副作用ー

■ 飛び入学制度

17歳で大学入学・20歳で大学院入学も可能

理工学部数学科では、特に強い勉強意欲を持って努力することができ、数学およびその関連分野において教育・研究を志す高校2年修了者(17歳)を対象とする「飛び入学制度」を導入しています。数学分野での飛び入学制度は全国初の試みで、これまで、大学院生、教員等社会人として卒業生を送り出してきました。入学後は、数学科の教育課程での学習により数学の理解を深めるとともに、各学生の個性と研究テーマを大切に育てていけるように、学生、教職員、一般市民の皆さんとともに、公開セミナーや小中学生向けの講座での体験を通して、主体的な学びをすすめています。また、大学院への飛び入学制度を利用すれば、20歳の時点で大学院への進学も可能となります。

これまでの入学者数

年度	2001～2023年度
人数	27人

〈卒業生の進路〉

- ・名城大学大学院
- ・国公立大学大学院
- ・高校教員
- ・一般企業

■ 公開講座等

本学では、学術研究の成果を地域社会へ還元できるよう、本学専任教員を中心に、学外から著名な専門家を講師に招いて、多彩なテーマの公開講座を開講しています。また、実学重視の科目を配し、企業等と連携して寄附講座や連携講座を開講しています。社会の第一線で活躍する実務家、研究者、技術者等を招き講義を行うことで、学生の視野を広げ興味を奮い立たせることを目的としており、学生たちに大きな刺激を与えています。

2022年度に実施した寄附講座等

法学部

名城大学法学部の卒業生による進路支援講座「名城進路講座 大志を抱け」

開催日	テーマ	開催日	テーマ
4月12日	オリエンテーション・レポート作成法	6月21日	名城生の特徴とこれからの社会
4月19日	高校と大学の違い	6月28日	夢をつかむために
4月26日	自分を見つめる・名城大学のルーツ	7月5日	これまでの大学生活で取り組んだこと
5月10日	自分の人生をプロデュースしよう	7月12日	話し方講座・発表①
5月17日	まだ見ぬ自分の可能性を引き出す方法	7月19日	発表②
5月31日	時間は有限である ～何を決め、何を捨てるか～	7月25日	大学生の政治入門
6月7日	仕事に向き合う姿勢 コロナ・就活早期化・外国人労働者	7月26日	プレゼンテーション実践②・先輩に聞く・総まとめ
6月14日	外国生活や仕事における苦手とその付き合い方		

名城大学法学部の卒業生による進路支援講座「名城進路講座 考動力」

開催日	テーマ	開催日	テーマ
9月20日	オリエンテーション 進路選択と進路決定、進路へ向けた計画的な取り組み	10月18日	企業側から見た学生 業界研究・企業研究 起業家・経営者から見た学生 起業家・経営者が求める人材
9月27日	進路を決めるにあたってやるべきこととは!? 今から始める就職活動	10月25日	民間企業のしごと 人事担当者は学生のどんなところを見ているか? 営業職ってどんな仕事? 会社にはどんな仕事があるのか?
10月4日	自分を未来へ導こう 今すぐ役立つ自己分析と自己PR術	11月1日	公務員の魅力 第1部 県庁・市役所職員 第2部 警察官
10月11日	コミュニケーション能力 自己PR実践講座	11月8日	豪華土業セミナー 法律を活かした仕事の実態 総まとめ

千賀修一先生寄付講座「千賀修一先生寄附講座「法律入門」

開催日	テーマ	開催日	テーマ
4月11日	開講にあたりー法律学の学びへの誘いー	6月6日	法律入門(行政書士の立場から、法律を学ぶことの意義について講義)
4月18日	法律入門(弁護士の立場から、法律を学ぶことの意義について講義)	6月13日	法律入門(弁護士の立場から、法律を学ぶことの意義について講義)
4月25日	法律入門(元検事の立場から、法律を学ぶことの意義について講義)	6月20日	法律入門(弁護士の立場から、法律を学ぶことの意義について講義)
5月2日	法律入門(司法書士の立場から、法律を学ぶことの意義について講義)	6月27日	法律入門(土地家屋調査士の立場から、法律を学ぶことの意義について講義)
5月9日	法律入門(不動産鑑定士の立場から、法律を学ぶことの意義について講義)	7月4日	法律入門(弁理士の立場から、法律を学ぶことの意義について講義)
5月16日	法律入門(弁護士の立場から、法律を学ぶことの意義について講義)	7月11日	資格取得と法律/公務員試験と法律
5月23日	法律入門(税理士の立場から、法律を学ぶことの意義について講義)	7月18日	学生生活関係について/教務関係・進路について
5月30日	法律入門(社会保険労務士の立場から、法律を学ぶことの意義について講義)		

愛知県土地家屋調査士会提供寄附講座「不動産登記と土地家屋調査士」

開催日	テーマ	開催日	テーマ
4月6日	ガイダンス・表題登記	6月8日	土地家屋調査士と相続1
4月13日	登記制度と不動産登記法	6月15日	土地家屋調査士と相続2
4月20日	土地に関する表題登記1	6月22日	表題部に関する登記実務の流れ(他法令との関連)
4月27日	土地に関する表題登記2	6月29日	土地の境界立会に関する実務
5月11日	建物に関する表題登記(普通建物)	7月6日	デスクワークとフィールドワーク
5月18日	建物に関する表題登記(区分建物)	7月13日	ドローン、3Dレーザースキャナを使用した最新測量
5月25日	測量に関する理論と実務1	7月20日	登記制度の遍歴
6月1日	測量に関する理論と実務2		

教育活動

理工学研究科

特別講義
協力企業：ウエスタンデジタル合同会社、浜名湖電装株式会社、キャノン株式会社、学校法人立命館大学、日本電気株式会社（NEC）、株式会社栗本鐵工所、国立研究開発法人産業技術総合研究所、トヨタ自動車株式会社、日本製鉄株式会社、ソニー株式会社（順不同）

開催日	テーマ	開催日	テーマ
5月12日(木)	日本の電子産業を支える単結晶 ～単結晶の持つ周期構造と電磁波との相互作用～	5月14日(土)	社会における技術者の役割
5月19日(木)	「シリコン」の可能性 ～造り、創った20年 研究、開発、生産を渡り歩いて～	5月21日(土)	電池と軽量化技術 ～自動車の未来を造るために～
6月9日(木)	特許の基礎と実情	5月26日(木)	燃料電池の最近の進歩 燃料電池の課題と研究への期待
6月18日(土)	青色半導体レーザーの研究開発の歴史と進展 ～ソニーにおける研究開発を通して～	6月2日(木)	燃料電池開発の背景 燃料電池の概論
6月30日(木)	エネルギー問題とその解決に貢献する エネルギーデバイス	6月4日(土)	持続性社会のための材料・製造技術
7月21日(木)	IoTデバイス応用に向けたナノカーボンの材料開発	6月25日(土)	成形加工技術・材料の現状と将来 ～自動車部品を事例に～
7月28日(木)	量子力学の原理を活用した計算技術	7月7日(木)	プリントエレクトロニクス ～印刷技術で電子回路を製造する～

(令和4年度実績)

社会連携センター

株式会社エクシング提供講座「社会をフィールドにした実践型プログラムiMPACT!」(オンライン)

開催日	テーマ	開催日	テーマ
6月7日(火)	リーダーシップイントロ-課題発表キックオフ-	6月28日(火)	進捗発表ービジネス実践プラン発表
6月14日(火)	チームビルディング	7月5日(火)	最終プレゼンテーション チームと個人のリーダーシップ振り返り
6月21日(火)	問題・課題・解決策のインプット		

アビームシステムズ株式会社提供講座「社会をフィールドにした実践型プログラムiMPACT!」(オンライン)

開催日	テーマ	開催日	テーマ
11月7日(月)	リーダーシップイントロ-課題発表キックオフ-	11月28日(月)	進捗発表とフィードバック
11月14日(月)	チームビルディング	12月12日(月)	最終プレゼンテーション チームと個人のリーダーシップ振り返り
11月21日(月)	問題・課題・解決策のインプット		

2022年度 公開講座一覧

学部主催の公開講座

学部等	講演テーマ	開催日	講師
法学部	医療・衛生と法の歴史	11月19日(土)	法学部准教授 代田 清嗣
農学部	<食と農の安全を考える>環境に配慮した新しい農業の展開【オンライン】 ①敵の天敵を味方につけるー天敵昆虫を使った害虫制御ー ②廃棄物由来エネルギーを活用した大規模施設園芸の取り組み	6月4日(土)	①国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 企画戦略本部 安部 順一朗 氏 ②株式会社富士環境整備アグリ事業部長 室田 治彦 氏
	<生物・人・自然の調和を考える>野生動物を科学する【ハイブリッド】	11月26日(土)	日本学術振興会特別研究員 森 智樹 氏 日本学術振興会特別研究員 木下 千尋 氏
	<フィールドの科学>今、有機農業、自然栽培を考える	12月17日(土)	農学部教授 磯井 俊行 農業生産法人みどりの里 野中 慎吾 氏
理工学部	巨大沿岸災害について考える	10月1日(土)	理工学部社会基盤デザイン工学科特任教授 川崎 浩司
	道路舗装における環境問題、サステナビリティへの取り組み	12月17日(土)	鹿島道路株式会社専務執行役員 布村 伸一 氏 理工学部環境創造工学科教授 道正 泰弘
薬学部	<<すりと健康>>【ハイブリッド】 ①安いけど大丈夫?わたしの“ジェネリック医薬品” ②化学物質とうまく付き合うための取り組み	10月15日(土)	薬学部教授 丹羽 敏幸 薬学部准教授 岡本 誉士典
都市情報学部	再生可能エネルギー事業と地域活性化	6月16日(木)	都市情報学部教授 大野 栄治
	Withコロナ時代の観光の“今”と“これから”【ハイブリッド】	11月5日(土)	愛知大学地域政策学部非常勤講師 田中 三文 氏
人間学部	飼育したからわかる魚の不思議～私が沼にハマったナマズの話～	10月1日(土)	世界淡水魚園水族館「アクア・トトぎふ」館長 池谷 幸樹 氏 人間学部教授 谷口 義則
外国語学部	これからの英語教育：小学校編/中学校・高等学校編【オンライン】	小学校編 9月24日(土) 10月1日(土) 10月8日(土) 10月15日(土) 中学校・高等学校編 11月5日(土) 11月12日(土) 11月19日(土) 11月26日(土)	小学校編 外国語学部教授 西尾 由里 外国語学部准教授 ジェイムス・ロジャース 京都市立二条城北小学校教諭 俣野 知里 氏 中学校・高等学校編 外国語学部教授 藤原 康弘 外国語学部教授 ポール・ウィキン 外国語学部教授 宮崎 新 名城大学附属高校教諭 杉本 健

研究所・センター主催の公開講座

学部等	講演テーマ	開催日	講師
総合研究所	名城大学カーボンニュートラル研究推進機構シンポジウム【オンライン】 「カーボンニュートラル達成にむけた名城大学発の研究推進」	10月10日(月)	カーボンニュートラル研究推進機構名誉顧問終身教授 吉野 彰
社会連携センター	Light up my way! ～人生100年時代の選択力・表現力・行動力を高める3DAYSプログラム～ 【対面】 【オンライン】	2月19日(土) 24日(木) 3月12日(土)	(株)Rubato 代表 松上 純一郎 氏、尾上 俊介 氏、小泉 曉子 氏
名古屋大学学術研究・ 産官連携推進本部と 社会連携センターの共催	空間のミライ：いごちのよさを考える【オンライン】	11月23日(水・祝)	理工学部建築学科准教授 谷田 真 名古屋大学情報学研究科准教授 磯村 朋子 氏

地域との連携・共催講座

天白生涯学習センターとの共催講座

学部等	講演テーマ	開催日・期間	講師
理工学部・薬学部・就職センター×天白区	【名城大学共催】親子で楽しい数理科教室	6月11日(土) 6月25日(土) (全4回)	①理工学部准教授 齊藤 毅 ②就職センター准教授 谷口 正明 ③薬学部教授 黒野 俊介 ④薬学部准教授 間宮 隆吉

東区との共催講座

学部等	講演テーマ	開催日・期間	講師
外国語学部	【名城大学共催】Let's Play バトミントン 春先の心地よい季節に、バトミントンで楽しんでみませんか?	5月14日(土)	外国語学部教授 富岡 徹
	【名城大学共催】多様な視点から「持続可能な開発目標(SDGs)」を考える ①SDGsと日本:誰も取り残されない社会とは何か ②SDGsと観光:SDGs達成への観光の貢献とは ③SDGsと食:東北タイの昆虫食	6月2日(木) 6月16日(木) 6月30日(木)	①外国語学部助教 宮下 大夢 ②外国語学部教授 二神 真美 ③外国語学部教授 津村 文彦
	【名城大学共催】人間学部教授 伊藤俊一がおくる「荘園への招待」 ①荘園史の流れ ②気候変動と荘園 ③荘園の世界	10月27日(木) 11月10日(木) 11月17日(木)	人間学部教授 伊藤 俊一

日進市との連携講座

学部等	講演テーマ	開催日・期間	講師
理工学部	<子ども大学にっしん>3Dプリンターを使って“ものづくり”を体験してみよう!	4月30日(土)	理工学部メカトロニクス工学科教授 大原 賢一
農学部	【名城大学共催講座】生き物・環境と農業のお話し ①植物のかおりの世界～植物のかおりを害虫防除へ～ ②微生物は敵か味方か!?微生物を利用した植物保護技術 ③土と持続可能な未来	①2月25日(土) ②3月4日(土) ③3月11日(土)	①農学部教授 上船 雅義 ②農学部助教 藤原 和樹 ③農学部教授 村野 宏達

刈谷市との連携講座

学部等	講演テーマ	開催日・期間	講師
外国語学部	【名城大学連携講座】野球が国民的スポーツになるまで ～野球日本伝来150周年記念～	6月4日(土) 6月18日(土) 7月2日(土)	外国語学部准教授 鈴村 裕輔
	【名城大学連携講座】親子で楽しむ英語絵本読み聞かせ講座	12月11日(日)	外国語学部教授 西尾 由里、西尾ゼミ生

氷見市・名城大学連携協議会事業

学部等	講演テーマ	開催日・期間	講師
農学部	昆虫講座	8月20日(土)	農学部教授 山岸 健三
理工学部	LED 講座	8月20日(土)	理工学部材料機能工学科教授 竹内 哲也

社会連携事業等

名城大学は、社会連携センターが中心となって大学と社会の資源をつなぎ、主体的に学び続ける「実行力ある教養人」の育成、「学問の探求と理論の応用」を通じた研究成果の教育と社会への還元、社会との「人的交流」を通じた地域活性化に貢献します。
ナゴヤドーム前キャンパスには、誰もが自由に使えるオープンコミュニケーションスペース「社会連携ゾーンshake」があります。学生・教職員だけではなく、企業・自治体・NPOなど多様な方が年齢・職業を超えてフラットに集い、交流し、情報や学びを共有する場として活用いただいています。
また、天白キャンパスにも、ものづくりを通じた実践的な学びや多様なプロジェクトを行う場として「起業活動拠点ものづくりスペース M-STUDIO」があります。新しいアイデアをカタチにする活動を通して、幅広い人々のクリエイティブな交流が生まれる場を目指します。

※2022年度は新型コロナウイルス感染拡大の防止に対応するため、社会連携ゾーンshakeの一般への貸し出しは行わず、社会連携センターの様々な活動はオンラインにて実施しました。

2022年度社会連携実績 301件※ ※社会連携センターがコーディネートした社会連携件数のみ

【主な実績(一例)】

1 学外機関と連携した正課内授業、ゼミ・研究活動

- ・実務家講師による「食」をテーマとした製品・サービス開発講座イノベーションチャレンジプログラム(農学部正課授業)
- ・まちづくりや地域の第一線で活躍するゲストのトーク&対話を通して自分のこれからの学びや将来像を考えるプログラム(都市情報学部正課授業・1年次開講基軸科目)
- ・JA尾張中央の直産店舗の活性化策提案(経営学部ゼミ活動)

2 学外機関と連携した学びの場づくり

- ・リーダーシップ開発プログラムiMPACT! (テーマ提供・協賛:株式会社エクシング、アビームシステムズ株式会社)
- ・アントレプレナー(起業家) 育成プログラムEXPLORER
- ・ヤフー株式会社と連携した学内ハッカソン「HACK U 名城大学」
- ・都市情報学部MS-26「地域と協同し課題の発見・提案・解決を実践的に学ぶ学生主体の教育プログラム CBML" Community Based Machizukuri Learning"」(フィールド:名古屋市中区)
- ・持続可能な地域づくりを考える奈良県山添村「ローカルベンチャーラボ ヤマラボ」

3 学外機関と連携したプロジェクト開発

- ・名古屋商工会議所・名鉄協商株式会社「カリテコバイクで行くなごや和菓子旅」PR動画作成
- ・名古屋ダイヤモンドフィフズとの連携による、これからのプロスポーツビジネスのあり方を探求する「プロスポーツビジネス研究会」。地元バスケットチームのファン獲得を通じた地域共創をテーマにプロジェクト実施。
- ・長野県南木曽中学校と連携したオンライン学習支援プロジェクト

社会連携ゾーン shake

パートナーシップ団体数 153団体 (令和4年3月31日時点)

学費・奨学金

■ 学費一覧

学部(2023度入学生)

(円)

学年	1 年次					2・3・4 年次			
学部	入学金	授業料	実験実習費	施設費	年額合計	授業料	実験実習費	施設費	年額合計
法学部	200,000	665,000	—	180,000	1,045,000	665,000	—	180,000	845,000
経営学部	200,000	665,000	—	180,000	1,045,000	665,000	—	180,000	845,000
経済学部	200,000	665,000	—	180,000	1,045,000	665,000	—	180,000	845,000
外国語学部	200,000	940,000	—	250,000	1,390,000	940,000	—	250,000	1,190,000
人間学部	200,000	725,000	—	180,000	1,105,000	725,000	—	180,000	905,000
都市情報学部	200,000	835,000	—	310,000	1,345,000	835,000	—	310,000	1,145,000
理工学部	200,000	935,000	80,000	230,000	1,445,000	935,000	80,000	230,000	1,245,000
農学部	200,000	935,000	80,000	270,000	1,485,000	935,000	80,000	270,000	1,285,000
情報工学部	200,000	935,000	80,000	230,000	1,445,000	935,000	80,000	230,000	1,245,000

(円)

学年	1年次					2・3・4年次				5年次				6年次			
学部	入学金	授業料	実験実習費	施設費	年額合計	授業料	実験実習費	施設費	年額合計	授業料	実験実習費	施設費	年額合計	授業料	実験実習費	施設費	年額合計
薬学部	200,000	1,380,000	200,000	320,000	2,100,000	1,380,000	200,000	320,000	1,900,000	1,380,000	500,000	320,000	2,200,000	1,380,000	200,000	320,000	1,900,000

研究科(2023年度入学生)

(円)

学年	1年次					2年次					3年次			
研究科	課程	入学金	授業料	実験実習費	施設費	年額合計	授業料	実験実習費	施設費	年額合計	授業料	実験実習費	施設費	年額合計
法学研究科	修士課程	130,000	530,000	—	80,000	740,000	530,000	—	80,000	610,000	—	—	—	—
	博士後期課程	130,000	530,000	—	80,000	740,000	530,000	—	80,000	610,000	530,000	—	80,000	610,000
経営学研究科	修士課程	130,000	530,000	—	80,000	740,000	530,000	—	80,000	610,000	—	—	—	—
	博士後期課程	130,000	530,000	—	80,000	740,000	530,000	—	80,000	610,000	530,000	—	80,000	610,000
経済学研究科	修士課程	130,000	530,000	—	80,000	740,000	530,000	—	80,000	610,000	—	—	—	—
	博士後期課程	130,000	530,000	—	80,000	740,000	530,000	—	80,000	610,000	530,000	—	80,000	610,000
人間学研究科	修士課程	130,000	580,000	—	80,000	790,000	580,000	—	80,000	660,000	—	—	—	—
都市情報学研究科	修士課程	130,000	690,000	—	100,000	920,000	690,000	—	100,000	790,000	—	—	—	—
	博士後期課程	130,000	690,000	—	100,000	920,000	690,000	—	100,000	790,000	690,000	—	100,000	790,000
理工学研究科	修士課程・博士前期課程	130,000	640,000	120,000	100,000	990,000	640,000	120,000	100,000	860,000	—	—	—	—
	博士課程・博士後期課程	130,000	640,000	120,000	100,000	990,000	640,000	120,000	100,000	860,000	640,000	120,000	100,000	860,000
農学研究科	修士課程	130,000	620,000	120,000	100,000	970,000	620,000	120,000	100,000	840,000	—	—	—	—
	博士後期課程	130,000	620,000	120,000	100,000	970,000	620,000	120,000	100,000	840,000	620,000	120,000	100,000	840,000
総合学術研究科	博士前期課程	130,000	700,000	—	100,000	930,000	700,000	—	100,000	800,000	—	—	—	—
	博士後期課程	130,000	700,000	—	100,000	930,000	700,000	—	100,000	800,000	700,000	—	100,000	800,000

(円)

学年		1年次					2 年次				3年次				4 年次			
学部	課程	入学金	授業料	実験実習費	施設費	年額合計	授業料	実験実習費	施設費	年額合計	授業料	実験実習費	施設費	年額合計	授業料	実験実習費	施設費	年額合計
薬学研究科	博士課程(4年制)	130,000	640,000	120,000	100,000	990,000	640,000	120,000	100,000	860,000	640,000	120,000	100,000	860,000	640,000	120,000	100,000	860,000

(注) 1.入学手続時納入金は、入学金と1年次の「授業料・実験実習費・施設費」の2分の1の金額(前期分)を合計した額です。
2.授業料等の学費は、毎年次、前期(納期5月10日)・後期(納期10月10日)の2回分納方式です。

■ 奨学生制度

さまざまな奨学生制度が用意され、経済的な面からも学生をサポートしています。2022年度の学内奨学生制度における奨学費支出総額は、約2.4億円でした。

■ 名城大学学内奨学生(2022年度) ※各種奨学生制度は、事情により変更する場合があります。

1. 学業優秀にかかる奨学生(給付)

種類	資格	人数	給付額
入試成績優秀奨学生	一般入学試験(A方式)において、各学部成績上位の合格者(対象者約400名)の内、入学した者	対象者全員	授業料年額の1/2 (入学年度のみ)
学業優秀奨励制度	新3年次生で、2年次までの学業成績および人物優秀者 (薬学科は新5年次生で、4年次までの学業成績および人物優秀者) 成績基準: 次の(1)および(2)に該当する者 (1)2年次までに62単位以上(教職および学芸員に関する授業科目、自由科目を除く。)を、修得している者 薬学科は4年次までに150単位以上を、修得している者 (2)履修登録科目の平均点が80点以上の者	260人	3万円相当の金品
学業優秀奨学生	新4年次生で、3年次までの学業成績および人物優秀者 成績基準: 次の(1)および(2)に該当する者 (1)3年次までに93単位以上(教職および学芸員に関する授業科目、自由科目を除く。)を、 修得している者で、卒業見込みの者(薬学科を除く) (2)履修登録科目の平均点が80点以上の者	各学科で1人 (薬学科は2人)	授業料年額の1/2

2. 修学援助にかかる奨学生(給付)

種類	資格	人数	給付額
修学援助A奨学生(※1)	学部生(1年次を除く)で修学の意思があるにもかかわらず、経済的理由により修学が困難な者。 家計基準: 同一世帯の前年度所得合計額から別表(※)による控除後の合計額が200万円以下とする。 ただし、事業所得者の前年所得合計額がマイナスの場合は、0円として計上する。 成績基準: 卒業に必要な単位数を修業年数で割った単位数の当該年次までの累計以上の修得者で、各学科の 上位2分の1以内。ただし、外国人留学生の場合は、全学部外国人留学生の上位2分の1以内とする。 ※別表は募集時期に本学ウェブサイトでご公表いたします。	90人以内	年額一律30万円
修学援助B奨学生	学部生、大学院生で主たる家計支持者(学資負担者)の死亡、疾病、失業(自己都合を除く)、または、火災、風水害等の被害により家計が急変し、修学の意思があるにもかかわらず、経済的に著しく困難となった者。 家計基準: 同一世帯の前年度所得合計額(学資負担者を除く)から別表(※)による控除後の合計額が200万円以下とする。ただし、事業所得者の前年所得合計額がマイナスの場合は、0円として計上する。 成績基準: 学修意欲があり、学業を継続して確実に修了できる見込みがあること。 ※別表は窓口で申請書類とともにお渡しいたします。	該当する者全員	年額一律30万円
利子補給奨学生	経済的な理由により、本学と提携する銀行(三菱UFJ銀行)の教育ローンを利用した者。 最短修業年限に相当する年数を限度として給付。	該当する者全員	当該年度までの学費を限度とする借入額の支払利子に、教育ローン利用者の年収に応じた給付率(50%または100%)を乗じた額
大規模自然災害 経済支援奨学生	災害救助法が適用された(または外務省による国際緊急援助が行われた)大規模自然災害により家計が急変し、修学が困難になった学生および入学試験出願者。	該当する者全員	授業料・実験実習費・施設費の年額、または年額の1/2(被災状況による)。入学試験出願者は、入学検定料、入学金の全額も給付する。
緊急修学援助奨学生	新型コロナウイルス感染症の影響による経済事情の悪化に伴い、家計が急変し、学費(授業料、施設費、実験実習費)の納入が著しく困難と認められた学生。 家計基準: 下記①かつ②の基準に該当する者のみ ①次のアまたはイのいずれかに該当すること。 ア.新型コロナウイルス感染症の影響による収入減少があった者等を支援対象として、国および地方公共団体が実施する公的支援の受給証明書、または、これに類するものと認められる公的証明書が提出できること。 イ.主たる家計支持者一人の令和3年の所得金額が、令和元年又は令和2年の所得金額と比較し2分の1以下となっていること。または、令和4年の所得見込額が令和元年、令和2年もしくは令和3年の所得金額と比較し、2分の1以下となっていること。 ②主たる家計支持者一人の令和3年の所得金額、もしくは令和4年の所得見込額が給与所得者の場合は841万円以下(給与所得者以外355万円以下)であること。 成績基準: 学修意欲があり、学業を継続して確実に修了できる見込みがあること。	該当する者全員	30万円上限

※1 2022年度入学者までを対象とする。

学費・奨学金

3. その他の学内奨学生(給付)

種類	資格	人数	給付額
校友会奨学生	人物優秀者で学業成績または体育技能優秀者	校友会が指定	校友会が決定
社会人学生奨学生	社会人入学試験により入学した学部生	該当する者全員	授業料および 実験実習費年額の1/2
私費外国人留学生A奨学生	在留資格が「留学」の私費外国人留学生で、経済的に就学が困難であると認められる者	該当する者全員	授業料年額の3/10
派遣交換留学奨学生	海外協定校との交換留学制度に基づく留学を認められた者で人物・学業成績優秀者、または各該言語の語学能力検定試験高得点取得者。 留学期間が3カ月以上1年以内を対象とする。留学期間が3カ月未満の場合は海外研修奨学生として取り扱う。	30人以内	[アジアへの交換留学] 月額4万円 [アジア以外への交換留学] 月額6万円
海外研修奨学生	本大学の大学間学術交流協定(条件を満たす学部または研究科間を含む)に基づく海外研修者で、研修期間が7日以上の方。ただし、人間学部の海外研修Iは除く。	該当する者全員	5万円
本学卒業等補助奨学生	①本学卒で研究科、他の学部へ入学する者 ②本学に籍を置いた者で退学ののち、再度入学する者	該当する者全員	入学金の額
法学部中山健男奨学金	名城大学法学部および大学院法学研究科在学生のうち、学業成績・人物ともに優れている者または学内外における諸活動において顕著な成績を収めた者。	4人以内	20万円
海外英語研修派遣支援A奨学生	国際化推進センターが募集する海外英語研修プログラムまたは学部等と国際化推進センターによる連携海外英語研修プログラムに参加する者で、学部等の国際委員会が実施する選考により採用された者	毎年180人以内	20万円または 研修費用総額の1/2の いずれか少ない額
海外英語研修派遣支援B奨学生	国際化推進センターが募集する海外英語研修プログラムまたは学部等と国際化推進センターによる連携海外英語研修プログラムに参加する者	該当する者全員	5万円

各種奨学制度は、授業料および実験実習費の年額を超えない範囲で重複可能。
ただし、本学卒業等補助奨学生と校友会奨学生の特別奨学生は、授業料および実験実習費の年額の範囲を超えて重複可能。

4. 特に大学院生を対象とする奨学生(給付)

種類	資格	人数	給付額
大学院学業優秀奨学生	大学院生で、学業成績および人物優秀者	90人	年額一律30万円
大学院奨学生	各研究科の基準による	各研究科の基準による	各研究科の基準による
本学卒業等補助奨学生	①本学卒で研究科、他の学部へ入学する者 ②本学に籍を置いた者で退学ののち、再度入学する者	該当する者全員	入学金の額
赤崎勇賞	大学院博士後期課程又は博士課程在学生のうち、教育研究活動等に関する業績が特に優れている者(理工学研究科においては博士前期課程又は修士課程も含める)	各年度5名 (理工学研究科から4名+ 理工学研究科を含む 全研究科から1名)	一律20万円
日本学術振興会 特別研究員奨学生	日本学術振興会特別研究員(DC1、DC2)に採用された者	該当する者全員	授業料・実験実習費・ 施設費の額

各種奨学制度は、授業料および実験実習費の年額を超えない範囲で重複可能。
ただし、本学卒業等補助奨学生と校友会奨学生の特別奨学生は、授業料および実験実習費の年額の範囲を超えて重複可能。

クラブ活動

■ 公認クラブ一覧 (127 団体) (2023年6月1日現在)

体育会

42団体

合気道部
アメリカンフットボール部
居合道部
応援団(リーダー部、吹奏楽部、チアリーディング部)
空手道部
弓道部
剣道部
航空部
硬式庭球部
硬式野球部
ゴルフ部
サイクリング同好会
自動車部
蹴球部
柔道部
準硬式野球部
少林寺拳法部
女子駅伝部
水上競技部
スキー部
スキューバダイビング部
ソフトテニス部
ソフトボール部
卓球部
テコンドー部
軟式野球部
日本拳法部
バーベルトレーニング部
馬術部
バスケットボール部
バドミントン部
バレーボール部
ハンドボール部
フットサル部
舞踏研究会
洋弓部
ヨット部
ライフル射撃部
ラグビー部
ラクロス部
陸上競技部
ワンダーフォーゲル部

文化会

23団体

アカペラサークル「はもりね」
囲碁部
管弦楽団
ギターアンサンブル部
ギターマンドリン合奏団
喫茶同好会
教職研究会
軽音楽部
劇団「獅子」
茶道部
児童文化研究会「かざぐるま」
シネマ研究会
将棋部
証券研究会
新聞会
世界民族音楽研究会
旅研究会「一里塚」
美術部
放送部
漫画アニメSF研究会
モダンジャズ研究会
ライトノベル研究会
落語研究会

理工学部学生自治会

16団体

e-sports研究会
エコノパワークラブ
空手道部
建築デザインクラブ「tenon」
自動車技術研究会
社会科学研究会
写真部
ストリートダンスサークル
造芸部
鉄道研究会
名古屋学生の会
バドミントン部
フォークデュオサークル
マンガアニメ愛好会
木造建築研究会
ロボット倶楽部

農学部学生会

7団体

花卉クラブ
写真部
趣味の園芸愛好会
日本酒研究会
農学探究ゼミナール
ハイキング部
野生動物生態研究会

薬学部学生会

28団体

【文化局】
医療系研究会「オピス」
英語会話同好会
SRC同好会
管弦楽部
漢方医学研究部
奇術部
軽音楽部
茶道部
写真部
植物研究部
ストリートダンス部
箏曲部
天文部
美術部
フォークソング部
薬学研究部
【体育局】
硬式庭球部
硬式野球部
ゴルフ部
女子バレーボール部
ソフトテニス部
卓球部
男子バレーボール部
バスケットボール部
バドミントン部
フットサル部
ラグビー部
陸上競技部

ナゴヤドーム前キャンパス

11団体

音楽部「Bremen」
硬式庭球部
ダンスサークル「liberte」
軟式野球部
バスケットボール部
バドミントン部
バレーボール部
ハワイアン民俗研究部「Meijo オハナ」
フットサルサークル「Golazo!」
文芸サークル
まちと学生をつなぐサークル「Lプラネット」

■ ボランティア協議会

ボランティア協議会は、名城大学の学生がボランティア活動を実践し、社会の一員として地域社会に貢献することを目的として2004年(平成16年)7月に発足しました。きっかけは一人の学生によるタバコの吸い殻拾い。この活動が徐々に広がり、学生のみならず教職員を巻き込んだ「クリーンアップ大作戦」へと発展、ボランティア協議会設立に至りました。現在は5つの活動を柱として活躍の場を広げています。

▶ 災害復興ボランティア

宮城県気仙沼市大島をメインに被災地にて奉仕活動をしています。災害・防災・復興について学びながら災害復興のお手伝いをしています。

▶ 環境ボランティア

学内および大学周辺地域における清掃活動やペットボトルのキャップを集めて発展途上国にワクチンを送る活動を行っています。

▶ 福祉ボランティア

高齢者施設でのレクリエーションの実施や、中部盲導犬協会と連携し、視覚障がい者の方々と交流を行っています。

▶ 地域安全パトロール

学生による大学周辺の地域防犯活動を週1～2回実施。太白警察署と連携したパトロールも実施しています。

▶ こどもボランティア

学び・体験・交流活動の場で、子どもたちが楽しむ居場所づくりを目指し、様々なイベントに参加しています。

キャンパスと設備

天白キャンパス

法学部、経営学部、経済学部、情報工学部、理工学部、農学部
法学研究科、経営学研究科、経済学研究科、理工学研究科、農学研究科、総合学術研究科

総合大学にふさわしい学びの環境が整ったメインキャンパス。

大学のシンボル「タワー75」、各講義棟や実験棟などに最新の教育機器を完備している。

■ 特徴ある施設等

情報処理室等

高度なAVシステム環境を有するとともに、基本的なパソコン操作の情報リテラシー講義から教育研究に必要な専門ソフトを使った専門講義まで対応し、講義時間以外では自学・自習ができるよう自由開放をしています。

設置場所・教室名等	端末台数(学生機のみ)
タワー75 6・7階 情報処理教室	704
共通講義棟東 情報処理教室	326
共通講義棟南 LL教室、LL自習室	205

バリアフリー設備

男女別多目的トイレ、エレベーター、連絡ブリッジ、自動ドア、引き戸、ローカウンター、難聴者システム、車椅子対応机・椅子、点字ブロック など

自然エネルギーの利用

自然換気・採光、太陽光発電、屋上緑化、壁面緑化、クールトンネル など

省エネルギー手法の採用

コージェネレーション、蓄熱システム、断熱塗料、空調照明制御、垂直ルーバー、高効率空調システム、BEMS、セントラル空調方式 など

■ キャンパスマップ

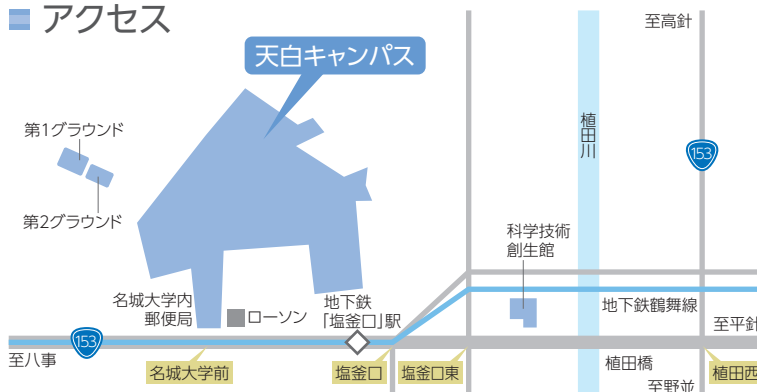


- ① タワー75:学務センター、教職センター、学術研究支援センター、キャリアセンター、国際化推進センター、情報センター、社会連携センター、研究室、大学院演習室、大学院研究室、自習室(大学院・学部学生)、情報処理教室、展望ラウンジ、カーサ(食堂)、オリーブ(食堂)、そらいろラウンジ(食堂)、スクエア(売店)、トラベルサロン赤い風船(旅行代理店)、ATMコーナー
- ② 共通講義棟北:名城ホール、講義室、演習室、グローバルプラザ、模擬法廷、学部事務局(法学部・経営学部・経済学部・農学部)、名城食堂(食堂)、MU SHOP LIONA(売店)
- ③ 共通講義棟南:講義室、演習室、LL教室、学習サポートルーム、ピアサポートルーム
- ④ 共通講義棟東:講義室、演習室、情報処理教室、第2書庫
- ⑤ 研究実験棟I:実験室、研究室、農学部資料室
- ⑥ 6号館:共同練習場、スガキヤ(食堂)、グラン亭・ミラノ(食堂)
- ⑦ 7号館:クラブハウス、共同練習場、会議室
- ⑧ 8号館:クラブハウス、共同練習場、音楽練習室、会議室 ⑨ 9号館:実験室、研究室
- ⑩ 10号館:研究室、法学部資料室、経営学部・経済学部資料室
- ⑪ 11号館:演習室、研究室、理工学部事務局、実験室
- ⑫ 12号館:講義室、研究室、障がい学生支援センター、情報理工学部事務局
- ⑬ 13号館:研究所、実験室、研究室 ⑭ 14号館:実験室
- ⑮ 研究実験棟II:研究室、実験演習室、理工学部学科事務局、ラボカフェ(売店)
- ⑯ 体育館 ⑰ 附属図書館
- ⑱ 本部棟:入学センター、保健センター、大学教育開発センター、総合企画部、総務部、渉外部、財務部、施設部、ちくさ正文館(書店)、ATMコーナー
- ⑲ 校友会館:校友会事務局、赤崎・天野ノーベル賞記念展示室、シャトー(喫茶店)、Green Bakery Book CAFE(喫茶店)、理容室
- ⑳ 温室 ㉑ 第1グラウンド ㉒ 第2グラウンド ㉓ 科学技術創生館
- ㉔ 研究実験棟III:研究室、実験室、演習室、M's SHOP(売店)、理工学部情報理工学部学科事務局
- ㉕ 研究実験棟IV:講義室、研究室、実験室、製図室、理工学部学科事務局

校舎等現有面積 (2023年5月1日現在)

校舎	現有面積	校舎	現有面積	校舎	現有面積
タワー75	20,919㎡	6号館	3,557㎡	14号館	851㎡
共通講義棟北	23,534㎡	7号館	1,763㎡	体育館	3,604㎡
共通講義棟南	11,238㎡	8号館	3,405㎡	附属図書館	10,825㎡
共通講義棟東	12,218㎡	9号館	3,158㎡	本部棟	4,914㎡
研究実験棟I	5,015㎡	10号館	5,289㎡	校友会館	1,917㎡
研究実験棟II	19,157㎡	11号館	5,907㎡	科学技術創生館	1,438㎡
研究実験棟III	12,243㎡	12号館	2,699㎡	その他	434㎡
研究実験棟IV	16,057㎡	13号館	1,524㎡	合計	171,666㎡

■ アクセス



地下鉄鶴舞線「塩釜口／名城大学前」駅下車、1番出口徒歩約4分

キャンパスと設備

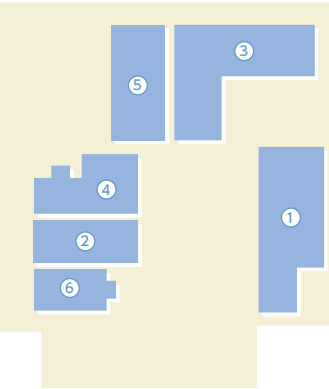


キャンパスと設備

八事キャンパス 薬学部 薬学研究科

丘の上のキャンパスは東海地方で最も伝統のある私大薬学部。
半世紀を超える伝統と実績を生かし、薬学教育の理想を追求する。

■ キャンパスマップ



校舎等現有面積 (2023年5月1日現在)

校舎	現有面積
新1号館	10,122㎡
新2号館	7,425㎡
新3号館	5,447㎡
7号館	6,991㎡
体育館	1,398㎡
学生会館 城薬ホール	1,402㎡
その他	41㎡
合計	32,826㎡

マルチメディア教室	端末台数 (学生機のみ)
新1号館6F マルチメディア教室	148
新3号館4F マルチメディア教室Ⅱ	150

- ① 新1号館: ライフサイエンスホール、講義室、研究室、マルチメディア教室、医薬情報センター、モデル薬局、附属図書館(薬学部分館)、保健センター分室、学生相談室、ダイニング・ハープ(食堂)、樹里庵(喫茶店)、T-COURT(売店)
- ② 新2号館: 研究室、分析センター、ラジオアイソトープ実験施設、実験動物施設
- ③ 新3号館: 講義室、標本室、マルチメディア教室、研究室、教員室、MU SHOP LIONA(売店)
- ④ 7号館: 分析センター第3分室、実習室、研究室
- ⑤ 体育館
- ⑥ 学生会館 城薬ホール: クラブハウス

■ アクセス



地下鉄鶴舞線・名城線「八事」駅下車、6番出口徒歩約6分

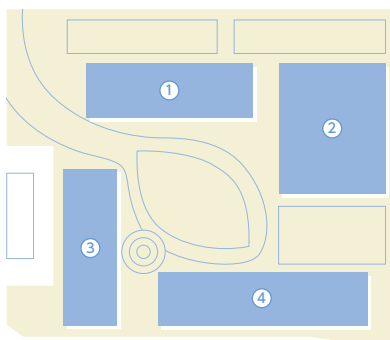


ナゴヤドーム前キャンパス

外国語学部、人間学部、都市情報学部 人間学研究科、都市情報学研究科

「キャンパスから地域へ、キャンパスから世界へ。」をコンセプトに2016年4月に誕生。
豊かな出会いと交流を生み出す開放的なキャンパスを実現しています。

■ キャンパスマップ



校舎等現有面積(2023年5月1日現在)

校舎	現有面積
北・東館	13,727㎡
西・南館	18,833㎡
合計	32,560㎡

コンピュータ教室	端末台数 (学生機のみ)
南館5F コンピュータ教室	217

- ① 北館: カフェテリアレストラン「MU GARDEN TERRACE」(食堂)、グローバルプラザ、ラーニングcommons「wake」、外国語学部資料室、講義室、演習室、研究室など
- ② 東館: 図書館、購買、保健室、学生相談室、フレンドリーサロン、学習サポートルーム、エクステンション学習室、教職学習室、マルチスタジオ、クラブハウス、体育館など
- ③ 西館: 事務室、社会連携ゾーン「shake」、レセプションホール、会議室、演習室、講義室、人間学部資料室、ゼミ室、研究室など
- ④ 南館: DSホール、講義室、多目的室、コンピュータ教室、研究室、ゼミ室、都市情報学部資料室など

■ アクセス



JR中央本線・名鉄瀬戸線「大曽根」駅下車、徒歩約10分
地下鉄名城線「ナゴヤドーム前矢田」駅下車、2番出口徒歩約3分
ゆとりとライン「ナゴヤドーム前矢田」駅下車、徒歩約5分

キャンパスと設備



キャンパスと設備

春日井(鷹来)キャンパス

農学部附属農場

校舎等現有面積(2023年5月1日現在)

校舎	現有面積
本館	2,600㎡
教育研究館	1,495㎡
家畜舎	877㎡
セミナーハウス	501㎡
その他	1,507㎡
合計	6,980㎡



グラウンド等

校舎等現有面積(2023年5月1日現在)

校舎	現有面積
日進キャンパス(日進総合グラウンド)	2,925㎡
第1・第2グラウンド	967㎡
その他	1,935㎡
合計	5,827㎡



校地等現有面積(2023年5月1日現在)

校地	現有面積	校地	現有面積
天白キャンパス	129,366㎡	日進キャンパス	106,222㎡
八事キャンパス	17,553㎡	第1・第2グラウンド	46,331㎡
ナゴヤドーム前キャンパス	17,937㎡	クラブ寮敷地	1,514㎡
春日井(鷹来)キャンパス	136,860㎡	瀬戸校地(演習林)	31,795㎡
		可児校地(別法人に貸出中)	130,476㎡
総計 618,054(※2,535)㎡			

※は借用地を内数で示す。

附属図書館

知的空間としての学習・研究支援

附属図書館は「知」の発信拠点として本館と2つの分館で運営しています。
 天白キャンパスにある本館は、地下1階地上5階建てで書庫、視聴覚室、グループ学習室、多読図書室、閲覧室、学習室、グループ研究室、メディア室等を配置しています。
 八事キャンパスにある分館は、薬学の専門図書館としての機能を持たせるため、蔵書は薬学や医学の専門書を中心とした構成となっています。
 ナゴヤドーム前キャンパスにある分館は、語学、教育学、都市情報学に関する資料を中心に取り揃えています。また、最先端の情報通信技術と機器を導入し、学習研究活動を支援しています。ラーニングcommons等、アクティブな学びができる環境を整えています。また、2022年度から全館でSDGsコーナーを設置し、学生、教職員がSDGsの課題を自らの問題として捉え、学びを深めていく環境を整備しました。
 学術雑誌の電子化、電子書籍の普及等により、図書館を取り巻く環境が大きく変わろうとしています。当館では、これら電子媒体と冊子体との共存共栄を図りつつ、利用者側の目線に立った魅力ある図書館づくりに取り組んでいます。



(天白キャンパス)

〔休館日〕

- 休講期(7月・8月・9月・1月・2月・3月)に日曜日、国民の祝日(分館を除く)
- 夏季および冬季の各休業日の一定期間
- その他必要に応じて定める臨時休館日

開館時間

館名	平日	土曜日	日曜日・祝日
本館	9:00～21:00	9:00～18:00	休館
薬学部分館	9:00～21:00	9:00～18:00	休館
ナゴヤドーム前キャンパス図書館	9:00～21:00	9:00～18:00	休館

蔵書冊数(2023年3月31日現在)

和書	洋書	合計
838,668	389,000	1,227,668

図書受入冊数(2023年3月31日現在)

	2020	2021	2022
和書	12,514	12,470	13,334
洋書	1,422	1,637	1,582
合計	13,936	14,107	14,916

雑誌タイトル数(2023年3月31日現在)

和雑誌	洋雑誌	合計
15,170	6,880	22,050

雑誌受入種数(2023年3月31日現在)

	2020	2021	2022
和雑誌	2,422	1,682	1,759
洋雑誌	482	428	429
合計	2,904	2,110	2,188

本館

開館状況・館外貸出冊数

▼区分	年度▶	2020	2021	2022
開館状況	開館日数	215	281	275
	入館者数	62,602	152,815	182,266
	教職員	3,021	4,140	4,901
館外貸出冊数	学生	22,966	35,055	43,393
	学外者	21	24	14
	合計	26,008	39,219	48,308

相互利用件数

▼区分	年度▶	2020	2021	2022
相互貸借	受付	64	40	44
	依頼	51	72	58
文献複写	受付	196	219	337
	依頼	256	297	193

レファレンス件数

▼区分	年度▶	2020	2021	2022
所蔵調査		1,113	1,864	1,932
事項調査		995	1,596	1,310
利用指導		2,496	3,226	2,814

各施設利用件数

▼区分	年度▶	2020	2021	2022
視聴覚室		0	0	0
グループ研究室		1	0	0
グループ学習室		0	0	0

薬学部分館

開館状況・館外貸出冊数

▼区分	年度▶	2020	2021	2022
開館状況	開館日数	213	284	283
	入館者数	14,963	28,787	37,607
	教職員	50	500	2,924
館外貸出冊数	学生	1,089	2,129	137
	学外者	0	5	0
	合計	1,139	2,634	3,061

相互利用件数

▼区分	年度▶	2020	2021	2022
相互貸借	受付	0	0	0
	依頼	0	1	1
文献複写	受付	19	27	24
	依頼	258	429	207

レファレンス件数

▼区分	年度▶	2020	2021	2022
所蔵調査		380	578	718
事項調査		1	433	597
利用指導		124	432	707

各施設利用件数

▼区分	年度▶	2020	2021	2022
所蔵調査		380	578	718
事項調査		1	433	597
利用指導		124	432	707

ナゴヤドーム前キャンパス図書館

開館状況・館外貸出冊数

▼区分	年度▶	2020	2021	2022
開館状況	開館日数	211	275	275
	入館者数	28,605	48,231	53,533
	教職員	1,174	2,065	2,523
館外貸出冊数	学生	11,504	17,435	21,273
	学外者	0	18	20
	合計	12,678	19,518	23,816

相互利用件数

▼区分	年度▶	2020	2021	2022
相互貸借	受付	1	5	2
	依頼	31	28	30
文献複写	受付	24	20	30
	依頼	90	128	59

レファレンス件数

▼区分	年度▶	2020	2021	2022
所蔵調査		466	755	552
事項調査		157	240	122
利用指導		725	1,436	1,087

各施設利用件数

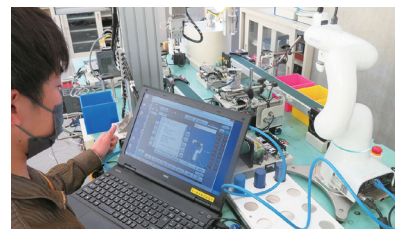
▼区分	年度▶	2020	2021	2022
グループ学習室		0	0	0

※2020年途中より、コロナのため閉室

※沿革については、図書館ホームページをご覧ください。<https://www.meijo-u.ac.jp/library/outline/organization.html>

愛知県立愛知総合工科高等学校 専攻科

愛知県立愛知総合工科高等学校専攻科(2年制課程)は、愛知県が国家戦略特区の認定を受け、2017年4月から学校法人名城大学が指定管理法人となって運営している、全国初の「公設民営」の教育機関です。名城大学創設以来、取り組んできた工学教育の成果と学校経営のノウハウを最大限に活用し、機械、電気に関する高度な技術・技能を学ぶ“魅力ある学校づくり”を推進しています。



■ 専攻科の教育目標

「ものづくり愛知」の次世代を担う、生産現場のリーダーとなる人材を育成する

■ 専攻科の特色



- ・講義科目では、高度な研究力を有する大学の教授陣から、技術者、技能者としての知見を広め、生産現場の実践力となる基礎的な理論、技術論を学びます。
- ・実習科目では、現代の名工、ものづくりマイスター、技能五輪メダリスト、技能五輪選手指導者など、社会から高い評価を受けている民間企業の生産現場で活躍する技術者・技能者から直接指導を受け、“ものづくり愛知”を支える高度な技術・技能とともに、生産現場で必要とされる創意工夫の方法論を学びます。
- ・コース実習・総合実習では、民間企業出身の生産現場で活躍する技術者・技能者の先生と愛知県教育委員会からの派遣教員のチームによる授業が行われています。

高度な技術・技能を身につける“特色ある実習教育”

教育課程は、実習科目の割合が40%を占めています。実習には、それぞれの科・コースをユニットとする“コース実習”と、科・コースの枠組みを超えて設定された研究テーマに基づく製作実習を行う“総合実習”を開設しており、生産現場の動向・ニーズに対応した実習プログラムにより、高度な技術・技能を身につけていきます。



最先端の設備・環境

最先端の実習設備を完備し、きめ細やかな指導が行われています。「若年者ものづくり競技大会」への出場・入賞、技能検定2級の合格を目指します。



■ 学科・コース紹介

▶ 高度技術科(入学定員20名)

自動車・航空コース(入学定員10名)

自動車・航空機の構造や仕組み、自動加工技術など、運輸機械の製造に関わる高度な技術を身に付けた産業人材の育成を目指します。

電気・制御コース(入学定員10名)

発電や送電を行う電力システムや電気機器の制御技術など、電気エネルギー産業に関わる高度な技術を身に付けた産業人材の育成を目指します。

▶ 先端技術科(入学定員20名)

情報・ITコース(入学定員10名)

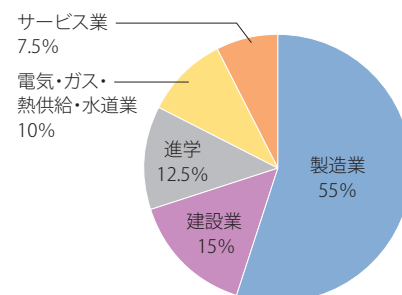
AIやIoTに代表される情報処理技術など、情報通信に関わる先端技術を身に付けた産業人材の育成を目指します。

電子・ロボットコース(入学定員10名)

半導体や電子回路基板、信号処理、ロボット技術など、生産現場のデジタル化に関わる先端技術を身に付けた産業人材の育成を目指します。

■ 修了後の進路

令和4年度修了生(40名)



附属高等学校

普通科 総合学科(両学科とも男女共学)

教育目的

教育基本法・学校教育法の精神に則り、知・徳・体の調和する人格の完成を目指す。
創設以来の伝統に基づき、穏健中正で実行力に富み、国家、社会の信頼に値する人材を育成する。

教育方針

「教育目的」を実現するために、更に次の3つの「教育方針」を定める。
1 礼節を重んじる 2 主体的な行動力を養う 3 多様な経験を積む

■ 本校の特色

平成18年度～(4期目, 通算18年目)

SSH(スーパーサイエンスハイスクール)指定校

令和2年度～

WWL(ワールドワイドラーニング)連携校

令和3年度～

SGH(スーパーグローバルハイスクール)ネットワーク参加校

平成26年度～平成30年度

SGH(スーパーグローバルハイスクール)指定校

文部科学省から様々な指定を受け、高大協創による国際的科学リーダーの育成やグローバルな社会課題を発見・解決できる人材の育成に取り組んでいます。



■ 本校のあゆみ

1926	大正 15年	田中壽一氏により名古屋高等理工科講習所として開設
1928	昭和 3年	名古屋高等理工科学校に名称変更
1942	17年	名古屋市中村区新富町に校舎新築移転
1948	23年	学校教育法により名古屋文理高等学校として開校
1951	26年	名城大学附属高等学校と改称(設置学科:普通・商業・電気・機械)
1965	40年	1963年より始めた校舎の鉄筋工事完成
1978	53年	全館空調設備等総合整備完了 全天候型校庭舗装完工
1987	62年	開学60周年記念第二体育館(屋内温水プール)完成
1997	平成 9年	新校舎の完成
1999	11年	総合学科開設(設置学科:普通科・総合学科) 普通科特別進学クラスを共学化
2002	14年	ISO14001の認証を取得
2003	15年	普通科を共学化、高大一貫7カ年教育の普通科国際クラス設置
2004	16年	総合学科を共学化、全男女共学となる 文部科学省主催 サイエンス・パートナーシップ・プログラム(SPP) 「トライボロジーとその現代社会における役割」採択
2005	17年	文部科学省主催 サイエンス・パートナーシップ・プログラム(SPP) 「人体の不思議と医療技術の進歩」バイオテクノロジーを利用した作物育種」採択
2006	18年	文部科学省所管 スーパーサイエンスハイスクール(SSH)採択校となる
2010	22年	第一体育館兼武道場完成
2011	23年	スーパーサイエンスハイスクール(SSH)2期目の採択校となる
2012	24年	文部科学省コアSSH「地域の中核的拠点形成」に採択
2014	26年	文部科学省所管 スーパーグローバルハイスクール(SGH)採択校となる
2016	28年	スーパーサイエンスハイスクール(SSH)3期目の採択校となる
2021	令和 3年	スーパーサイエンスハイスクール(SSH)4期目の採択校となる

▶ 特進クラス [国公立大学進学を実現]

国公立大学・難関私立大学への進学を目指すクラスです。学習に力を注ぐだけでなく、部活動への参加も推奨しています。机上の学びにとどまらず、SSH・SGHのノウハウを取り入れ、自身で課題を見つけて研究する科目や「総合的な探究の時間」にも力を入れています。さらに、研究成果を発信するために各種研究会や海外研修に参加する機会があります。

▶ スーパーサイエンスクラス [国際的な科学リーダーを育成]

物理・化学・生物に加え、名城独自のスーパーサイエンス教科を学び、理工学系または生化学系への関心を高めます。「SSラボI・II」などの探究活動を通して、探究力や問題解決能力を養います。また、海外研修やタイへの修学旅行により、国際感覚を身につけます。3年間の活動を通して興味や関心を高め、学び続けることにより、国公立大学および名城大学への進学を目指します。

▶ 進学クラス [名城大学進学の中核]

名城大学進学の中核を担っており、附属高校の生徒を対象にした特別推薦制度により、毎年200名程度が進学しています。また、文系・理系を問わず、国公立大学や難関私立大学への合格者も増加しています。探究活動を実施することにより、学問に対する知的好奇心を深め、主体的な考動力を培います。

▶ 国際クラス [世界で活躍できる人材を育成]

SGHおよびWWLの中心クラスとして、「課題探究I・II」や海外研修などの探究活動、英語学習を通して、グローバルリーダーとして活躍できる語学力と幅広い教養、実践力を身につけます。校内での学びだけでなく、地域や企業、海外の学校や機関等、社会と連携した探究と実践を行い、研究発表大会等で成果を発表しています。難関私立大学文文学部や国際系学部への進学を目指します。

▶ 総合学科 [全国屈指の大学進学率]

大学進学に対応しており、進学率が高く、毎年卒業生の約9割が四年制大学に進学しています。社会とつながるキャリア教育・体験型の実技・実習を特徴とし、1年次の「産業社会と人間」の授業では、企業人・大学教員による講話、大学や企業の見学、調べ・まとめ学習のプレゼンテーションなどを行います。2年次には4つの系列(社会探究・地域交流・ビジネス・数理)に分かれて、それぞれの系列の目標に沿ったカリキュラムを実施します。3年次になると各系列で学んだことを生かし、「総合的な探究の時間」で4系列が混ざり合い、与えられた課題を解決する探究学習を行います。これらの主体的に活動する授業を通して、進路目標・キャリア目標の達成を目指します。

■ 生徒数(2023年4月7日現在)

(人)

	普通科				総合学科		計
	特進クラス	スーパーサイエンスクラス	進学クラス	国際クラス	文系	理系	
1年	165	30	319	21	113		648(311)
2年	132	44	302	28	138	40	684(339)
3年	111	26	299	39	125	24	624(328)

※()内の数字は学年毎の女子生徒数

校友会

■ 名城大学校友会

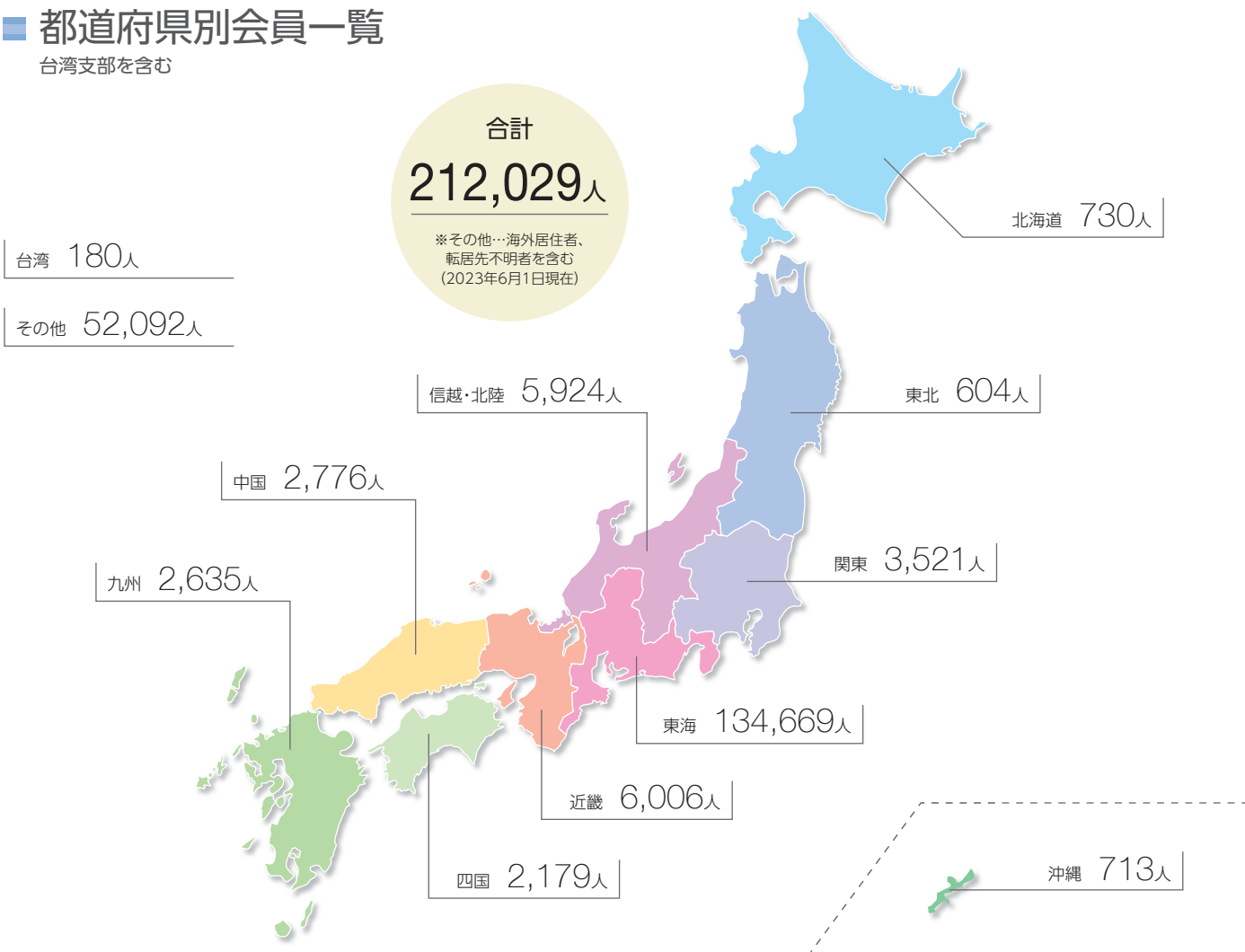
横の連携で後輩をバックアップ
卒業後もかたい絆で結ばれる37支部のヒューマンネット

名城大学校友会は、「会員相互の親睦と協力を基礎として、学術研究の奨励とその普及を図り、もって名城大学の発展に寄与すること」を目的として設立され、卒業生を会員、在学学生を準会員、教職員を特別会員として組織されています。2018年に創立60周年を迎えた伝統ある校友会は、その会員数も21万2千人を超え、全国に36支部、海外に台湾支部を設置し、相互の連携と情報の交換に成果をあげています。さらに会員相互の連携を高めるため、校友会員を対象とした「名城カード」を発行するほか、ウェブサイト을設けてきめ細かい情報の発信に努めています。

また、全国各地で活躍する会員への支援、各同窓会事業への援助をはじめ、会員名簿の管理、校友会報の発行や、特に準会員に対する援助として校友会独自の奨学生制度、学術・文化・スポーツ活動への援助や入学記念品・卒業記念品の配布等、幅広い活動を展開しており、地域とのつながりについても人的ネットワークの強みを発揮し、産官学各方面で活躍している数多くの卒業生会員が親身になって協力しています。

■ 都道府県別会員一覧

台湾支部を含む



■ 都道府県別会員数 (台湾支部を含む)

(人)

北海道	青森県	岩手県	宮城県	秋田県	山形県	福島県	茨城県	栃木県	群馬県	埼玉県	千葉県	東京都	神奈川県	新潟県	富山県	石川県
730	93	69	140	102	96	104	184	150	172	471	481	1,074	783	252	1,398	1,139
福井県	山梨県	長野県	岐阜県	静岡県	愛知県	三重県	滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県	奈良県	和歌山県	鳥取県	島根県	岡山県	広島県
1,374	206	1,761	22,236	4,933	94,763	12,737	1,286	733	1,336	1,648	412	591	293	208	792	1,021
山口県	徳島県	香川県	愛媛県	高知県	福岡県	佐賀県	長崎県	熊本県	大分県	宮崎県	鹿児島県	沖縄県	台湾	不明その他	合計	
462	679	580	548	372	736	233	371	265	334	274	422	713	180	52,092	212,029	

交通案内

▶ 天白キャンパス

法学部 経営学部 経済学部
情報工学部 理工学部 農学部
法学研究科 経営学研究科 経済学研究科
理工学研究科 農学研究科 総合学術研究科

〒468-8502 名古屋市天白区塩釜口一丁目501番地
TEL 052-832-1151 (代)

▶ 八事キャンパス

薬学部 薬学研究科

〒468-8503 名古屋市天白区八事山150番地
TEL 052-832-1151 (代)

▶ ナゴヤドーム前キャンパス

外国語学部 人間学部 都市情報学部
人間学研究科 都市情報学研究科

〒461-8534 名古屋市東区矢田南四丁目102番9
TEL 052-832-1151 (代)

▶ 春日井(鷹来)キャンパス

農学部附属農場

〒486-0804 春日井市鷹来町字菱ヶ池4311番2
TEL 0568-81-2169

▶ 日進キャンパス

日進総合グラウンド

〒470-0102 日進市藤島町長塚75番地
TEL 0561-73-0810

▶ 瀬戸校地

演習林

瀬戸市三沢町一丁目272番地

▶ 名城大学附属高等学校

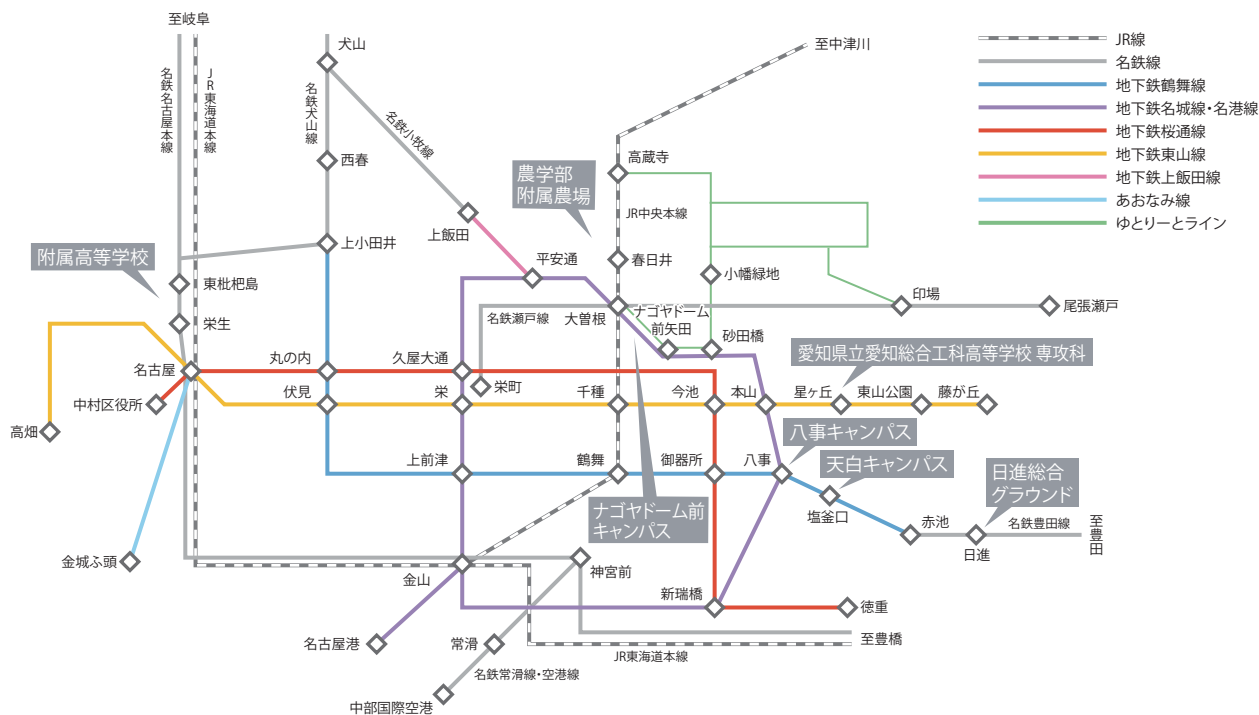
普通科 総合学科

〒453-0031 名古屋市中村区新富町一丁目3番16
TEL 052-481-7436 (代)

▶ 愛知県立愛知総合工科高等学校 専攻科

〒464-0808 名古屋市千種区星が丘山手107
TEL 052-788-7200

交通案内



天白キャンパス

▶ 地下鉄鶴舞線「塩釜口/名城大学前」駅下車、1番出口徒歩約4分

八事キャンパス

▶ 地下鉄鶴舞線・名城線「八事」駅下車、6番出口徒歩約6分

ナゴヤドーム前キャンパス

- ▶ JR中央本線・名鉄瀬戸線「大曽根」駅下車、徒歩約10分
- ▶ 地下鉄名城線「ナゴヤドーム前矢田」駅下車、2番出口徒歩約3分
- ▶ ゆとりーとライン「ナゴヤドーム前矢田」駅下車、徒歩約5分

春日井(鷹来)キャンパス(農学部附属農場)

▶ JR中央本線「春日井」駅下車、名鉄バス「小牧」行きで「総合体育館前」下車、北方向に徒歩約3分

日進キャンパス(日進総合グラウンド)

▶ 地下鉄東山線「星ヶ丘」駅下車、名鉄バス「五色園」行きで「五色園」下車、徒歩約10分

名城大学附属高等学校

- ▶ 名鉄名古屋本線「東枇杷島」駅下車、徒歩約5分
- ▶ 同「栄生」駅下車、徒歩約8分

愛知県立愛知総合工科高等学校 専攻科

▶ 地下鉄東山線「星ヶ丘」駅下車、2番出口徒歩約4分



名城大学
Meijo University

MEIJOth
MEIJO UNIVERSITY 1926 $\rightarrow$ 2026

